

豊田厚生病院年報

平成 29 年度

Toyotakosei Hospital Annual Report 2017

豊田厚生病院理念

私たちはたえず
新しい医療のあり方を追求し
優しさと温かさを大切にして
地域の人たちと共に歩みます



基本方針

私たちは、次の基本方針に基づいて患者に適切な医療・保健・福祉サービスを提供します。

1. 公的病院として、地域住民の健康増進・病気の治療と予防に努めます。
2. 患者の権利に配慮した安全で安心できる医療・保健・福祉サービスの提供を行います。
3. 常に医学の進歩に目を向け、人的・設備的な質向上に努めます。
4. 地域の医療機関との緊密な連携を図り、患者中心の地域医療体系の構築に努めます。

患者の権利と責任

1. 個人の尊厳
人格が尊重され人間としての尊厳を守られる権利があります。
2. 平等な医療を受ける権利
良質で安全な医療を平等に受ける権利があります。
3. 知る権利
病状・検査・治療について十分な説明を受ける権利があります。
4. 自己決定の権利
納得できるまで説明を受けた上で、自ら治療方法を選択する権利があります。また、セカンド・オピニオンを求めることができます。
5. プライバシーが守られる権利
ご自分の情報を承諾なしに第三者に提示されない権利があります。
6. 参加と協同の責任
患者は、これらの権利を守るため、医療従事者との信頼関係の構築に努め、医療に参加、協力する責任があります。

発刊にあたり

豊田厚生病院 病院長 川口 鎮



少子高齢化の急速な進行により、人口減少と社会を超高齢化迎え、労働力人口が減少する一方、医療・介護の需要は増加し、社会保障費の急激な増加が予想されています。当院の所在する地域においては、2030年頃までは人口は微増すると予測されていますが、高齢化は確実に進行して医療・介護の需要が増加していきます。このような中、社会保障費の一部である医療費の急激な増大を抑制するため、一層の医療の効率化が求められています。

医療・介護分野においては、高度急性期から在宅医療・介護までの一連のサービスを切れ目なく提供することによる効率的かつ質の高い医療提供体制の構築が必要とされ、それに向けて病床機能報告制度や地域医療構想の策定、地域包括ケアシステムの構築が進められております。愛知県においても平成28年10月に地域医療構想が策定されるなど、高齢者の人口がピークを迎える2025年に向けての医療提供体制構築に向けた動きが加速しています。

こうした中、当院は、豊田市の市民病院的な役割として地域住民に安全で安心な医療の提供を目指すとともに、西三河北部医療圏の基幹病院として高度医療機能の提供するため以下の取り組みを行いました。

診療機能の充実としては、救急医療体制では豊田市消防との連携を強化しICU・HCUの効率的な運用に努めるとともに、平成28年12月に3テスラのMRI装置を更新導入しました。

地域との連携強化としては、地域医療支援病院の施設基準を取得するための課題に取り組み、紹介率・逆紹介率の向上に取り組み、順調に準備を進めてきました。また、地域包括ケアシステムへの対応として、退院支援体制の充実を図るとともに、認知症サポートチームを立ち上げました。更に、平成28年10月には市民公開講座も実施した第4回病院祭を開催し、過去最多の約4,000名の方にお越しいただくことができました。

病院の収益では、外来については1日当りの患者数で予算1,343人に対し1,305人（前年度1,338人）、1人当りの単価では予算17,715円に対し20,874円（前年度20,772円）となり、入院については1日当りの患者数で予算547人に対し519人（前年度540人）、1人当りの単価では予算66,792円に対し68,706円（前年度66,131円）となりました。医療の質の向上と効率化を図ることで在院日数が短くなり、外来・入院ともに延患者数が減少しましたが、医療必要度の高い患者を受け入れることで単価は上昇し、診療収入（外来+入院）は前年実績を下回りましたが、予算は達成できました。

今後も診療機能の更なる向上に加え、病院経営の健全化に向けて職員一丸となって取り組むとともに、地域住民の健康増進に配慮した安全で安心できる医療・保健・福祉を提供して参ります。

平成30年12月20日
病院長 川口 鎮



▲平成 29 年度新入職員研修会

2017 年 4 月。豊田厚生病院職員としての基本ルールを学んだ



▲研修医オリエンテーション

2017 年 4 月。総合実習の様子。診療に関する重要事項や電子カルテの操作方法等を学んだ



▲看護の日イベント

2017 年 5 月。災害時の応急手当の紹介やエコノミー症候群の予防体操、血管年齢測定などを行った



▲地域の小学生を対象にした病院見学

2017 年 6 月。小学校の生活科学学習の一環で病院紹介を行い、病院の役割などを知ってもらう機会を提供



▲ 厚生連球技大会 ▲

2017 年 9 月。厚生連の全事業所が参加した大会で野球部は 2 年ぶりに優勝旗を手にした



▲第 44 回東海地区小児糖尿病サマーキャンプ

2017 年 8 月 11 日～ 15 日開催。主幹病院として運営を行い、1 型糖尿病の小中学生が自然の中での集団生活を通じて糖尿病の知識・技能を身につける場を提供



▲新型インフルエンザ等患者搬送訓練

2017 年 11 月実施。新型インフルエンザ患者の発生を想定し、患者受入・診察・検体採取までの訓練を行い、関係機関との連携を再認識



▲防災訓練

2017年12月実施。発生時の初動体制や患者受け入れ体制を確認した



▲人間ドック健診施設機能評価更新認定

2017年12月受審。日本人間ドック学会による健診施設機能評価の認定更新に合格



▲エンタランスコンサート

年4回開催



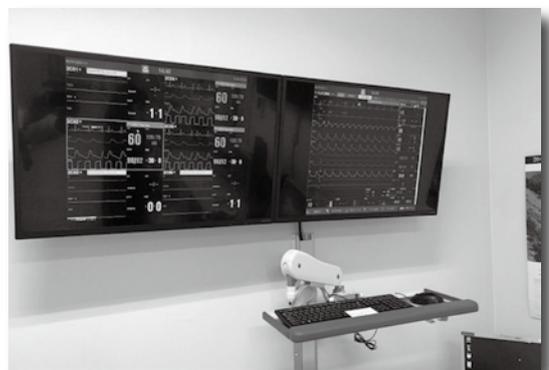
▲厚生連卓球大会

2018年2月開催。各種目で多数のメダルを獲得



▲ ICU 拡充・モニタリングシステム更新 ▲

2018年3月実施。療養環境の充実を図るため、ICUの拡張工事および生体情報モニターの更新を行った



▲市民公開講座

2018年3月開催。神経内科医師による「脳梗塞」についての講演等を行った。約150名参加



▲臨床研修修了証授与式

2018年3月開催。研修医14名全員について臨床研修修了となった

TOYOTA KOSEI 豊田厚生病院 豊田厚生病院理念
 病に打ち勝つ 病い克服のあり方を模索し 誰しもの命を守りついで 地域の人たちと共に歩みます

カモメイト

Vol. 75
spring

特集 腹腔鏡手術のいま 教えて Dr.
特集 産後ケア入院のご案内



ドクターからのアドバイス
RET-CT検査ってなに？

ニュース
中部経済産業局
平成28年度エネルギー管理優良事業者賞受賞
緩和ケア研修会 開催しました

診療日カレンダー (Calendaro de Atención) ■ 休診 (Período) ● 午後休診 (Atención de mañana) (2017年)

4月							5月							6月							7月																
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土										
							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31

TOYOTA KOSEI 豊田厚生病院 豊田厚生病院理念
 病に打ち勝つ 病い克服のあり方を模索し 誰しもの命を守りついで 地域の人たちと共に歩みます

カモメイト

Vol. 76
summer

特集 神経内科ってどんな診療科？
特集 健康チェックを始めましょう



ドクターからのアドバイス
大腸ポリープなんか怖くない

ニュース
看護の日～看護の心をみんなの心に～

診療日カレンダー (Calendaro de Atención) ■ 休診 (Período) ● 午後休診 (Atención de mañana) (2017年)

7月							8月							9月							10月																
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土										
							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31

TOYOTA KOSEI 豊田厚生病院 豊田厚生病院理念
 病に打ち勝つ 病い克服のあり方を模索し 誰しもの命を守りついで 地域の人たちと共に歩みます

カモメイト

Vol. 77
autumn

特集 心不全について学ぼう 教えて Dr.
特集 患者満足度アンケート調査結果



ドクターからのアドバイス
糖尿病と言われたら眼科へ

ニュース
高校生1日看護体験学習

診療日カレンダー (Calendaro de Atención) ■ 休診 (Período) ● 午後休診 (Atención de mañana) (2017年)

10月							11月							12月							1月																
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土										
							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31

TOYOTA KOSEI 豊田厚生病院 豊田厚生病院理念
 病に打ち勝つ 病い克服のあり方を模索し 誰しもの命を守りついで 地域の人たちと共に歩みます

カモメイト

Vol. 78
winter

特集 脊柱側弯症のいろいろ 教えて Dr.



ドクターからのアドバイス
口腔粘膜病変とがん

ニュース
がんを考える市民公開講座

診療日カレンダー (Calendaro de Atención) ■ 休診 (Período) ● 午後休診 (Atención de mañana) (2018年)

1月							2月							3月							4月																
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土										
							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31

目次

豊田厚生病院理念	1
基本方針、患者の権利と責任	2
発刊にあたり	3
主な出来事	4
カモメイト院外版	6
豊田厚生病院概要	9
豊田厚生病院組織図	11
豊田厚生病院会議・委員会組織図	12
医師名簿	13
役付職員名簿	14
職員数	15
平成28年度事業計画	16

I. 医療実績

1. 診療科別延患者数 及び診療収入	
1) 科別延患者数	21
2) 科別診療収入	22
2. 市町村別利用状況	
1) 市町村別外来利用状況	23
2) 市町村別入院利用状況	24
3. 年齢別利用状況	
1) 年齢別外来利用状況	25
2) 年齢別入院利用状況	25
4. 救命救急センター外来利用状況	
1) 診療科別患者数	26
2) 月別患者数	26
3) 救急車受入状況	27
5. 手術件数	29
6. 分娩数・死亡数・剖検数	30
7. 退院患者統計	
1) 診療科別・月別退院患者数	31
2) 診療科別・死亡退院患者数	31
3) 地域別・年齢階層別退院患者数	32
4) 疾病別・診療科別退院患者数	34
5) 診療科別・在院期間別退院患者数	35
6) 疾病別・在院期間別退院患者数	36
7) 疾病別・年齢階層別退院患者数	37
8) 診療科別疾患順位	39

8. 剖検数	43
9. 臨床研究	44
II. 部署別業務実績	
1. 放射線技術科	49
2. 臨床検査技術科	52
3. リハビリテーション技術科	56
4. 臨床工学技術科	58
5. 栄養科	62
6. 薬剤部	64
7. 看護部	70
8. 医療安全管理部	74
9. 感染制御部	77
10. 地域医療連携課（地域医療連携係）	80
11. 地域医療連携課（在宅支援コーディネーター係）	85
12. 医療福祉相談課（兼がん相談支援センター）	87
13. 豊田厚生訪問看護ステーション	90
14. 豊田厚生居宅介護支援事業所	93
15. 豊田厚生地域包括支援センター	95
16. 健康管理室	99
III. 職員活動	
1. 研究業績	103
2. 院内研修活動	
1) 全体講演会・全体発表会	128
2) 研修会・勉強会	130
3. 市民講座・市民公開講座（一般市民対象講座）	133
4. 学生実習等受入状況	
1) 実習	136
2) 職場体験・見学	136
IV. 委員会活動	
1. 委員会一覧	139



豊田厚生病院概要

平成 30 年 3 月 1 日現在

■ 名 称

愛知県厚生農業協同組合連合会 豊田厚生病院

■ 所 在 地

〒 470-0396 愛知県豊田市浄水町伊保原 500-1
TEL(0565)43-5000 FAX(0565)43-5100

■ 設立年月日

昭和 22 年 5 月 1 日（豊田厚生病院開院 平成 20 年 1 月 1 日）

■ 病 床 数

606 床（一般 600 床・感染症 6 床）

■ 標榜科目 38 科

内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、神経内科、内分泌・代謝内科、腎臓内科、血液内科、膠原病内科、アレルギー科、緩和ケア内科、精神科、小児科、放射線科、放射線治療科、放射線診断科、臨床検査科、病理診断科、外科、消化器外科、乳腺外科、小児外科、呼吸器外科、脳神経外科、心臓外科、救急科、泌尿器科、眼科、耳鼻いんこう科、麻酔科、歯科口腔外科、整形外科、リウマチ科、形成外科、皮膚科、産婦人科、リハビリテーション科、化学療法内科

■ 専門外来 38 科

血液内科、膠原病外来、腎臓外来、糖尿病外来、神経内科、小児循環器科、小児神経科、小児血液科、小児アレルギー科、小児外科、ストーマ外来、内分泌外来、もの忘れ外来、肝臓外来、ペースメーカークリニック、血管外科、インプラント外来、助産師外来、アレルギー外来、乳腺外来、婦人科腫瘍外来、禁煙外来、糖尿病フットケア外来、女性専門外来、小児腎臓外来、ボトックス外来、緩和ケア外来、肥満外来、セカンドオピニオン外来、ペインクリニック、胃瘻交換外来、母乳外来、耳鼻いんこう科腫瘍外来、糖尿病療養指導士外来、リウマチ外来、不整脈外来、骨粗鬆症外来、心不全外来

■ 関連施設

豊田厚生訪問看護ステーション、豊田厚生地域包括支援センター、豊田厚生居宅介護支援事業所、加茂看護専門学校

■ 施設認定

救急告示病院 / 病院群輪番制病院（二次）/ 臨床研修病院（医科）/ 臨床研修病院（歯科）/ エイズ治療協力病院 / 難病医療協力病院 / 地域がん診療連携拠点病院 / 地域中核災害医療センター / 肝疾患専門医療機関 / 救命救急センター / DMA T 指定医療機関 / 地域医療支援病院 / 脳死臓器提供施設 / 保険医療機関 / 労災保険指定医療機関 / 生活保護法指定医療機関 / 結核医療機関 / 更生・育成医療指定 / 養育医療指定 / 原爆医療指定（一般・認定疾病）/ 第二種感染症指定医療機関 / 全国循環器撮影研究会認定被ばく線量低減推進施設 / 日本栄養療法推進協議会認定 N S T 稼働施設 / マンモグラフィ（乳房エックス線写真）検診施設 / 下肢静脈瘤血管内焼灼術実施施設

■ 管理者

病院長	川口 鎮	副院長兼第1診療部長 保健事業部長	篠田政典	医療安全管理部長	服部直樹
副院長兼第5診療部長	鏡味良豊	副院長兼第3診療部長 地域医療福祉連携部長	久留宮康浩	患者相談部長	平松義規
副院長兼感染制御部長	岩瀬 豊	第2診療部長	竹下祥敬	薬剤部長	坪井伸治
加茂看護専門学校長兼 豊田厚生病院副院長	梶田光春	第4診療部長	村田盛郎	看護部長	阪口浩美
		臨床研修部長	水野敬輔	事務部長	平野時康

■ 学会認定

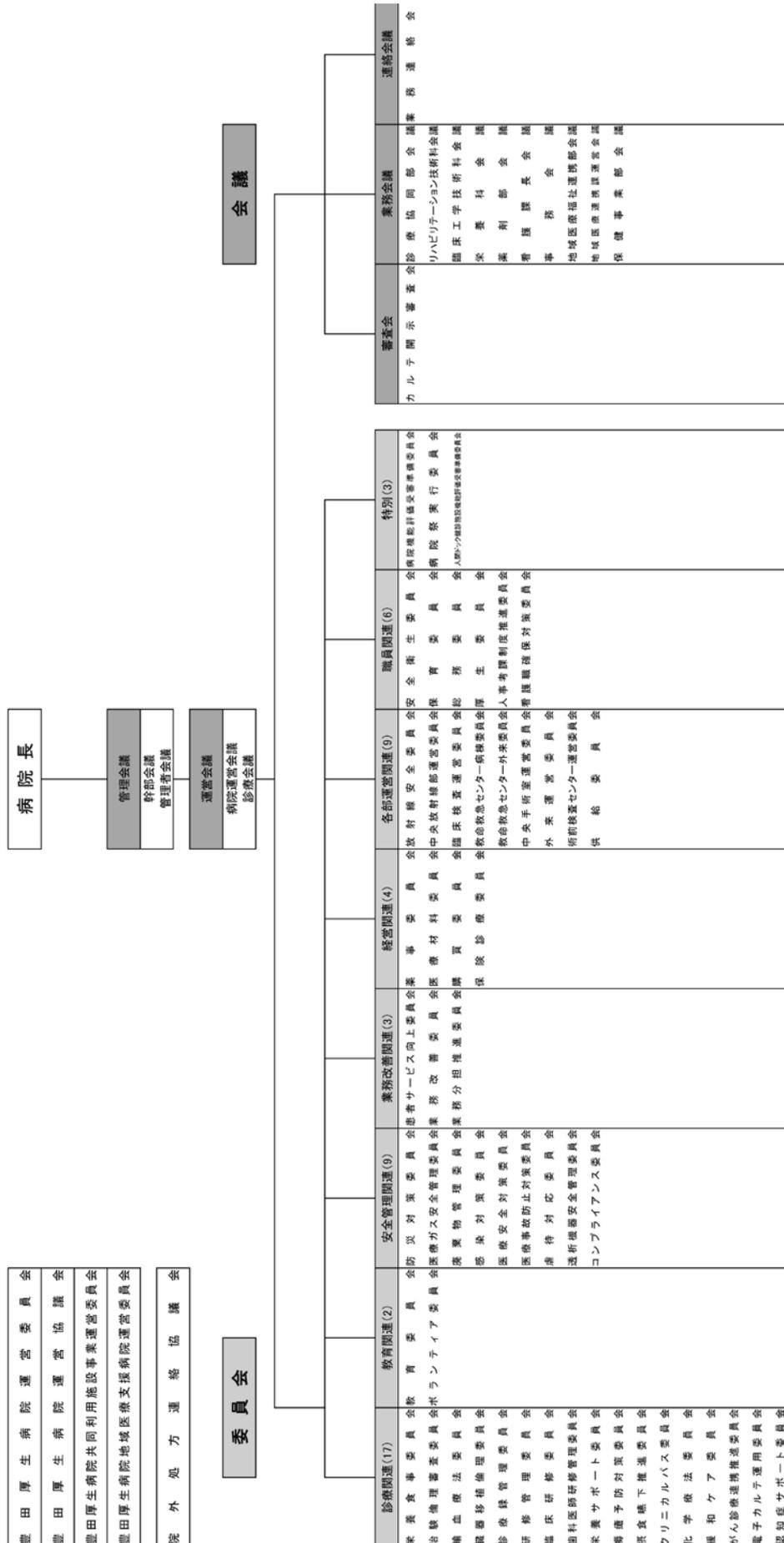
1. 日本内科学会認定医制度教育病院
2. 日本東洋医学会研修施設
3. 日本臨床腫瘍学会認定研修施設
4. 日本呼吸器学会認定施設
5. 日本高血圧学会専門医認定施設
6. 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設
7. 日本循環器学会循環器専門医研修施設
8. 日本心血管インターベンション治療学会研修施設
9. 日本肝臓学会認定施設
10. 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
11. 日本消化器病学会専門医制度認定施設
12. 日本神経学会専門医制度教育施設
13. 日本認知症学会専門医制度教育施設
14. 日本糖尿病学会認定教育施設
15. 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設
16. 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼動施設
17. 日本甲状腺学会認定専門医施設
18. 日本透析医学会専門医制度認定施設
19. 日本腎臓学会研修施設
20. 日本急性血液浄化学会認定指定施設
21. 日本血液学会認定血液研修施設
22. 日本リウマチ学会教育施設
23. 日本アレルギー学会アレルギー専門医
教育研修施設
24. 日本がん治療認定医機構認定研修施設
25. 日本緩和医療学会認定研修施設
26. 日本小児科学会小児科専門医研修施設
27. 日本医学放射線学会放射線科専門医修練協力機関
28. 日本病理学会研修認定施設 B
29. 日本臨床細胞学会教育研修施設
30. 日本外科学会外科専門医制度修練施設
31. 日本消化器外科学会専門医修練施設
32. 日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
33. 呼吸器外科専門医合同委員会基幹施設
34. 日本脳神経外科学会専門医訓練施設
35. 日本脳卒中学会専門医認定制度研修教育病院
36. 三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
37. 日本救急医学会救急科専門医指定施設
38. 日本泌尿器科学会専門医教育施設
39. 日本眼科学会専門医制度研修施設
40. 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
41. 日本麻酔科学会麻酔科標榜のための研修施設
42. 日本ペインクリニック学会指定研修施設
43. 日本口腔外科学会認定研修施設
44. 日本整形外科学会専門医制度研修施設
45. 日本手外科学会研修施設
46. 日本形成外科学会認定施設
47. 日本皮膚科学会認定専門医研修施設
48. 日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
49. 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会
インプラント実施施設
50. 日本乳房オンコプラスチックサージャリー学会
エキスパンダー実施施設
51. 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
52. 日本大腸肛門病学会認定施設
53. 日本集中治療医学会専門医研修施設
54. 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
55. 日本胆道学会指導施設
56. 日本女性医学会専門医制度認定研修施設
57. 外科周術期感染管理教育施設

■ その他認定

1. 病院機能評価認定病院
2. 卒後臨床研修評価機構 (J C E P) 認定病院
3. 人間ドック健診施設機能評価認定病院
4. 医療ひばく低減施設

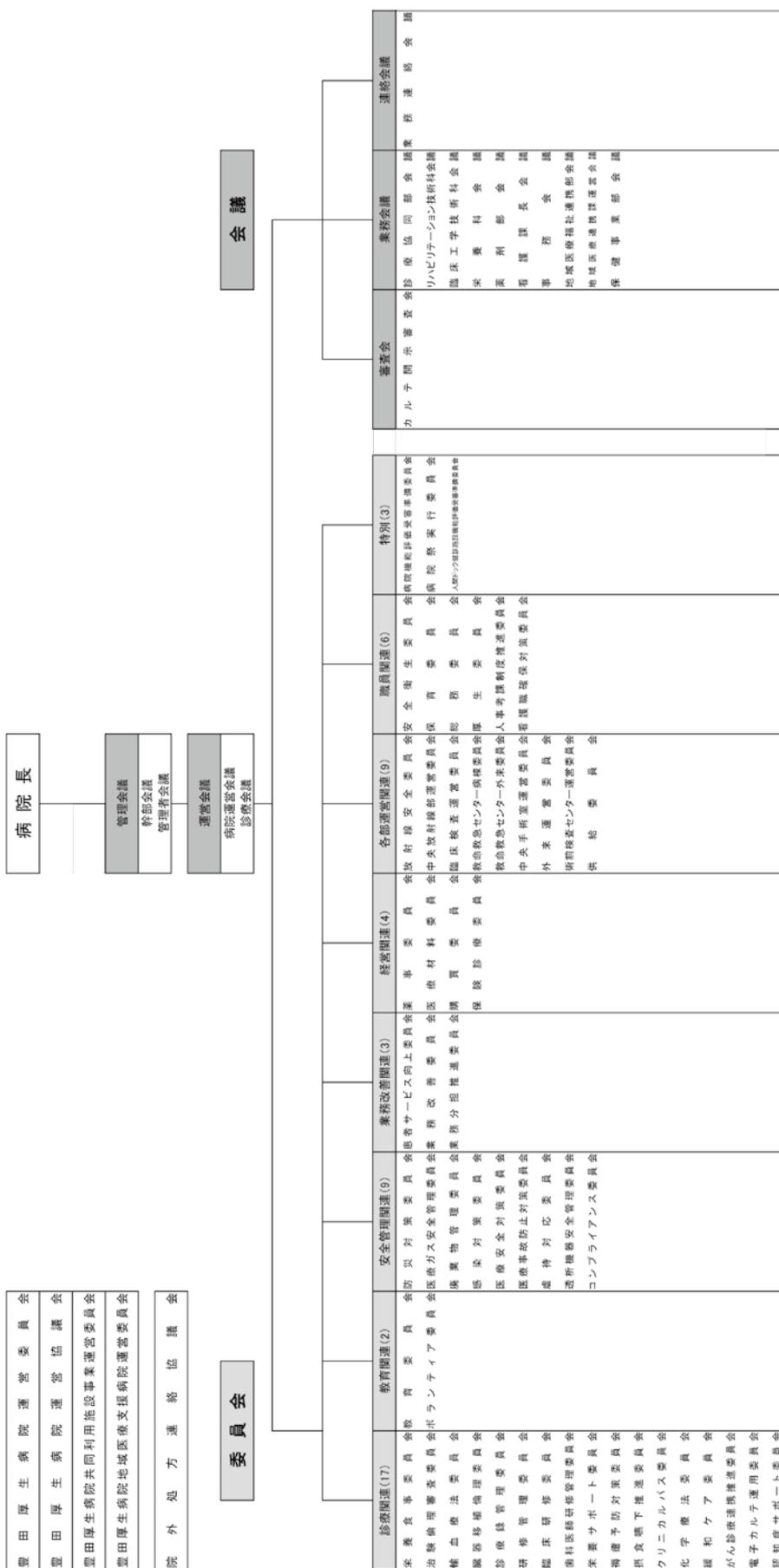
豊田厚生病院 組織図

平成 30 年 3 月 1 日現在



豊田厚生病院 会議・委員会 組織図

平成 30 年 3 月 1 日現在



医師名簿

平成 30 年 3 月 1 日現在

職名	診療科	氏名
院長	心臓外科	川口 鎮
副院長兼第5診療部長兼診療協同部長兼血液内科代表部長	血液内科	鏡味 良豊
副院長兼感染制御部長	泌尿器科	岩瀬 豊
加茂看護専門学校校長兼豊田厚生病院副院長兼小児科代表部長	小児科	梶田 光春
副院長兼第1診療部長兼健康事業部長兼内科代表部長兼循環器内科代表部長	循環器内科	篠田 政典
副院長兼第3診療部長兼地域医療福祉連携部長兼外科代表部長兼乳腺外科部長	外科	久留宮 康浩
第2診療部長兼放射線科代表部長兼放射線治療科代表部長	放射線科	竹下 祥敬
第4診療部長兼整形外科代表部長	整形外科	村田 盛郎
医療安全管理部長兼神経内科代表部長	神経内科	服部 直樹
臨床研修部長兼術前検査センター長兼血管外科部長	外科	小野 敬輔
患者相談部長兼呼吸器センター長兼呼吸器外科代表部長	呼吸器外科	平松 義規
内分泌・代謝内科代表部長	内科	澤井 喜邦
通院治療センター長兼消化器内科代表部長兼消化器外科病棟部長	消化器内科	森田 清
内視鏡センター長兼消化器内科代表部長	消化器内科	都築 智之
血液浄化センター長兼腎臓内科代表部長兼医師臨床研修科代表部長	腎臓内科	倉田 久嗣
呼吸器内科代表部長兼アレルギー科部長	アレルギー科	谷川 吉政
循環器センター長	循環器内科	金子 鎮二
消化器内視鏡部長	消化器内科	竹内 淳史
呼吸器内科病棟部長兼アレルギー科病棟部長	アレルギー科	青山 昌浩
総合内科代表部長	内科	西本 泰浩
神経内科部長	神経内科	伊藤 瑞規
血液内科病棟部長	血液内科	平賀 潤二
内分泌・代謝内科病棟部長	内分泌・代謝内科	加藤 大也
循環器内科病棟部長	循環器内科	窪田 龍二
循環器内科 C C U 部長	循環器内科	大橋 大器
膠原病内科代表部長	膠原病内科	水野 伸宏
循環器内科検査部長	循環器内科	林 大介
神経内科外科部長	神経内科	富田 稔
循環器内科医長	循環器内科	藤田 雅也
呼吸器内科医長	呼吸器内科	高嶋 浩司
総合内科医長	内科	渡口 賢隆
総合内科病棟医長	内科	鈴木 誓子
胃腸内科医長	胃腸内科	伊藤 岳司
循環器内科病棟医長	循環器内科	豊 陽祐
消化器内科医長	消化器内科	松井 健一
血液内科医長	血液内科	高木 雄介
内分泌・代謝内科医長	内分泌・代謝内科	前田 佳照
医員	内科	森 佳子
医員	内科	佐藤 美佳
医員	内科	渡邊 令奈
医員	内科	鈴木 淳也
医員	内科	鈴木 伯征
医員	内科	二村 圭祐
医員	内科	牛嶋 太
医員	内科	佐藤 直和
医員	内科	赤塚 和寛
医員	内科	鈴木 奈瑠子
医員	内科	井村 仁美
医員	内科	足立 健太郎
医員	内科	松葉 朋彦
医員	内科	伊藤 亮太
医員	内科	小野 玉美
医員	内科	白井 義憲
医員	内科	田中 かずみ
医員	内科	豊島 創
医員	内科	林 雅
医員	内科	堀 貴洋
医員	内科	森 悠
医員	内科	安田 司
顧問	内科	金山 均
顧問	内科	西村 大作
緩和ケア内科代表部長	緩和ケア内科	村松 雅人
精神科代表部長	精神科	前川 和範
医員	精神科	渡邊 周一
小児科病棟部長	小児科	生駒 雅信
医員	小児科	中西 久美子
医員	小児科	西田 大基
医員	小児科	辻 元基
医員	小児科	伊藤 卓冬
放射線診断科代表部長	放射線診断科	松田 謙
放射線診断科核医学部長	放射線診断科	中村 篤史
病理診断科代表部長兼臨床検査科管理部長	病理診断科	成田 道彦
組織診管理部長	病理診断科	氏平 伸子

職名	診療科	氏名
医療安全管理部医療安全管理室長兼外科外来部長	外科	世古口 英
中央手術科代表部長兼消化器外科部長	消化器外科	菅原 元
内視鏡外科部長	消化器外科	河合 清貴
外科病棟部長	外科	桐山 宗泰
医員	外科	鳥居 直矢
医員	外科	蟹江 恭和
医員	外科	佐久間 政宣
医員	外科	稲田 亘佑
呼吸器外科病棟部長	呼吸器外科	岡阪 敏樹
専攻医	呼吸器外科	渡邊 裕樹
脳神経外科代表部長	脳神経外科	立花 栄二
脳神経外科病棟部長	脳神経外科	住友 正樹
脳神経外科外来部長	脳神経外科	圓若 幹夫
脳神経外科病棟医長	脳神経外科	松田 彰乃
心臓外科代表部長	心臓外科	荒木 善盛
医員	心臓外科	寺田 貴史
医員	心臓外科	小西 康信
救命救急センター長兼救急科代表部長	救急科	小林 修一
救急科 I C U 部長	救急科	都築 通孝
救急科外来部長	救急科	畑田 剛
泌尿器科代表部長	泌尿器科	橋本 良博
泌尿器科病棟部長	泌尿器科	金本 一洋
泌尿器科内視鏡部長	泌尿器科	山田 健司
眼科代表部長	眼科	山田 麻里
医員	眼科	富安 胤太
医員	眼科	野崎 祐加
耳鼻咽喉科代表部長	耳鼻咽喉科	大野 伸晃
医員	耳鼻咽喉科	横田 誠
医員	耳鼻咽喉科	岩橋 大輔
医員	耳鼻咽喉科	角谷 尚悟
麻酔科代表部長	麻酔科	上原 博和
ペインクリニック外来部長	麻酔科	小島 康裕
医員	麻酔科	太田 祐介
医員	麻酔科	長橋 究
医員	麻酔科	高橋 徹朗
医員	麻酔科	伊藤 雅人
医員	麻酔科	床本 光弘
歯科口腔外科代表部長兼歯科医師臨床研修科代表部長	歯科口腔外科	兼子 隆次
歯科口腔外科医長	歯科口腔外科	宇佐見 一公
医員	歯科口腔外科	河合 孝真
医員	歯科口腔外科	望月 大督
リハビリテーション科代表部長兼整形外科病棟部長	整形外科	稲垣 弘進
リウマチ科部長	整形外科	部 山 康秀
脊髄外科部長	整形外科	辻 太一
整形外科外来部長	整形外科	二村 尚久
医員	整形外科	佐伯 岳紀
医員	整形外科	増田 高将
医員	整形外科	長田 直祥
医員	整形外科	館 寛人
医員	整形外科	足立 雅
形成外科代表部長	形成外科	川端 明子
形成外科外来医長	形成外科	今井 弘恵
医員	形成外科	林 玲子
皮膚科代表部長	皮膚科	鈴木 伸吾
皮膚科外来部長	皮膚科	足立 秀禎
医員	皮膚科	吉川 真人
産婦人科代表部長	産婦人科	針山 由美
産婦人科病棟部長	産婦人科	新城 加奈子
医員	産婦人科	村上 真由子
医員	産婦人科	山本 靖子
医員	産婦人科	南 洋佑
医員	産婦人科	溝口 真以

研修医 (2年次)		
石川 稜基	稲垣 美保	加藤 弘恵
神谷 知都世	久納 光浩	藤原 祐弥
酒井 博生	杉本 遼介	鈴木 大路
諏訪 峻一	関本 晃裕	竹内 健司
等々力 一徳	豊田 純恵	
研修医 (1年次)		
稲掛 優介	岩本 和馬	緒方 諒仁
岡本 彩	長田 祥子	藤谷 香葉子
近藤 大也	高原 里奈	玉腰 丈博
長井 伸	中野 菜	水野 幸奈
坪田 亜紀子		

役付職員名簿

平成30年3月1日現在

◆放射線技術科

技師長	小澤 功
課長	廣瀬 宜孝
係長	山本 勉
"	小西 哲也
"	近藤 千晃
"	松本 真明
"	松下 喜敬
"	村山 和宏
"	深田 真司

◆臨床検査技術科

技師長	中根 生弥
課長	高嶋 幹代
係長	鈴木 梢
"	木村 有里
"	三澤 千鶴
"	内藤 淳
"	田中 浩一
"	永田 篤志
"	下竹 美由紀

◆心臓リハビリテーション技術科

技師長	板倉 美佳
課長	稲吉 美枝
係長	濱井 均
"	佐藤 太亮
"	岩附 史明
"	吹留 理香

◆臨床工学技術科

技師長	中前 健二
課長	兵藤 好行
係長	沖島 正幸
"	井上 宏隆

◆栄養科

技師長	岩田 弘幸
課長	小林 憲司
係長	岩本 拓郎

◆薬剤部

幹部管理職	坪井 伸治
室長	禰宜田 和正
"	成瀬 国男
"	中村 浩彦
課長	佐々木 英雄
"	間瀬 悟
"	井上 健
係長	各務 さとみ
"	植松 夏子
"	中尾 圭介
"	藤森 和則

◆看護部

看護部長	阪口 浩美
副看護部長	富川 由佳里
"	富川 京子
"	富川 浩子
"	富川 幸子
"	富川 延代
"	富川 和美子
"	富川 直子
"	富川 愛子
"	富川 久美子
"	富川 陽子
"	富川 知晴子
"	富川 京子
"	富川 留里子
"	富川 智子
"	富川 和代子
"	富川 多恵子
"	富川 千恵子
"	富川 薫
"	富川 孝寿
"	富川 緑
"	富川 千子
"	富川 久美子
"	富川 秀子
"	富川 みさ代
"	富川 かおる
"	富川 清美
"	富川 知香子
"	富川 志保子
"	富川 康子
"	富川 佐知子
"	富川 郁栄
"	富川 洋希
"	富川 尚子
"	富川 千津子
"	富川 敏子
"	富川 奈津子
"	富川 悦子
"	富川 真由美
"	富川 陽子
"	富川 かおり
"	富川 公重
"	富川 幸司
"	富川 奈央子
"	富川 めぐみ
"	富川 雅代子
"	富川 佳代子
"	富川 聡恵子
"	富川 靖子
"	富川 結花
"	富川 千代美
"	富川 浩子
"	富川 幸里
"	富川 栄代
"	富川 早苗
"	富川 真理子
"	富川 美保子
"	富川 敦子
"	富川 さよ
"	富川 秀景
"	富川 千裕
"	富川 比野

◆医療安全管理部

課長	柴田 和代
係長	加藤 昭子

◆事務部

部長	平野 時康
企画室長	浅岡 一公
事務管理室長	柴田 正巳
医事課長	加藤 信也
総務課長	山口 秀作
企画係長	熊澤 喬士
医療情報係長	神谷 公江
診療情報係長	澤木 勇士
医事第1係長	安藤 理恵
医事第2係長	近藤 慎哉
庶務係長	織田 ちずる
経理係長	河合 啓行
保育係長	須賀 香代子
施設係長	大藪 宏樹
エネルギーセンター係長	近藤 隼

◆地域医療連携課

課長	一柳 容子
係長	原 明子
"	森 めぐみ

◆医療福祉相談課

係長	杉村 龍也
----	-------

◆訪問看護ステーション

係長	伊藤 美由起
----	--------

◆居宅介護支援事業所

係長	清水 浩子
----	-------

◆地域包括支援センター

主担当	井木 徹
-----	------

◆健康管理室

課長	深田 英樹
係長	浦野 美和子



職員数

平成 30 年 3 月 1 日現在

職種		年度	平成 29 年度	平成 28 年度	備考	
常勤職員	医師		166	166	研修医 27 名含む	
	薬剤師		39	34		
	診療放射線技師		33	32		
	臨床検査技師		51	51		
	理学療法士		20	19		
	作業療法士		7	7		
	言語聴覚士		3	3		
	管理栄養士		10	9		
	臨床工学技士		13	13		
	ソーシャルワーカー		12	12		
	歯科衛生士		4	4		
	その他		6	6	臨床心理士・視能訓練士	
	小計		198	190		
	看護部門	保健師		4	4	
		助産師		21	19	
		看護師		624	619	
		准看護師		7	7	
		看護助手		60	65	
		小計		716	714	
	その他	事務員		115	112	
		協助部門補助		6	5	検査科・放射線科補助等
		管理技術者		32	30	ボイラ技士、運転手、調理師等
		管理補助者		18	22	調理員等
合計			171	169		
合計		1,251	1,239			
非常勤職員	医師		68	62		
	看護部門		62	62	看護助手含む	
	その他		35	38		
	合計		165	162		
総合計		1,416	1,401			

平成 29 年度事業計画

1. 環境認識

国は急速に進む少子・高齢化に対応するため、医療計画において地域医療構想を策定しており、医療圏ごとの医療需要を把握し、将来のあるべき医療供給体制を構築しようとしている。西三河北部医療圏では2025年までは人口は増加するが、65歳以上の増加率が高く、高齢化が進む医療圏となっている。

当院は救命救急センターを有し、地域がん診療連携拠点病院の指定を受ける中核病院として、高度急性期・急性期を担い、回復期・慢性期を担う医療機関等と地域医療連携を更に進めることが求められている。

2. 基本方針（病院運営の基本姿勢及び目標）

救命救急センター機能、がん診療機能をはじめとする高度医療機能を有する高機能病院として、入院では高度急性期・急性期医療を担うとともに、外来ではかかりつけ医となる地域医療機関との連携を更に進め、専門外来の充実、重症患者・救急患者を積極的に受け入れ、西三河北部医療圏における基幹病院としての役割を果たしていく。

また、公的病院として地域住民に開かれた病院となり、豊田市の市民病院的な役割も果たすことで地域に選ばれる病院となる。

3. 重点事項と実施目標

（1）診療機能の充実

- ①救急医療・集中治療体制の充実（豊田・尾三消防署との連携強化、ICU・HCUの効率的運用）
- ②がん医療の充実（がん医療関連の各職種専門資格の取得推進、地域がん診療連携拠点病院としての情報発信の強化、通院治療センター機能の向上、造血器腫瘍細胞抗原検査（FCM検査）の充実）
- ③看護体制の充実（7対1入院基本料、2.5対1急性期看護補助体制加算の安定的運用、看護職員夜間1.2対1配置加算及び夜間急性期看護助体制加算取得の検討、認知症ケア加算1の取得の検討及び認知症ケア加算2の取得）
- ④医療提供体制の充実（手術の効率的な運用、栄養指導の推進（地域連携を含む）、術前検査センターの機能拡充）

（2）医療の質、安全強化

- ①医療の質の向上（クオリティインディケーターの充実、クリニカルパスの充実、薬物治療管理の推進、病棟薬剤業務の充実）
- ②医療安全の充実（医療安全研修の実施、インシデント・アクシデント事例の収集・分析・共有、コンプライアンスの周知徹底）
- ③資格取得の推進（認定・専門資格取得の推進（医療技術職、看護職など）、論文・学会発表推進）

（3）地域との連携強化

- ①地域医療連携の強化（地域医療支援病院の取得、行政・地元医師会・各医療機関などの関係機関

との連携強化、地域連携パスの推進)

②地域団体・住民との連携強化（地元 J A との連携強化、市民代表を通じた定期的な意見交換の継続）

（４）保健事業

①保健事業の充実（健康管理センターの機能の充実と質の向上、専任医師の確保、健診業務の拡大、人間ドック機能評価の認定施設更新）

（５）福祉・介護事業

①在宅医療・介護の推進（在宅療養支援の推進、機能強化型訪問看護の継続）

②地域包括ケアの推進（行政を含む関連機関との連携強化、地域住民の意識醸成への取り組み）

（６）経営管理

①経営の安定（収入増加・費用削減に繋がる事項の洗い出しと検討、査定減少に向けた取り組み、平成 30 年度の診療報酬改定に向けた検討）

②マンパワーの充実（研修医の確保、看護師の確保と離職防止に向けた体制作りの構築、業務量・育成・人件費の視点からの適切な人材確保）

③患者サービスの向上（広報活動の充実、市民公開講座の充実）

④D P C の円滑な運用（D P C データの分析に基づく運用見直し、後発医薬品導入の推進、持参薬管理体制の検討）

⑤新専門医制度の対応（基幹病院及び協力病院としての体制構築）

⑥新たな施設基準の検討（新たな施設基準取得に向けた検討）

I 医療実績

1. 診療科別延患者数及び診療収入

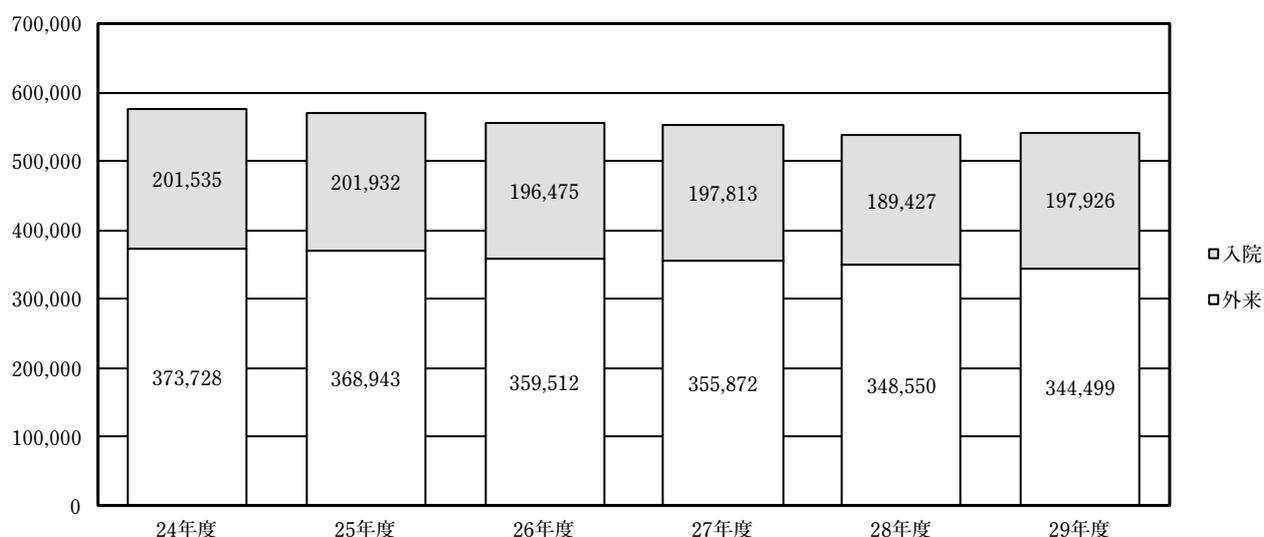
診療日数 外来：268日 入院：365日

1) 科別延患者数

(単位：人)

診療科	外来			入院		
	28年度	29年度	前年度比	28年度	29年度	前年度比
内科	129,007	130,085	100.8%	96,297	102,659	106.6%
精神科	7,729	7,903	102.3%	—	—	—
小児科	16,575	14,793	89.2%	6,514	4,926	75.6%
外科	23,016	23,862	103.7%	22,993	24,830	108.0%
整形外科	35,159	36,673	104.3%	18,051	20,824	115.4%
形成外科	8,653	8,294	95.9%	1,860	1,620	87.1%
脳神経外科	11,049	8,344	75.5%	11,111	10,637	95.7%
呼吸器外科	1,986	2,114	106.4%	2,607	3,015	115.7%
心臓外科	2,352	2,670	113.5%	2,444	3,195	130.7%
皮膚科	21,114	20,251	95.9%	2,138	1,918	89.7%
泌尿器科	19,630	19,135	97.5%	7,018	6,273	89.4%
産婦人科	17,352	17,350	100.0%	7,422	7,185	96.8%
眼科	16,382	14,724	89.9%	2,513	2,545	101.3%
耳鼻咽喉科	18,572	18,418	99.2%	5,638	4,946	87.7%
放射線科	4,636	4,444	95.9%	—	—	—
麻酔科	1,904	2,105	110.6%	6	14	233.3%
歯科口腔外科	13,434	13,334	99.3%	2,815	3,339	118.6%
合計	348,550	344,499	98.8%	189,427	197,926	104.5%
一日平均	1,305	1,285	98.5%	519	542	104.5%

年度別延患者数 (人)



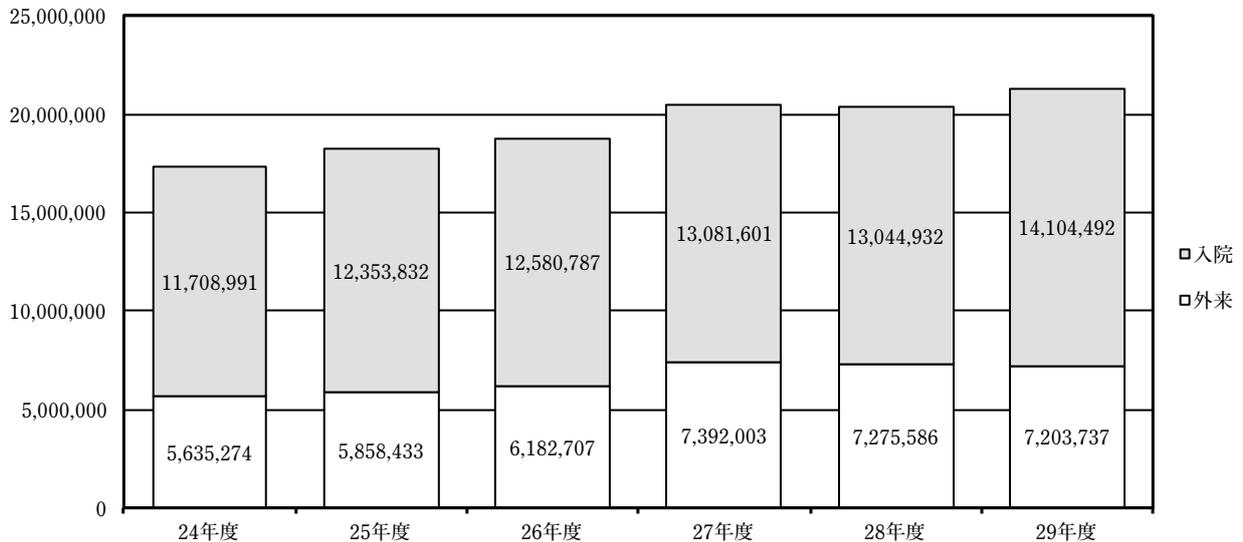
診療日数 外来：268日 入院：365日

2) 科別診療収入

(単位：千円)

診療科	外来			入院		
	28年度	29年度	前年度比	28年度	29年度	前年度比
内科	4,005,564	3,753,466	93.7%	6,319,778	6,775,160	107.2%
精神科	69,408	75,488	108.8%	—	—	—
小児科	237,923	250,975	105.5%	353,042	270,122	76.5%
外科	757,734	819,254	108.1%	1,731,744	1,970,890	113.8%
整形外科	489,901	554,293	113.1%	1,104,926	1,417,451	128.3%
形成外科	61,980	60,223	97.2%	110,186	114,601	104.0%
脳神経外科	189,415	145,683	76.9%	734,115	785,420	107.0%
呼吸器外科	90,953	107,837	118.6%	334,809	374,230	111.8%
心臓外科	21,115	25,222	119.5%	520,000	589,903	113.4%
皮膚科	131,870	141,835	107.6%	86,918	78,268	90.0%
泌尿器科	487,227	482,823	99.1%	443,492	396,564	89.4%
産婦人科	150,948	169,360	112.2%	596,079	604,489	101.4%
眼科	170,757	165,567	97.0%	217,265	211,245	97.2%
耳鼻咽喉科	183,007	225,258	123.1%	351,916	344,430	97.9%
麻酔科	95,371	87,825	92.1%	—	—	—
放射線科	14,384	16,736	116.4%	331	769	232.2%
歯科口腔外科	118,029	121,890	103.3%	140,331	170,950	121.8%
合計	7,275,586	7,203,737	99.0%	13,044,932	14,104,492	108.1%

年度別診療収入（千円）



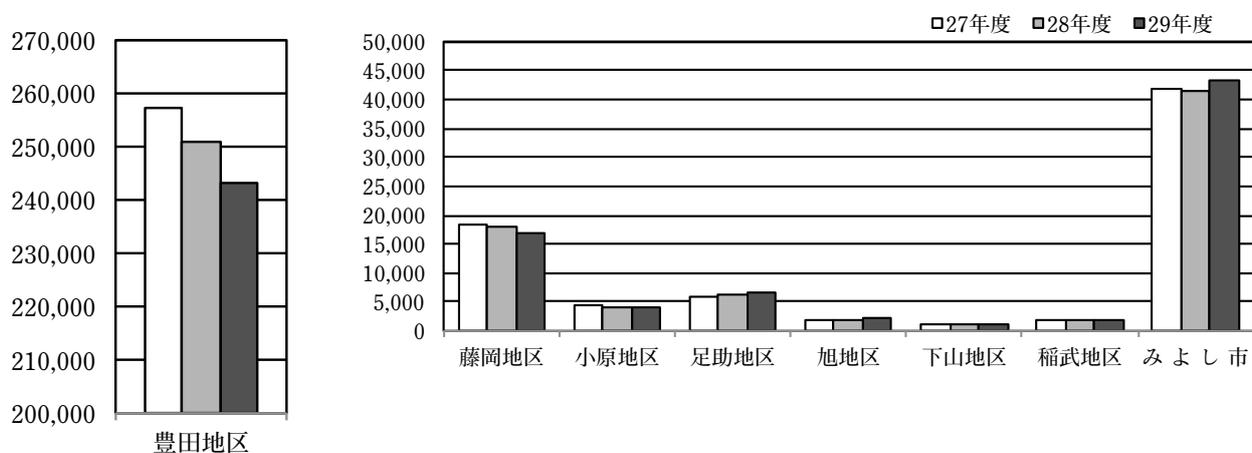
2. 市町村別利用状況

1) 市町村別外来利用状況（延患者数）

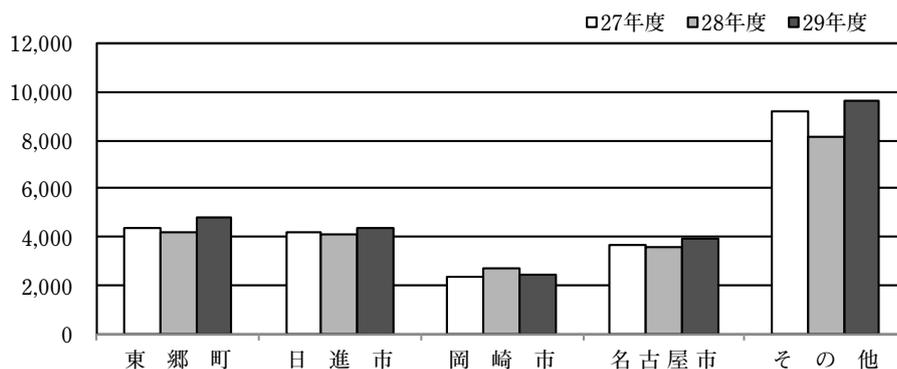
（単位：人）

市町村名		27年度		28年度		29年度	
		患者数	構成比	患者数	構成比	患者数	構成比
西三河北部医療圏	豊田市全域	290,459	81.6%	284,271	81.6%	275,804	80.1%
	*豊田地区	257,215	72.3%	251,068	72.0%	243,001	70.5%
	*藤岡地区	18,323	5.1%	17,972	5.2%	16,816	4.9%
	*小原地区	4,313	1.2%	4,058	1.2%	4,186	1.2%
	*足助地区	5,747	1.6%	6,133	1.8%	6,700	1.9%
	*旭地区	1,964	0.6%	2,002	0.6%	2,115	0.6%
	*下山地区	1,171	0.3%	1,177	0.3%	1,057	0.3%
	*稲武地区	1,726	0.5%	1,861	0.5%	1,929	0.6%
	みよし市	41,668	11.7%	41,580	11.9%	43,445	12.6%
小計	332,127	93.3%	325,851	93.5%	319,249	92.7%	
東郷町	4,351	1.2%	4,210	1.2%	4,793	1.4%	
日進市	4,201	1.2%	4,108	1.2%	4,372	1.3%	
岡崎市	2,333	0.7%	2,679	0.8%	2,492	0.7%	
名古屋市	3,649	1.0%	3,554	1.0%	3,955	1.1%	
その他	9,211	2.6%	8,148	2.3%	9,638	2.8%	
小計	23,745	6.7%	22,699	6.5%	25,250	7.3%	
合計	355,872	100.0%	348,550	100.0%	344,499	100.0%	

西三河北部医療圏の外来患者数（人）



西三河北部医療圏以外の外来患者数（人）

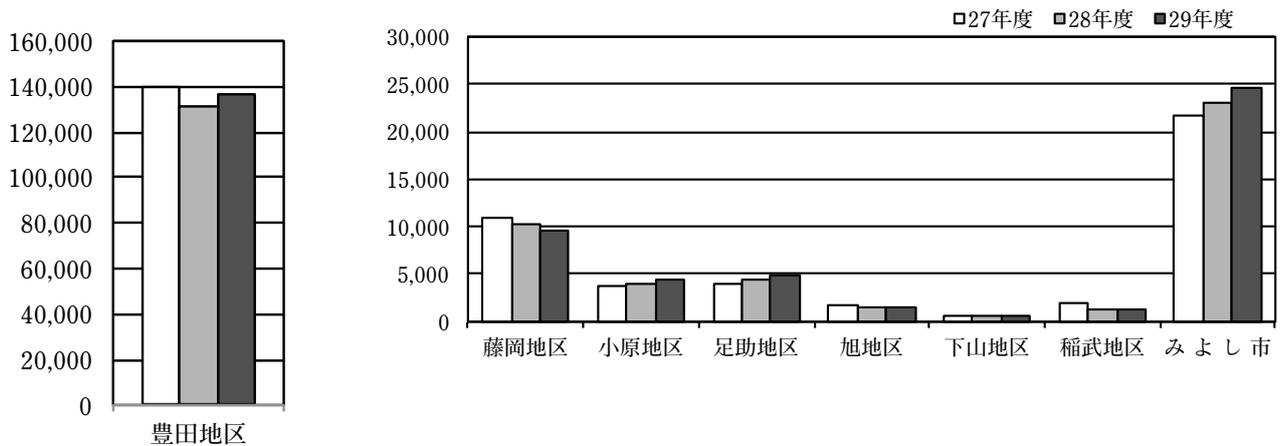


2) 市町村別入院利用状況 (延患者数)

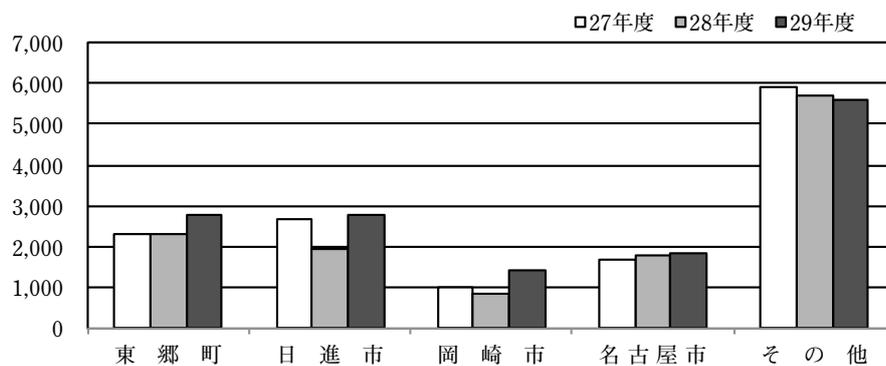
(単位：人)

市町村名	27年度		28年度		29年度		
	患者数	構成比	患者数	構成比	患者数	構成比	
西三河北部医療圏	豊田市全域	162,549	82.2%	153,709	81.1%	158,958	80.3%
	*豊田地区	139,602	70.6%	131,497	69.4%	136,197	68.8%
	*藤岡地区	11,018	5.6%	10,242	5.4%	9,673	4.9%
	*小原地区	3,671	1.9%	4,086	2.2%	4,543	2.3%
	*足助地区	3,992	2.0%	4,365	2.3%	4,898	2.5%
	*旭地区	1,737	0.9%	1,532	0.8%	1,626	0.8%
	*下山地区	641	0.3%	607	0.3%	692	0.3%
	*稲武地区	1,888	1.0%	1,380	0.7%	1,329	0.7%
	みよし市	21,596	10.9%	23,119	12.2%	24,523	12.4%
小計	184,145	93.1%	176,828	93.3%	183,481	92.7%	
東郷町	2,325	1.2%	2,309	1.2%	2,784	1.4%	
日進市	2,698	1.4%	1,965	1.0%	2,790	1.4%	
岡崎市	1,023	0.5%	845	0.4%	1,407	0.7%	
名古屋市	1,685	0.9%	1,776	0.9%	1,846	0.9%	
その他	5,937	3.0%	5,704	3.0%	5,618	2.8%	
小計	13,668	6.9%	12,599	6.7%	14,445	7.3%	
合計	197,813	100.0%	189,427	100.0%	197,926	100.0%	

西三河北部医療圏の入院患者数 (人)



西三河北部医療圏以外の入院患者数 (人)

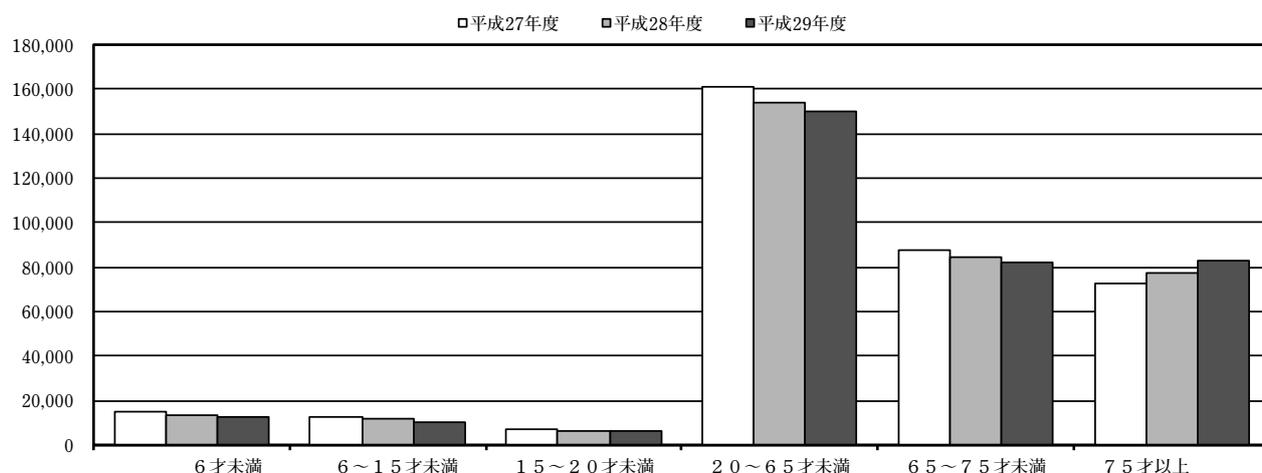


3. 年齢別利用状況

1) 年齢別外来利用状況 (延患者数)

(単位：人)

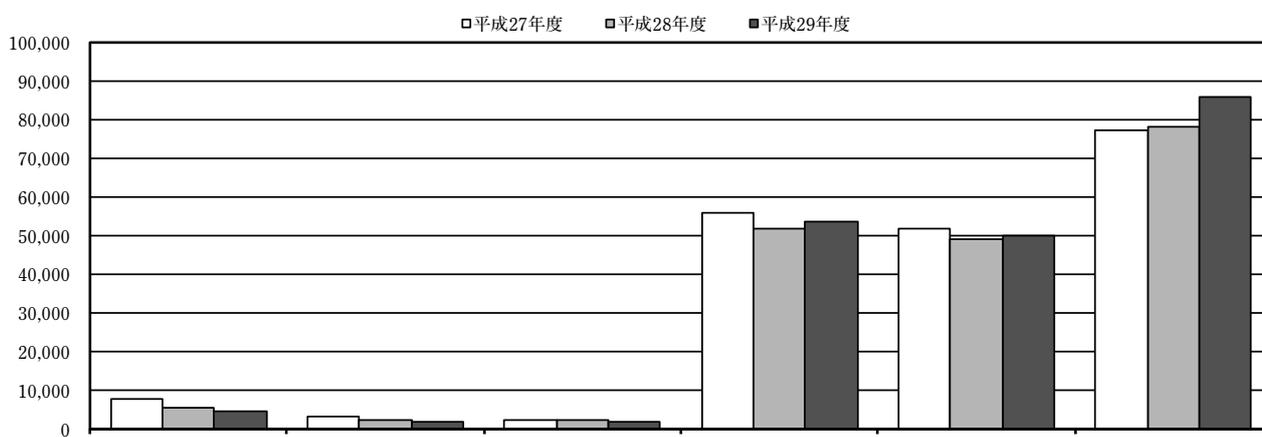
年齢	27年度		28年度		29年度	
	患者数	構成比	患者数	構成比	患者数	構成比
6才未満	15,145	4.3%	13,667	3.9%	12,518	3.6%
6～15才未満	12,293	3.5%	11,770	3.4%	10,449	3.0%
15～20才未満	6,988	2.0%	6,686	1.9%	6,238	1.8%
20～65才未満	160,801	45.2%	154,071	44.2%	150,200	43.6%
65～75才未満	87,939	24.7%	84,878	24.4%	82,063	23.8%
75才以上	72,706	20.4%	77,478	22.2%	83,031	24.1%
合計	355,872	100.0%	348,550	100.0%	344,499	100.0%



2) 年齢別入院利用状況 (延患者数)

(単位：人)

年齢	27年度		28年度		平成29年度	
	患者数	構成比	患者数	構成比	患者数	構成比
6才未満	7,618	3.9%	5,433	2.9%	4,457	2.3%
6～15才未満	3,033	1.5%	2,550	1.3%	1,966	1.0%
15～20才未満	2,308	1.2%	2,156	1.1%	1,946	1.0%
20～65才未満	56,139	28.4%	52,072	27.5%	53,600	27.1%
65～75才未満	51,643	26.1%	49,216	26.0%	49,835	25.2%
75才以上	77,072	39.0%	78,000	41.2%	86,122	43.5%
合計	197,813	100.0%	189,427	100.0%	197,926	100.0%



4. 救命救急センター外来利用状況

1) 診療科別患者数

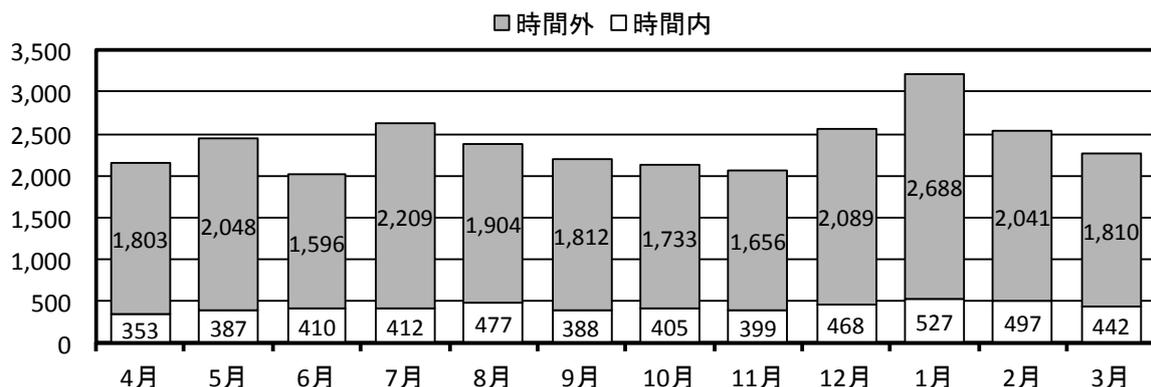
(単位：人)

診療科	時間内		時間外				時間外合計	合計
	延患者数	入院(再掲)	日直		当直			
			延患者数	入院(再掲)	延患者数	入院(再掲)		
内科	2,815	984	3,011	541	7,092	1,396	10,103	12,918
精神科	7	0	9	0	21	0	30	37
小児科	445	54	1,224	103	3,216	315	4,440	4,885
外科	179	106	142	70	437	267	579	758
整形外科	690	105	1,000	87	1,764	141	2,764	3,454
形成外科	157	2	247	1	531	4	778	935
脳神経外科	326	107	275	53	738	142	1,013	1,339
呼吸器外科	12	5	29	4	18	7	47	59
心臓外科	4	3	1	0	14	11	15	19
皮膚科	110	9	288	12	602	21	890	1,000
泌尿器科	151	21	223	27	670	65	893	1,044
産婦人科	29	3	75	9	192	52	267	296
眼科	38	0	81	0	205	0	286	324
耳鼻咽喉科	179	14	358	20	724	33	1,082	1,261
麻酔科	1	0	3	0	10	0	13	14
歯科口腔外科	22	1	56	5	133	3	189	211
合計	5,165	1,414	7,022	932	16,367	2,457	23,389	28,554
前年度	5,162	1,361	6,814	792	16,775	2,544	23,589	28,751
前年対比	100.1%	103.9%	103.1%	117.7%	97.6%	96.6%	99.2%	99.3%

2) 月別患者数

(単位：人)

年月日	時間内		時間外				時間外合計	合計	
	延患者数	入院(再掲)	日直		当直				
			延患者数	入院(再掲)	延患者数	入院(再掲)			
H26年	4月	353	95	519	72	1,284	198	1,803	2,156
	5月	387	124	644	90	1,404	204	2,048	2,435
	6月	410	118	387	56	1,209	217	1,596	2,006
	7月	412	93	673	93	1,536	232	2,209	2,621
	8月	477	134	548	68	1,356	213	1,904	2,381
	9月	388	105	508	74	1,304	205	1,812	2,200
	10月	405	122	472	82	1,261	193	1,733	2,138
	11月	399	118	459	84	1,197	213	1,656	2,055
	12月	468	128	676	83	1,413	219	2,089	2,557
H27年	1月	527	135	999	108	1,689	209	2,688	3,215
	2月	497	114	648	65	1,393	167	2,041	2,538
	3月	442	128	489	57	1,321	187	1,810	2,252
合計	5,165	1,414	7,022	932	16,367	2,457	23,389	28,554	



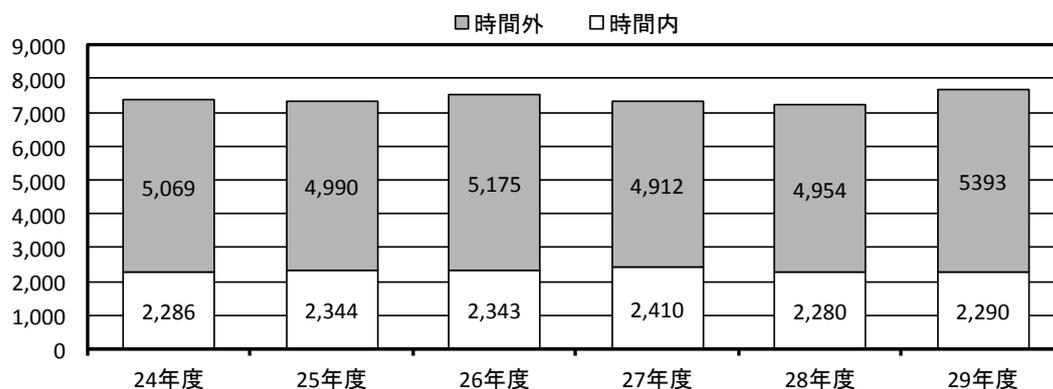


3) 救急車受入状況

①救急車受入数推移

(単位:人)

年度	時間内	時間外	総数	前年度比
24年度	2,343	5,069	7,412	101.6%
25年度	2,410	4,990	7,400	99.8%
26年度	2,280	5,175	7,455	100.7%
27年度	2,290	4,912	7,202	96.7%
28年度	2,338	4,954	7,292	101.2%
29年度	2,484	5,393	7,877	108.0%



②診療科別救急車受入数

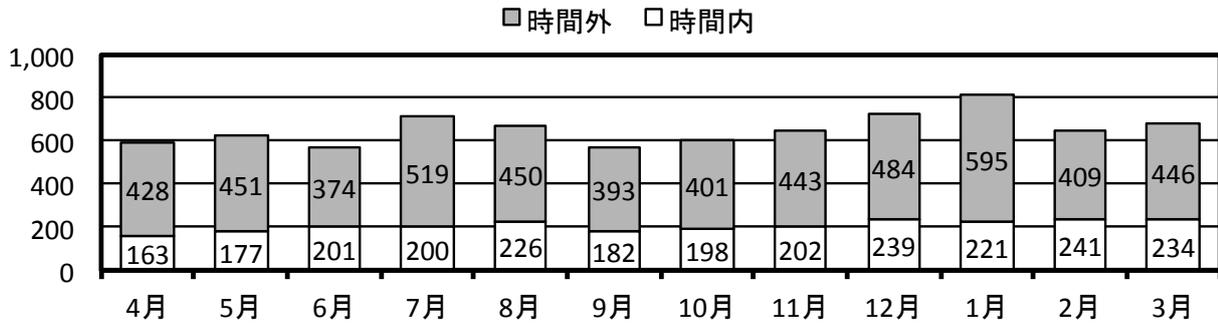
(単位:人)

診療科	時間内		時間外				時間外合計	合計
	延患者数	入院(再掲)	日直		当直			
			延患者数	入院(再掲)	延患者数	入院(再掲)		
内科	1,462	750	658	308	2,298	922	2,956	4,418
精神科	1	0	0	0	7	0	7	8
小児科	78	21	54	23	285	111	339	417
外科	93	69	39	29	160	119	199	292
整形外科	414	95	287	61	544	104	831	1,245
形成外科	46	1	30	1	86	4	116	162
脳神経外科	190	96	105	30	300	122	405	595
呼吸器外科	6	5	4	4	9	6	13	19
心臓外科	4	3	0	0	10	9	10	14
皮膚科	18	4	9	2	36	12	45	63
泌尿器科	58	13	32	16	146	30	178	236
産婦人科	7	1	9	3	31	15	40	47
眼科	6	0	2	0	9	0	11	17
耳鼻咽喉科	97	12	38	6	192	12	230	327
麻酔科	0	0	0	0	0	0	0	0
歯科口腔外科	4	1	2	0	11	2	13	17
合計	2,484	1,071	1,269	483	4,124	1,468	5,393	7,877
前年度	2,338	1,003	1,030	353	3,924	1,416	4,954	7,292
前年対比	106.2%	106.8%	123.2%	136.8%	105.1%	103.7%	108.9%	108.0%

③月別救急車受入数

(単位：人)

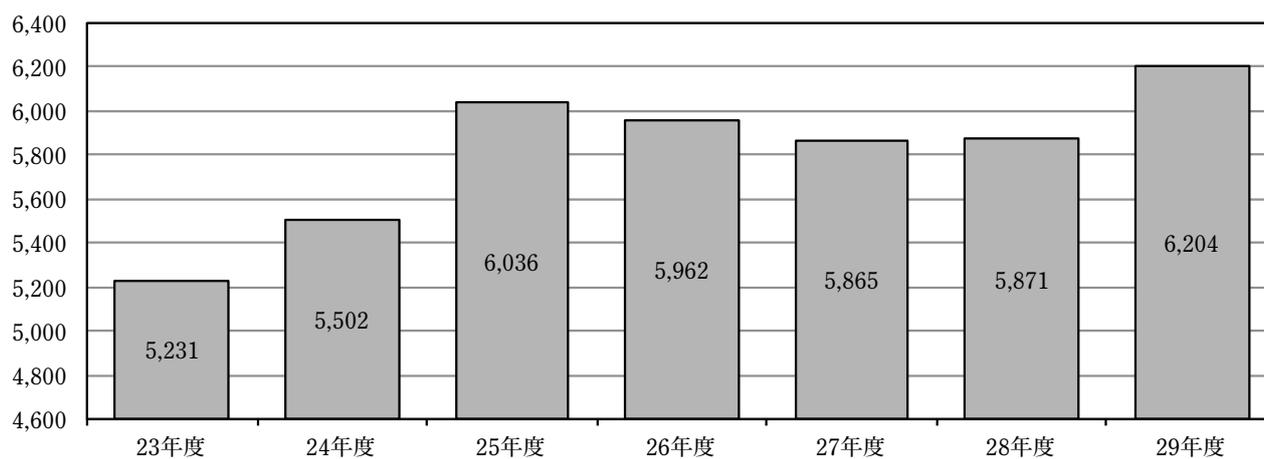
年月日	時間内		時間外				時間外 合計	合計	
	延患者数	入院 (再掲)	日直		当直				
			延患者数	入院 (再掲)	延患者数	入院 (再掲)			
H26年	4月	163	74	85	35	343	124	428	591
	5月	177	89	124	50	327	113	451	628
	6月	201	96	75	29	299	122	374	575
	7月	200	70	132	52	387	144	519	719
	8月	226	93	105	31	345	116	450	676
	9月	182	69	93	43	300	109	393	575
	10月	198	87	78	37	323	108	401	599
	11月	202	84	115	47	328	131	443	645
H27年	12月	239	101	104	36	380	134	484	723
	1月	221	106	170	60	425	147	595	816
	2月	241	97	92	32	317	107	409	650
合計	234	105	96	31	350	113	446	680	
合計	2,484	1,071	1,269	483	4,124	1,468	5,393	7,877	



5. 手術件数

診療科	28年度		29年度	
	件数	緊急（再掲）	件数	緊急（再掲）
内科	80	12	87	3
外科	1,367	286	1,505	324
整形外科	1,077	188	1,193	250
形成外科	365	10	330	9
脳神経外科	231	108	296	146
呼吸器外科	177	5	216	9
心臓外科	110	23	114	22
皮膚科	27	0	28	0
泌尿器科	366	7	362	4
産婦人科	541	62	567	53
眼科	961	17	934	17
耳鼻咽喉科	347	21	323	18
歯科口腔外科	209	1	236	2
麻酔科	13	1	13	2
合計	5,871	741	6,204	859

□手術件数



6. 分娩数・死亡数・剖検数

(単位：人)

区分	28年度		29年度		
	当院	豊田市	当院	豊田市	
分娩数	270	3,709	231	3,666	
死亡数	悪性新生物	379	914	345	850
	肺炎及び気管支炎	64	296	48	296
	心疾患	55	181	40	170
	脳血管疾患	38	211	37	229
	老衰	3	301	7	373
	腎疾患	14	94	20	106
	不慮の事故	12	50	21	55
	肝疾患	17	48	21	41
	自殺	1	64	1	40
	高血圧性疾患	1	8	0	6
	その他	168	855	240	891
合計	752	3,022	780	3,057	
剖検数	15	—	16	—	

(注)

- 1) 当院の死亡数は、入院中に死亡した数
- 2) 豊田市の人数は1月～12月の数字を計上

平成29年度 悪性新生物（発生臓器別内訳）

〔当院〕

順位	臓器名	件数
1	肺	67
2	胃	47
3	結腸	31
4	膵	31
5	肝	28

〔豊田市〕

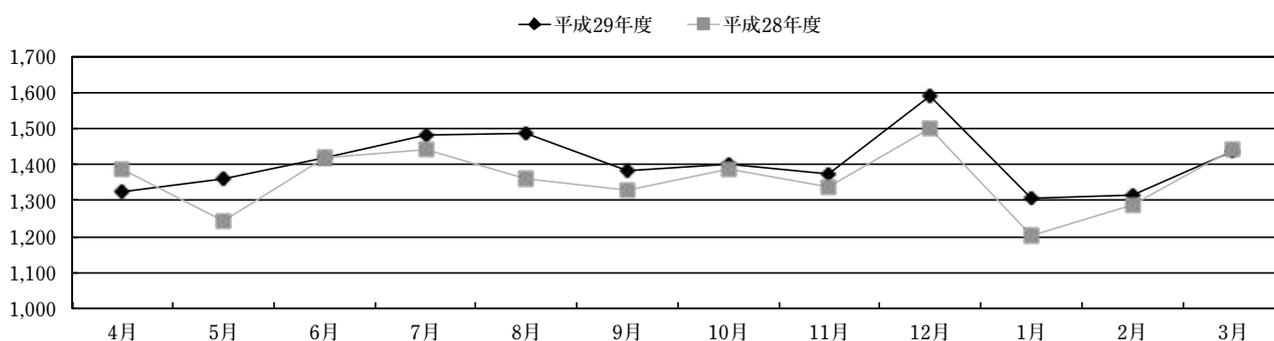
順位	臓器名	件数
1	肺	161
2	胃	113
3	結腸	78
4	肝	69
5	膵	68

7. 退院患者統計

集計の対象は入院年月日にかかわらず、平成29年4月1日から平成30年3月31日までの退院患者とした。データは退院サマリおよび電子カルテ本文より抽出した。

1) 診療科別・月別退院患者数

	総数	比率	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	死亡
総数	16,881	100.0%	1,323	1,361	1,418	1,482	1,488	1,385	1,402	1,375	1,592	1,305	1,314	1,436	780
内科	7,472	44.3%	616	597	631	617	634	574	616	600	706	602	610	669	574
小児科	1,201	7.1%	82	97	101	119	122	102	111	99	135	91	64	78	0
外科	1,833	10.9%	150	144	174	154	166	178	143	158	166	138	132	130	93
整形外科	1,207	7.2%	88	97	80	105	97	95	102	110	125	92	109	107	7
形成外科	207	1.2%	23	19	12	15	16	13	23	19	23	13	16	15	0
脳神経外科	510	3.0%	34	40	43	47	37	43	53	40	43	45	40	45	41
呼吸器外科	246	1.5%	18	14	16	24	16	25	19	27	24	18	24	21	9
心臓血管外科	106	0.6%	10	7	9	9	8	4	5	18	9	8	8	11	2
皮膚科	196	1.2%	15	17	20	20	22	25	13	23	9	15	9	8	2
泌尿器科	819	4.9%	70	75	75	70	65	72	76	58	73	55	69	61	30
産婦人科	1,044	6.2%	74	96	91	99	99	83	88	77	97	80	84	76	11
眼科	682	4.0%	42	63	67	59	66	48	50	53	55	54	55	70	0
耳鼻咽喉科	569	3.4%	37	45	43	69	61	51	45	38	50	40	31	59	10
麻酔科	7	0.0%	3	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0
歯科口腔外科	782	4.6%	61	48	56	75	79	71	58	54	77	54	63	86	1
28年度	16,345		1,386	1,243	1,421	1,441	1,361	1,331	1,386	1,340	1,502	1,201	1,290	1,443	



2) 診療科別・死亡退院患者数

	総数	比率	剖検数	剖検率	平均 在院日数	48時間 以内死亡	粗死亡率	精死亡率
総数	780	100.0%	13	1.7%	21.2	109	4.6%	4.0%
内科	574	73.6%	13	2.3%	21.0	82	7.7%	6.6%
小児科	0	-	-	-	0	-	-	-
外科	93	11.9%	0	0.0%	20.9	10	5.1%	4.5%
整形外科	7	0.9%	0	0.0%	17.7	1	0.6%	0.5%
形成外科	0	-	-	-	0	-	-	-
脳神経外科	41	5.3%	0	0.0%	19.2	9	8.0%	6.3%
呼吸器外科	9	1.2%	0	0.0%	24.6	0	3.7%	3.7%
心臓血管外科	2	0.3%	0	0.0%	26.5	0	1.9%	1.9%
皮膚科	2	0.3%	0	0.0%	47.5	0	1.0%	1.0%
泌尿器科	30	3.8%	0	0.0%	22.3	4	3.7%	3.2%
産婦人科	11	1.4%	0	0.0%	32.6	2	1.1%	0.9%
眼科	0	-	-	-	0	-	-	-
耳鼻咽喉科	10	1.3%	0	0.0%	23.1	1	1.8%	1.6%
麻酔科	0	-	-	-	0	-	-	-
歯科口腔外科	1	0.1%	0	0.0%	12.0	0	0.1%	0.1%

※精死亡率：(総死亡数－入院後48時間以内死亡数) / 退院患者数 × 100 を表す

3) 地域別・年齢階層別退院患者数

地域	性別	総数	比率 (%)	平均年齢	～9歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	～79歳	～89歳	90歳～
総数	計	16,881	100.0	59.16	1,318	502	732	906	1,298	1,645	2,998	4,241	2,619	622
	男	9,457	100.0	59.34	776	286	329	380	676	957	1,846	2,635	1,358	214
	女	7,424	100.0	58.94	542	216	403	526	622	688	1,152	1,606	1,261	408
井郷地区	計	706	4.2	60.52	46	26	21	39	55	67	114	198	118	22
	男	381	4.0	59.46	28	14	12	18	26	41	65	112	61	4
	女	325	4.4	61.77	18	12	9	21	29	26	49	86	57	18
猿投地区	計	468	2.8	59.21	35	17	18	25	45	36	89	105	75	23
	男	266	2.8	59.17	23	11	9	6	19	23	61	69	35	10
	女	202	2.7	59.26	12	6	9	19	26	13	28	36	40	13
猿投台地区	計	708	4.2	62.82	39	19	20	32	33	87	117	210	127	24
	男	399	4.2	63.12	24	10	6	18	22	53	58	115	80	13
	女	309	4.2	62.43	15	9	14	14	11	34	59	95	47	11
逢妻地区	計	1,282	7.6	61.54	79	24	58	73	86	105	246	347	216	48
	男	722	7.6	61.86	41	13	25	40	47	63	153	214	116	10
	女	560	7.5	61.13	38	11	33	33	39	42	93	133	100	38
朝日丘地区	計	793	4.7	59.46	62	22	24	36	74	95	138	168	136	38
	男	430	4.5	58.50	38	10	12	15	44	48	87	103	62	11
	女	363	4.9	60.61	24	12	12	21	30	47	51	65	74	27
崇化館地区	計	1,314	7.8	63.71	75	35	38	45	89	128	211	366	244	83
	男	737	7.8	63.19	38	24	12	22	52	76	152	222	96	43
	女	577	7.8	64.39	37	11	26	23	37	52	59	144	148	40
豊南地区	計	260	1.5	57.13	29	3	13	8	23	22	57	62	36	7
	男	131	1.4	57.69	16	2	4	4	10	9	30	34	19	3
	女	129	1.7	56.57	13	1	9	4	13	13	27	28	17	4
保見地区	計	793	4.7	57.65	64	28	51	53	42	69	146	210	105	25
	男	435	4.6	58.36	37	17	21	20	20	44	84	127	59	6
	女	358	4.8	56.78	27	11	30	33	22	25	62	83	46	19
梅坪台地区	計	1,402	8.3	53.85	181	38	70	107	124	123	224	328	157	50
	男	771	8.2	54.16	104	20	32	42	59	83	131	208	72	20
	女	631	8.5	53.46	77	18	38	65	65	40	93	120	85	30
益富地区	計	288	1.7	61.52	17	9	8	6	23	22	71	94	33	5
	男	172	1.8	62.46	8	5	2	5	18	13	40	63	15	3
	女	116	1.6	60.13	9	4	6	1	5	9	31	31	18	2
美里地区	計	606	3.6	62.54	44	11	15	23	45	58	102	174	114	20
	男	317	3.4	64.00	23	6	5	7	18	33	50	100	70	5
	女	289	3.9	60.94	21	5	10	16	27	25	52	74	44	15
高橋地区	計	770	4.6	63.12	43	17	19	35	49	68	153	216	143	27
	男	436	4.6	61.55	28	12	8	18	32	32	109	126	66	5
	女	334	4.5	65.18	15	5	11	17	17	36	44	90	77	22
石野地区	計	214	1.3	65.52	13	5	6	5	8	11	53	55	41	17
	男	121	1.3	63.20	11	3	4	0	4	6	32	31	27	3
	女	93	1.3	68.54	2	2	2	5	4	5	21	24	14	14
松平地区	計	183	1.1	60.74	16	13	4	1	10	12	39	39	43	6
	男	107	1.1	57.21	11	10	2	0	8	4	29	22	21	0
	女	76	1.0	65.71	5	3	2	1	2	8	10	17	22	6
前林地区	計	395	2.3	62.19	29	11	8	16	18	45	69	123	59	17
	男	222	2.3	61.14	20	5	6	6	10	27	35	79	30	4
	女	173	2.3	63.54	9	6	2	10	8	18	34	44	29	13
竜神地区	計	442	2.6	61.44	24	8	20	20	37	44	76	136	60	17
	男	272	2.9	61.80	14	7	12	7	21	27	49	93	39	3
	女	170	2.3	60.87	10	1	8	13	16	17	27	43	21	14
若園地区	計	130	0.8	59.38	13	2	5	7	2	12	31	38	18	2
	男	58	0.6	56.95	9	0	1	2	1	5	18	14	7	1
	女	72	1.0	61.35	4	2	4	5	1	7	13	24	11	1
高岡地区	計	253	1.5	63.50	19	5	3	12	15	17	39	91	42	10
	男	161	1.7	66.36	9	2	1	8	6	12	20	63	35	5
	女	92	1.2	58.50	10	3	2	4	9	5	19	28	7	5
上郷地区	計	140	0.8	61.98	11	2	7	2	4	11	27	60	13	3
	男	72	0.8	63.38	6	1	1	1	1	9	13	27	11	2
	女	68	0.9	60.50	5	1	6	1	3	2	14	33	2	1

地域	性別	総数	比率 (%)	平均 年齢	～9歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	～79歳	～89歳	90歳～
末野原 地区	計	260	1.5	55.12	30	4	20	13	17	22	52	67	29	6
	男	166	1.8	55.81	18	0	15	7	10	18	33	47	17	1
	女	94	1.3	53.90	12	4	5	6	7	4	19	20	12	5
藤岡 地区	計	453	2.7	63.27	18	19	26	8	28	49	70	112	96	27
	男	234	2.5	61.97	11	7	15	3	15	25	42	77	34	5
	女	219	2.9	64.67	7	12	11	5	13	24	28	35	62	22
藤岡南 地区	計	376	2.2	56.80	25	13	25	19	26	59	73	90	33	13
	男	212	2.2	57.37	12	9	13	11	12	31	42	63	17	2
	女	164	2.2	56.07	13	4	12	8	14	28	31	27	16	11
小原 地区	計	290	1.7	69.28	10	6	8	11	10	22	49	56	86	32
	男	191	2.0	68.65	5	4	6	6	7	14	42	39	48	20
	女	99	1.3	70.49	5	2	2	5	3	8	7	17	38	12
足助 地区	計	366	2.2	67.33	12	6	4	7	14	38	101	81	86	17
	男	209	2.2	67.50	7	3	2	3	8	11	72	49	48	6
	女	157	2.1	67.10	5	3	2	4	6	27	29	32	38	11
下山 地区	計	60	0.4	63.05	4	1	2	0	4	9	12	12	10	6
	男	37	0.4	64.65	2	1	1	0	1	7	8	7	5	5
	女	23	0.3	60.48	2	0	1	0	3	2	4	5	5	1
稲武 地区	計	114	0.7	70.03	2	1	1	4	2	4	42	24	26	8
	男	80	0.8	68.96	1	1	1	2	1	3	35	17	15	4
	女	34	0.5	72.53	1	0	0	2	1	1	7	7	11	4
旭 地区	計	132	0.8	70.02	1	3	0	1	16	8	26	35	31	11
	男	85	0.9	71.29	1	1	0	0	6	5	23	24	20	5
	女	47	0.6	67.72	0	2	0	1	10	3	3	11	11	6
みよし市	計	2,270	13.4	54.92	228	107	113	112	234	235	354	559	293	35
	男	1,278	13.5	55.90	140	61	39	47	108	134	206	377	155	11
	女	992	13.4	53.65	88	46	74	65	126	101	148	182	138	24
東郷町	計	269	1.6	55.00	25	7	8	19	32	37	60	43	36	2
	男	145	1.5	55.13	16	3	5	6	19	18	25	31	22	0
	女	124	1.7	54.85	9	4	3	13	13	19	35	12	14	2
日進市	計	267	1.6	50.43	38	9	15	40	25	24	30	36	43	7
	男	140	1.5	47.16	26	8	6	14	14	16	16	20	18	2
	女	127	1.7	54.04	12	1	9	26	11	8	14	16	25	5
岡崎市	計	126	0.7	47.50	7	2	17	14	27	21	19	14	4	1
	男	69	0.7	48.03	3	1	9	5	18	13	13	4	3	0
	女	57	0.8	46.86	4	1	8	9	9	8	6	10	1	1
刈谷市	計	39	0.2	47.92	4	0	1	12	0	10	5	6	1	0
	男	22	0.2	49.50	3	0	0	5	0	6	4	3	1	0
	女	17	0.2	45.88	1	0	1	7	0	4	1	3	0	0
名古屋市	計	171	1.0	48.84	10	6	25	22	27	9	37	13	17	5
	男	77	0.8	50.87	3	2	11	7	12	5	23	7	5	2
	女	94	1.3	47.18	7	4	14	15	15	4	14	6	12	3
安城市	計	35	0.2	41.26	3	1	4	12	4	5	3	1	1	1
	男	21	0.2	45.38	0	1	3	6	3	3	3	1	1	0
	女	14	0.2	35.07	3	0	1	6	1	2	0	0	0	1
知立市	計	23	0.1	40.74	5	0	2	1	4	6	4	1	0	0
	男	13	0.1	41.54	3	0	1	1	1	3	3	1	0	0
	女	10	0.1	39.70	2	0	1	0	3	3	1	0	0	0
瀬戸市	計	63	0.4	45.32	10	0	10	6	3	12	8	13	1	0
	男	38	0.4	43.08	8	0	7	3	2	3	5	9	1	0
	女	25	0.3	48.72	2	0	3	3	1	9	3	4	0	0
長久手市	計	30	0.2	37.27	6	1	3	6	6	2	1	4	1	0
	男	17	0.2	37.82	5	0	1	3	1	2	1	4	0	0
	女	13	0.2	36.54	1	1	2	3	5	0	0	0	1	0
その他 市外	計	223	1.3	48.11	17	12	30	29	27	27	24	31	22	4
	男	123	1.3	48.97	10	6	15	9	16	20	15	24	8	0
	女	100	1.3	47.06	7	6	15	20	11	7	9	7	14	4
県外	計	167	1.0	48.75	24	9	10	25	10	14	26	23	23	3
	男	90	1.0	51.96	14	6	4	3	4	12	19	9	19	0
	女	77	1.0	45.00	10	3	6	22	6	2	7	14	4	3

4) 疾病別・診療科別退院患者数 (大分類)

国際分類大項目分類		総数	内科	小児科	外科	整形外科	形成外科	脳神経外科	呼吸器外科	心臓外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	麻酔科	歯科口腔外科	死亡数	剖検数
総数	計	16,881	7,472	1,201	1,833	1,207	207	510	246	106	196	819	1,044	682	569	7	782	780	13
	男	9,457	4,606	691	1,088	636	85	282	169	70	94	673	0	295	374	4	390	449	6
	女	7,424	2,866	510	745	571	122	228	77	36	102	146	1,044	387	195	3	392	331	7
I 感染症及び寄生虫症	計	440	239	116	11	2	1	0	5	0	42	5	3	1	10	3	2	32	2
	男	233	125	63	5	2	1	0	2	0	18	4	0	1	8	2	2	11	2
	女	207	114	53	6	0	0	0	3	0	24	1	3	0	2	1	0	21	0
II 新生物	計	3,268	1,299	2	734	15	42	56	137	0	34	277	488	1	146	1	36	342	5
	男	1,747	843	1	395	9	20	27	81	0	12	236	0	0	98	0	25	208	3
	女	1,521	456	1	339	6	22	29	56	0	22	41	488	1	48	1	11	134	2
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	計	124	84	14	16	0	0	0	0	0	2	2	6	0	0	0	0	11	0
	男	55	39	7	7	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	4	0
	女	69	45	7	9	0	0	0	0	0	2	0	6	0	0	0	0	7	0
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	計	347	310	14	6	2	1	0	1	0	0	0	0	5	8	0	0	10	0
	男	190	172	5	4	2	0	0	1	0	0	0	0	3	3	0	0	5	0
	女	157	138	9	2	0	1	0	0	0	0	0	0	2	5	0	0	5	0
V 精神及び行動の障害	計	38	31	5	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	18	15	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	20	16	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
VI 神経系の疾患	計	408	285	21	0	57	2	29	0	1	0	0	0	0	13	0	0	12	3
	男	257	192	10	0	26	2	20	0	1	0	0	0	0	6	0	0	4	1
	女	151	93	11	0	31	0	9	0	0	0	0	0	0	7	0	0	8	2
VII 眼及び付属器の疾患	計	728	1	0	0	0	56	0	0	0	0	0	0	670	1	0	0	0	0
	男	309	1	0	0	0	20	0	0	0	0	0	0	288	0	0	0	0	0
	女	419	0	0	0	0	36	0	0	0	0	0	0	382	1	0	0	0	0
VIII 耳及び乳様突起の疾患	計	104	4	12	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	87	0	0	0	0
	男	48	3	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	40	0	0	0	0
	女	56	1	7	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	47	0	0	0	0
IX 循環器系の疾患	計	2,507	2,070	2	118	2	4	204	0	103	1	1	0	0	2	0	0	109	2
	男	1,594	1,337	2	85	1	3	96	0	67	1	1	0	0	1	0	0	56	0
	女	913	733	0	33	1	1	108	0	36	0	0	0	0	1	0	0	53	2
X 呼吸器系の疾患	計	1,899	992	542	12	0	0	0	80	0	0	0	2	0	269	0	2	141	0
	男	1,219	645	303	5	0	0	0	69	0	0	0	0	0	196	0	1	95	0
	女	680	347	239	7	0	0	0	11	0	0	0	2	0	73	0	1	46	0
XI 消化器系の疾患	計	2,493	896	17	855	0	3	0	0	0	0	1	2	0	6	0	713	53	0
	男	1,398	505	12	540	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2	0	337	30	0
	女	1,095	391	5	315	0	2	0	0	0	0	0	2	0	4	0	376	23	0
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	計	185	30	19	1	1	31	0	0	0	94	1	1	0	7	0	0	4	0
	男	100	15	10	1	1	15	0	0	0	52	0	0	0	6	0	0	2	0
	女	85	15	9	0	0	16	0	0	0	42	1	1	0	1	0	0	2	0
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	計	434	99	29	3	290	5	0	0	1	2	0	0	0	2	3	0	6	0
	男	229	41	16	1	164	1	0	0	1	1	0	0	0	2	2	0	2	0
	女	205	58	13	2	126	4	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	4	0
XIV 尿路性器系の疾患	計	936	350	25	13	1	3	1	0	0	0	342	201	0	0	0	0	27	1
	男	444	180	14	6	1	0	0	0	0	0	243	0	0	0	0	0	10	0
	女	492	170	11	7	0	3	1	0	0	0	99	201	0	0	0	0	17	1
XV 妊娠、分娩及び産褥	計	327	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	327	0	0	0	0	0	0
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	327	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	327	0	0	0	0	0	0

国際分類大項目分類		総数	内科	小児科	外科	整形外科	形成外科	脳神経外科	呼吸器外科	心臓外科	皮膚科	泌尿器科	産婦人科	眼科	耳鼻咽喉科	麻酔科	歯科口腔外科	死亡数	剖検数
XVI 周産期に発生した病態	計	62	0	62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	男	42	0	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	20	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
XVII 先天奇形, 変形及び染色体異常	計	37	6	3	3	5	1	1	6	0	0	2	3	0	5	0	2	0	0
	男	17	2	2	1	3	0	1	2	0	0	2	0	0	2	0	2	0	0
	女	20	4	1	2	2	1	0	4	0	0	0	3	0	3	0	0	0	0
XVIII 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	計	191	54	117	6	1	1	0	0	0	0	5	0	0	6	0	1	5	0
	男	109	24	70	3	1	1	0	0	0	0	4	0	0	5	0	1	4	0
	女	82	30	47	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
XIX 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	計	1,112	110	19	38	654	27	187	17	1	21	15	2	4	7	0	10	28	0
	男	610	52	16	24	326	15	123	14	1	10	12	0	3	5	0	9	18	0
	女	502	58	3	14	328	12	64	3	0	11	3	2	1	2	0	1	10	0
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	計	1,241	612	182	16	177	30	30	0	0	0	168	9	1	0	0	16	0	0
	男	838	415	112	10	100	6	14	0	0	0	168	0	0	0	0	13	0	0
	女	403	197	70	6	77	24	16	0	0	0	0	9	1	0	0	3	0	0

※主病名に対する死亡数であるため、死因統計とは異なる

5) 診療科別・在院期間別退院患者数

		総数	1~8日	9~15日	16~22日	23~31日	1~2月	2~3月	3~6月	6月~1年	1年~2年	2年~	平均在院日数
総数	計	16,881	9,855	3,311	1,473	965	1,042	164	64	7	0	0	11.7
	男	9,457	5,498	1,856	862	532	579	89	36	5	0	0	11.7
	女	7,424	4,357	1,455	611	433	463	75	28	2	0	0	11.7
内科	計	7,472	3,561	1,868	812	531	593	78	26	3	0	0	13.6
	男	4,606	2,322	1,123	468	305	324	49	12	3	0	0	12.9
	女	2,866	1,239	745	344	226	269	29	14	0	0	0	14.7
小児科	計	1,201	1,141	45	12	2	1	0	0	0	0	0	4.1
	男	691	657	24	8	2	0	0	0	0	0	0	4.1
	女	510	484	21	4	0	1	0	0	0	0	0	4.1
外科	計	1,833	914	431	215	117	120	23	11	2	0	0	13.6
	男	1,088	547	228	148	65	75	14	10	1	0	0	13.9
	女	745	367	203	67	52	45	9	1	1	0	0	13.2
整形外科	計	1,207	524	158	193	159	136	26	10	1	0	0	16.8
	男	636	310	91	80	66	74	9	5	1	0	0	15.5
	女	571	214	67	113	93	62	17	5	0	0	0	18.3
形成外科	計	207	163	18	2	3	10	7	3	1	0	0	11.6
	男	85	68	5	0	3	6	2	1	0	0	0	10.8
	女	122	95	13	2	0	4	5	2	1	0	0	12.1
脳神経外科	計	510	140	126	76	49	93	18	8	0	0	0	21.7
	男	282	71	74	48	30	46	9	4	0	0	0	21.3
	女	228	69	52	28	19	47	9	4	0	0	0	22.1
呼吸器外科	計	246	54	152	20	12	5	1	2	0	0	0	13.1
	男	169	37	103	15	8	3	1	2	0	0	0	13.6
	女	77	17	49	5	4	2	0	0	0	0	0	12.2
心臓血管外科	計	106	4	4	36	35	22	4	1	0	0	0	29.4
	男	70	2	2	26	23	14	2	1	0	0	0	28.9
	女	36	2	2	10	12	8	2	0	0	0	0	30.5
皮膚科	計	196	134	46	5	2	9	0	0	0	0	0	9.1
	男	94	65	21	3	0	5	0	0	0	0	0	9.3
	女	102	69	25	2	2	4	0	0	0	0	0	8.9

		総数	1～8日	9～15日	16～22日	23～31日	1～2月	2～3月	3～6月	6月～1年	1年～2年	2年～	平均在院日数
泌尿器科	計	819	624	109	49	17	18	1	1	0	0	0	7.6
	男	673	522	83	42	12	13	0	1	0	0	0	7.2
	女	146	102	26	7	5	5	1	0	0	0	0	9.4
産婦人科	計	1,044	807	193	17	11	12	3	1	0	0	0	6.9
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	1,044	807	193	17	11	12	3	1	0	0	0	6.9
眼 科	計	682	624	38	13	6	1	0	0	0	0	0	3.7
	男	295	264	23	7	0	1	0	0	0	0	0	3.9
	女	387	360	15	6	6	0	0	0	0	0	0	3.5
耳鼻咽喉科	計	569	430	100	9	10	19	1	0	0	0	0	8.7
	男	374	278	63	7	9	16	1	0	0	0	0	9.2
	女	195	152	37	2	1	3	0	0	0	0	0	7.6
麻 酔 科	計	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.0
	男	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.0
	女	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.0
歯科口腔外科	計	782	728	23	14	11	3	2	1	0	0	0	4.2
	男	390	351	16	10	9	2	2	0	0	0	0	5.0
	女	392	377	7	4	2	1	0	1	0	0	0	3.4

6) 疾病別・在院期間別退院患者数 (大分類)

国際分類大項目分類		総数	1～8日	9～15日	16～22日	23～31日	1～2月	2～3月	3～6月	6月～1年	1年～2年	2年～	平均在院日数
総 数	計	16,881	9,855	3,311	1,473	965	1,042	164	64	7	0	0	11.7
	男	9,457	5,498	1,856	862	532	579	89	36	5	0	0	11.7
	女	7,424	4,357	1,455	611	433	463	75	28	2	0	0	11.7
I 感染症及び寄生虫症	計	440	278	84	34	15	24	3	2	0	0	0	10.9
	男	233	143	49	20	7	11	1	2	0	0	0	11.0
	女	207	135	35	14	8	13	2	0	0	0	0	10.8
II 新生物	計	3,268	1,352	919	411	242	275	53	16	0	0	0	14.9
	男	1,747	614	508	272	145	162	35	11	0	0	0	16.3
	女	1,521	738	411	139	97	113	18	5	0	0	0	13.3
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	計	124	54	41	11	9	9	0	0	0	0	0	12.8
	男	55	25	19	3	3	5	0	0	0	0	0	13.4
	女	69	29	22	8	6	4	0	0	0	0	0	12.3
IV 内分泌, 栄養及び代謝疾患	計	347	183	82	42	18	14	6	1	1	0	0	13.5
	男	190	111	44	16	9	6	3	1	0	0	0	12.4
	女	157	72	38	26	9	8	3	0	1	0	0	14.9
V 精神及び行動の障害	計	38	10	10	6	6	6	0	0	0	0	0	17.5
	男	18	5	6	2	3	2	0	0	0	0	0	15.8
	女	20	5	4	4	3	4	0	0	0	0	0	19.1
VI 神経系の疾患	計	408	258	59	30	15	38	4	4	0	0	0	12.2
	男	257	169	36	19	7	23	2	1	0	0	0	11.0
	女	151	89	23	11	8	15	2	3	0	0	0	14.1
VII 眼及び付属器の疾患	計	728	675	35	13	5	0	0	0	0	0	0	3.5
	男	309	281	21	7	0	0	0	0	0	0	0	3.6
	女	419	394	14	6	5	0	0	0	0	0	0	3.3
VIII 耳及び乳様突起の疾患	計	104	75	28	1	0	0	0	0	0	0	0	6.7
	男	48	31	16	1	0	0	0	0	0	0	0	6.8
	女	56	44	12	0	0	0	0	0	0	0	0	6.5
IX 循環器系の疾患	計	2,507	1,240	514	297	210	195	36	12	3	0	0	14.1
	男	1,594	843	319	183	123	96	19	9	2	0	0	13.1
	女	913	397	195	114	87	99	17	3	1	0	0	15.9

国際分類大項目分類		総数	1～8日	9～15日	16～22日	23～31日	1～2月	2～3月	3～6月	6月～1年	1年～2年	2年～	平均在院日数
X 呼吸器系の疾患	計	1,899	1,088	400	144	109	134	17	7	0	0	0	12.3
	男	1,219	686	259	93	79	83	14	5	0	0	0	12.7
	女	680	402	141	51	30	51	3	2	0	0	0	11.6
X I 消化器系の疾患	計	2,493	1,696	486	136	81	84	6	3	1	0	0	8.8
	男	1,398	947	286	78	38	46	2	0	1	0	0	8.7
	女	1,095	749	200	58	43	38	4	3	0	0	0	9.0
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	計	185	99	50	17	2	16	1	0	0	0	0	12.4
	男	100	56	25	7	0	12	0	0	0	0	0	12.8
	女	85	43	25	10	2	4	1	0	0	0	0	11.9
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	計	434	96	83	79	91	65	11	7	2	0	0	23.1
	男	229	50	49	44	45	35	2	2	2	0	0	22.0
	女	205	46	34	35	46	30	9	5	0	0	0	24.3
X IV 尿路性器系の疾患	計	936	622	157	70	41	42	1	3	0	0	0	9.9
	男	444	306	62	36	22	17	1	0	0	0	0	9.6
	女	492	316	95	34	19	25	0	3	0	0	0	10.3
X V 妊娠、分娩及び産褥	計	327	228	86	6	4	2	1	0	0	0	0	7.5
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	327	228	86	6	4	2	1	0	0	0	0	7.5
X VI 周産期に発生した病態	計	62	57	4	1	0	0	0	0	0	0	0	6.5
	男	42	40	2	0	0	0	0	0	0	0	0	6.3
	女	20	17	2	1	0	0	0	0	0	0	0	7.0
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	計	37	28	7	0	0	2	0	0	0	0	0	7.8
	男	17	13	3	0	0	1	0	0	0	0	0	6.4
	女	20	15	4	0	0	1	0	0	0	0	0	9.0
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	計	191	150	19	8	5	7	1	1	0	0	0	8.0
	男	109	88	7	7	2	4	1	0	0	0	0	7.5
	女	82	62	12	1	3	3	0	1	0	0	0	8.8
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	計	1,112	460	224	164	109	127	20	8	0	0	0	16.4
	男	610	271	133	71	47	75	8	5	0	0	0	15.7
	女	502	189	91	93	62	52	12	3	0	0	0	17.2
XX I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	計	1,241	1,206	23	3	3	2	4	0	0	0	0	3.1
	男	838	819	12	3	2	1	1	0	0	0	0	3.0
	女	403	387	11	0	1	1	3	0	0	0	0	3.5

7) 疾病別・年齢階層別退院患者数 (大分類)

国際分類大項目分類		総数	0～9歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	～79歳	～89歳	90歳～	平均年齢
総数	計	16,881	1,318	502	732	906	1,298	1,645	2,998	4,241	2,619	622	59.16
	男	9,457	776	286	329	380	676	957	1,846	2,635	1,358	214	59.34
	女	7,424	542	216	403	526	622	688	1,152	1,606	1,261	408	58.94
I 感染症及び寄生虫症	計	440	101	26	19	26	29	26	47	78	69	19	48.28
	男	233	54	17	8	17	23	6	22	52	30	4	46.30
	女	207	47	9	11	9	6	20	25	26	39	15	50.51
II 新生物	計	3,268	8	15	42	79	293	381	889	1,081	419	61	66.60
	男	1,747	2	5	5	18	67	176	499	714	233	28	69.65
	女	1,521	6	10	37	61	226	205	390	367	186	33	63.09
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	計	124	13	3	3	3	4	8	14	42	31	3	63.19
	男	55	6	1	0	2	1	2	8	23	10	2	64.38
	女	69	7	2	3	1	3	6	6	19	21	1	62.25
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	計	347	13	3	10	25	42	57	53	73	59	12	60.84
	男	190	4	2	6	13	28	37	27	39	29	5	60.41
	女	157	9	1	4	12	14	20	26	34	30	7	61.36

国際分類大項目分類		総数	0～9歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	～79歳	～89歳	90歳～	平均年齢
V 精神及び行動の障害	計	38	0	7	1	1	6	4	5	6	8	0	55.24
	男	18	0	3	1	0	4	1	3	3	3	0	54.83
	女	20	0	4	0	1	2	3	2	3	5	0	55.60
VI 神経系の疾患	計	408	20	11	14	24	60	74	75	90	37	3	56.65
	男	257	10	8	10	16	39	51	47	60	14	2	55.87
	女	151	10	3	4	8	21	23	28	30	23	1	57.97
VII 眼及び付属器の疾患	計	728	0	1	1	6	22	56	161	306	163	12	71.90
	男	309	0	0	1	3	9	19	66	134	73	4	72.10
	女	419	0	1	0	3	13	37	95	172	90	8	71.75
VIII 耳及び乳様突起の疾患	計	104	19	1	4	8	10	28	12	13	9	0	47.42
	男	48	9	1	0	3	8	10	4	8	5	0	48.63
	女	56	10	0	4	5	2	18	8	5	4	0	46.39
IX 循環器系の疾患	計	2,507	1	11	11	46	141	287	538	830	521	121	70.31
	男	1,594	1	5	7	33	109	214	407	520	261	37	68.20
	女	913	0	6	4	13	32	73	131	310	260	84	74.00
X 呼吸器系の疾患	計	1,899	576	76	79	58	67	70	149	294	374	156	48.03
	男	1,219	336	52	56	43	52	47	105	216	255	57	48.54
	女	680	240	24	23	15	15	23	44	78	119	99	47.10
XI 消化器系の疾患	計	2,493	88	195	311	195	219	225	362	500	303	95	54.15
	男	1,398	51	94	133	118	141	142	221	313	149	36	54.83
	女	1,095	37	101	178	77	78	83	141	187	154	59	53.29
XII 皮膚及び皮下組織の疾患	計	185	23	2	6	15	19	31	25	27	33	4	54.86
	男	100	12	1	5	10	15	15	12	13	17	0	52.18
	女	85	11	1	1	5	4	16	13	14	16	4	58.01
XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患	計	434	34	17	13	22	31	49	79	123	59	7	58.78
	男	229	18	10	11	17	17	22	43	61	28	2	56.33
	女	205	16	7	2	5	14	27	36	62	31	5	61.51
XIV 尿路性器系の疾患	計	936	26	12	31	74	128	111	162	198	159	35	61.19
	男	444	19	5	7	20	44	60	98	116	66	9	62.30
	女	492	7	7	24	54	84	51	64	82	93	26	60.18
XV 妊娠、分娩及び産褥	計	327	0	3	71	217	36	0	0	0	0	0	33.08
	男	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	女	327	0	3	71	217	36	0	0	0	0	0	33.08
XVI 周産期に発生した病態	計	62	62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	男	42	42	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
	女	20	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
XVII 先天奇形、変形及び染色体異常	計	37	10	6	5	3	1	5	3	3	1	0	31.97
	男	17	6	4	4	1	0	2	0	0	0	0	19.47
	女	20	4	2	1	2	1	3	3	3	1	0	42.60
XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	計	191	115	3	1	2	3	12	9	18	20	8	29.01
	男	109	68	3	0	0	1	5	5	12	9	6	27.90
	女	82	47	0	1	2	2	7	4	6	11	2	30.49
XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	計	1,112	44	62	78	54	95	97	155	205	244	78	60.94
	男	610	35	44	50	40	64	65	87	110	94	21	54.89
	女	502	9	18	28	14	31	32	68	95	150	57	68.29
XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	計	1,241	165	48	32	48	92	124	260	354	110	8	54.59
	男	838	103	31	25	26	54	83	192	241	82	1	55.60
	女	403	62	17	7	22	38	41	68	113	28	7	52.49



8) 診療科別疾患順位（細分類）

細分類病名のままではわかりにくいものに関しては、一部修正を加え掲載

<内科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	I48	心房細動及び粗動	424	4.9	10.5	213	1
2	I500	うっ血性心不全	375	19.9	29.5	217	1
3	J690	誤嚥性肺炎	257	23.1	30	88	1
4	I208	その他の型の狭心症	236	4.2	10.5	55	2
5	J189	肺炎、その他	185	24.9	30.5	78	1
6	Z122	肺生検入院	154	2	3	4	2
7	Z138	その他の検査（睡眠時無呼吸，腎生検，気管支鏡）入院	152	2.6	6	13	2
8	N180	末期腎疾患	131	19.2	26	106	2
9	C220	肝細胞癌	123	11.9	15	72	1
10	C341	上葉、気管支又は肺の悪性新生物	120	18.1	22	91	1

<小児科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	J189	肺炎、その他	118	4.6	6	15	2
2	Z130	食物負荷試験	94	1	1.5	2	1
3	R560	熱性けいれん	92	3.6	4.5	9	2
4	J209	急性気管支炎、その他	61	4.2	4.5	9	1
5	A09	急性胃腸炎	53	3.2	3.5	8	1
6	J069	急性上気道炎、その他	52	3.9	4.5	7	2
7	J450	小児気管支喘息	44	4.1	4.5	7	2
8	J029	急性咽頭炎、その他	36	4.1	4.5	7	2
9	Z016	MR I 検査入院	32	1	1	1	1
	J210	R S ウイルスによる急性細気管支炎	32	3.8	4	6	2
10	J121	R S ウイルスによる肺炎	29	4.2	5	8	3

<外科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	K409	片側単径ヘルニア	167	3.2	6	10	2
2	K801	胆のう炎を伴う胆のう結石症	94	6.6	9	16	4
3	K913	術後腸閉塞	88	11.7	16	52	2
4	K359	急性虫垂炎、その他	83	5.2	6	11	2
5	C162	胃体部の悪性新生物	76	20.4	22	111	3
6	C19	直腸 S 状結腸移行部の悪性新生物	49	19.2	18.5	53	2
7	C504	乳房上下外側 4 分の 1 の悪性新生物	48	8.8	10	21	5
8	K350	汎発性腹膜炎を伴う急性虫垂炎	45	11.8	12	54	4
	C20	直腸の悪性新生物	45	25.6	22.5	95	2
9	C163	下肢の閉塞性動脈硬化症	42	27.7	20	218	2
10	C182	上行結腸の悪性腫瘍	40	19.9	18	84	3

<整形外科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	S7200	大腿骨頸部骨折、閉鎖性	124	25.7	30	90	3
2	Z470	術後抜釘入院	112	3.1	4.5	8	2
3	S7210	大腿骨転子部貫通骨折、閉鎖性	107	22.9	25.5	76	1
4	Z138	脊髄造影検査入院	65	2.4	2.5	3	2
5	S5250	前腕橈骨遠位端骨折、閉鎖性	46	6.8	7	34	2
6	M4806	腰部脊柱管狭窄(症)	42	20.2	19.5	45	2
7	G560	手根管症候群	36	2.1	3	4	2
8	M171	原発性膝関節症	28	25.6	24	57	14
9	S4240	上腕骨遠位端骨折、閉鎖性	24	8.1	10	45	2
10	M512	脊椎椎間板ヘルニア	23	15.3	14	40	2

<形成外科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	H024	眼瞼下垂	48	2.4	4	9	2
2	Z421	術後乳房再建	20	6.1	8.5	15	2
3	D170	頭部、顔面及び頸部の皮膚及び皮下腫瘍	10	3.3	4.5	7	2
4	L905	皮膚の瘢痕状態及び線維症	9	5.1	6	11	2
5	Z424	下肢の形成手術後の経過観察	6	60.3	63	75	30
	D171	体幹の皮膚及び皮下腫瘍	6	3.5	3	8	2

<脳神経外科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	S0650	外傷性硬膜下出血	118	15.3	19	79	1
2	I610	脳内出血、皮質下	90	27.9	31.5	96	2
3	Z138	脳血管造影検査入院	30	2	2	3	1
4	S0660	外傷性くも膜下出血	23	20.7	12	145	1
5	I652	頸動脈の閉塞及び狭窄	18	22.9	15	81	9
6	D320	脳髄膜腫瘍	15	25.5	21.5	69	6
7	S0600	脳振とう<盪>(症)	13	4.2	5.5	9	2
8	S0620	びまん性脳損傷	12	27.6	27	99	1
	I600	非外傷性くも膜下出血	12	37.8	36	79	20
9	C793	脳の転移性悪性新生物	11	22.5	20.5	40	8
10	I675	もやもや病<ウイリス動脈輪閉塞症>	10	20.8	17	56	3

<呼吸器外科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	J931	自然気胸	53	9.5	11	26	5
2	C343	上葉、気管支又は肺の悪性新生物	50	13.2	14	31	4
3	C780	下葉、気管支又は肺の悪性新生物	35	11.2	10.5	20	3
4	J869	肺の転移性悪性新生物	16	9.7	9.5	12	7
5	C795	胸腺の悪性新生物	8	9.3	10	13	7
	C795	外傷性血気胸	8	10.9	10	20	8

＜心臓血管外科＞

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	I208	その他の型の狭心症	24	25.3	24.5	63	17
2	I710	大動脈の解離	13	34	33.5	57	14
3	I200	不安定狭心症	12	32.3	28.5	84	19
4	I351	大動脈弁閉鎖不全症	8	32.4	23	87	3
5	I340	僧帽弁閉鎖不全症	7	32.6	26.5	58	20

＜皮膚科＞

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	L031	四肢の蜂窩織炎	61	9	10.5	16	5
2	B029	合併症を伴わない帯状疱疹	18	7.4	6.5	9	4
3	T630	へび毒	12	6.2	6	8	5
4	A46	丹毒	10	8.2	7.5	17	5
	C443	顔面の皮膚の悪性新生物	10	2	2	2	2
5	C444	頭皮及び頸部の皮膚の悪性新生物	5	2	2	2	2
	B027	播種性帯状疱疹	5	8.2	8.5	9	8
	T782	アナフィラキシーショック	5	3.6	3.5	8	1

＜泌尿器科＞

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	Z125	前立腺生検検査入院	165	3	2.5	5	1
2	N201	尿管結石	135	5.9	9.5	59	1
3	C678	膀胱境界部病巣の悪性新生物	53	13.3	19	96	2
4	C672	膀胱側壁の悪性新生物	42	8.2	9	35	1
	C61	前立腺の悪性新生物	42	14.4	13.5	60	2
5	N10	急性尿細管間質性腎炎	37	8.1	9.5	26	5
6	N40	前立腺肥大症	36	7.9	12.5	17	6
7	N200	腎結石	29	4.7	5.5	18	3
8	C64	腎盂を除く腎の悪性新生物	28	15	13	58	2
9	N410	急性前立腺炎	21	9.2	8	22	4
10	C676	尿管口の膀胱の悪性新生物	17	5.1	6	9	4

＜産婦人科＞

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	C56	卵巣の悪性新生物	118	8.2	14.5	113	4
2	O800	自然頭位分娩	91	7.3	8	12	5
3	C541	子宮内膜の悪性新生物	85	5.7	8.5	17	1
4	D27	卵巣の良性新生物	52	7	10	23	5
5	N840	子宮体部ポリープ	44	2.8	2	3	1
6	D259	子宮平滑筋腫、その他	42	6.9	6	10	1
7	C539	子宮頸部の悪性新生物	39	11.2	13	50	3
8	O342	既往帝王切開後妊娠	36	9	8.5	9	8
9	D250	粘膜下子宮平滑筋腫	33	5.5	6	10	3
10	O470	妊娠満37週未満の偽陣痛	29	13.4	10	75	1

<眼科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	H251	老人性核白内障	332	2.2	7	21	1
2	H250	老人性初発白内障	232	2.5	2.5	3	2
3	H330	網膜裂孔を伴う網膜剥離	24	15	16	22	7
4	H353	黄斑及び後極の変性	21	9	9.5	17	4
5	H431	硝子体出血	17	7.4	8	15	5

<耳鼻咽喉科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	J36	扁桃周囲膿瘍	49	5.1	5.5	9	1
2	H912	突発性難聴	43	8.3	8	11	5
3	J350	慢性扁桃炎	37	7.6	8	17	4
4	J358	扁桃及びアデノイドのその他の慢性疾患	35	7	7	9	5
5	J328	慢性副鼻腔炎	29	6.8	6	8	4
6	H813	末梢性めまい<眩暈(症)>	27	4.7	5.5	10	1
7	C73	甲状腺の悪性新生物	26	9.6	10	19	7
8	J351	扁桃肥大	20	7	7	8	2
9	J342	鼻中隔彎曲症	15	7.1	7	8	6
10	C131	披裂喉頭蓋ひだ、下咽頭面の悪性新生物	14	24.9	24	80	3

<麻酔科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	B022	神経系合併症を伴う帯状疱疹	3	2	2	2	2
2	M512	脊椎椎間板ヘルニア	1	2	2	2	2
	M502	頸部椎間板ヘルニア	1	2	2	2	2
	M4722	神経根障害を伴う頸部脊椎症	1	2	2	2	2
	C341	上葉、気管支又は肺の悪性新生物	1	2	2	2	2

<歯科口腔外科>

順位	コード	病名	総数	平均在院日数	在院日数中央値	最高在院日数	最低在院日数
1	K073	下顎水平埋伏智歯	436	2.3	3	5	2
2	K011	埋伏歯<impacted teeth>	122	2.5	2.5	3	2
3	K048	歯根のう胞	27	4.1	5	10	2
4	K090	発育性歯原性のう胞	21	4.4	4.5	8	2
	K010	埋伏歯<embedded teeth>	21	2.7	3	4	2
5	K122	口腔の蜂窩織炎及び膿瘍	17	6.1	7	11	3

8. 剖検数

No.	年齢	性別	診療科	主臨床診断名
1	79	女	内科	M a l g リンパ腫の疑い
2	76	男	内科	敗血症
3	74	女	内科	急性腎不全
4	44	男	内科	肝腫瘍
5	36	男	救急科	心室細動
6	91	女	内科	M e t a 性肝腫瘍
7	59	女	内科	筋萎縮性側索硬化症
8	69	男	救急科	来院時心肺停止
9	60	男	内科	急性呼吸不全
10	69	男	内科	急性骨髄性 L e u k e m カンジダ性敗血症
11	83	女	内科	パーキンソン病
12	62	男	内科	敗血症
13	85	男	内科	L K の疑い
14	77	女	内科	脳梗塞
15	77	男	救急科	急性心筋梗塞の疑い 来院時心肺停止
16	82	女	内科	冠動脈バイパス術後 陳旧性心筋梗塞

9. 臨床研究

	依頼者	研究調査課題	科名	研究責任者名	症例数	期間
1		糖尿病ラウンドの効果についての検討と栄養士の関わり	栄養科	小林 憲司	全例	2017/4/14 ～ 2017/12/31
2		持続性心房細動のアブレーション術前に心臓 CT 遅延相を撮影することの有用性	放射線技術科	鷹羽 正悟	全例	2017/4/14 ～ 2017/12/31
3		突発性難聴における高気圧酸素療法の有効性と予後因子の検討	臨床工学技術科	中前 健二	全例	2017/5/2 ～ 2017/12/31
4	名古屋第二赤十字病院 小児腎臓科	愛知県小児腎臓病専門施設における、学校検尿有所見者の横断的および縦断的追跡調査	小児科	梶田 光春	全例	2017/5/9 ～ 2027/12/31
5	名古屋大学大学院医学系研究科循環器内科学 上原敬尋	心臓カテーテルアブレーションにおける心腔内エコーによる心房中隔測定および心内電位記録からの心房細動再発率の後ろ向き研究	循環器内科	金子 鎮二	全例	2017/5/2 ～ 2018/3/31
6		訪問看護師が認識する筋萎縮性側索硬化症療養者の終末期における在宅療養継続の障害～人工呼吸器を希望しない療養者に焦点を当てて	看護部	古賀 智美	全例	2017/5/12 ～ 2018/3/31
7		救急外来における低血糖症例の患者背景に関する検討	薬剤部	猪子 美保	全例	2017/5/23 ～ 2017/12/31
8		自閉症スペクトラム障害の特性 (Autistic like traits ; ALTs) を持つ患者の Wechsler Adult Intelligence Scale- III (WAIS- III) 特性と文章完成法テスト (SCT) および社会機能の関連について	精神科	渡邊 周一	120 例	2017/5/23 ～ 2019/3/31
9		当院におけるカテーテル培養検査の報告体制と検査状況の調査	臨床検査科	永田 悠起	全例	2017/6/8 ～ 2017/10/1
10	日本産婦人科学会婦人科腫瘍委員会	日本産婦人科学会婦人科腫瘍委員会 婦人科悪性腫瘍登録事業及び登録情報に基づく研究	産婦人科	新城 加奈子	全例	2017/6/27 ～ 2019/12/31
11	名古屋市立大学大学院医学研究科	HBs 抗原陽性びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫患者における、リツキシマブ併用化学療法後の B 型肝炎ウイルス再活性化関連肝障害に関する多施設共同後方視的観察研究	血液内科	鏡味 良豊	全例	2017/6/27 ～ 2018/12/31
12		消化器内科病棟におけるベテラン看護師の転倒に対するアセスメントの実態	看護部	下野 京子	全例	2017/7/13 ～ 2017/12/31
13	日本産科婦人科学会周産期委員会	日本産婦人科学会周産期委員会 周産期登録事業および登録情報に基づく研究	産婦人科	新城 加奈子	全例	2017/7/4 ～ 2019/12/31
14		心房細動に対するクライオアブレーションおよび高周波カテーテルアブレーション施行時の患者被ばく線量の調査	放射線技術科	村山 和宏	全例	2017/7/4 ～ 2017/10/31

	依頼者	研究調査課題	科名	研究責任者名	症例数	期間
15	名古屋大学大学院 医学系研究科	急性肺血栓塞栓症患者における慢性肺血栓塞栓症及び慢性血栓塞栓性肺高血圧症発症に関する前向き観察研究	循環器 内科	篠田 政典	全例	2017/7/25 ～ 2022/3/31
16	愛知県がんセンター	HER2 陽性の進行・再発乳癌に対するペルツズマブ再投与の有用性を検証する第Ⅲ相臨床研究－ペルツズマブ再投与試験－	外科	久留宮 康浩	全例	2017/7/7～ 2019/7/31
17	名古屋大学医学部 附属病院総合周産期 母子医療センター	RS ウイルス性細気管支炎に対するプラニルカストの有用性についての前方視的多施設共同研究 A prospective multicenter study of the efficacy of pranlukast hydrate on respiratory syncytial virus	小児科	生駒 雅信	全例	2017/7/26 ～ 2020/9/30
18		在宅における皮下埋め込み型中心静脈リザーバー管理の継続要因～家族に焦点を当てて～	地域医 療連携 課	藤原 紀代	3 例	2017/7/28 ～ 2017/12/31
19		リネゾリドによる血小板減少症のリスク因子の検討	薬剤部	酒井 幹康	全例	2017/8/18 ～ 2019/3/31
20	名古屋大学大学院 医学系研究科	東海地区肺高血圧患者の前向き追跡研究 -Nagoya PH Registry-	循環器 内科	篠田 政典	全例	2017/8/25 ～ 2021/3/31
21	愛知県病院薬剤師会 がん部会	ラムシルマブによる高血圧およびに蛋白尿のリスク因子の検索	薬剤部	近藤 有	全例	2017/9/1 ～ 2019/3/31
22	筑波大学	中等度の QRS 幅の拡大を認める左脚ブロック症例に対する aCRT を用いた心臓再同期療法に関する医師主導型臨床研究 Adoption of Adaptive CRT in Patients with LBBB and Moderate Wide QRS(aCRT MID-Q)	循環器 内科	金子 鎮二	全例	2017/9/1 ～ 2019/12/31
23		HCU に勤務する看護師のデスクンファレンス前後におけるターミナルケア態度	看護部	福田 郁栄	全例	2017/9/15 ～ 2018/12/31
24		腹水濾過濃縮再静注法 (CART) における蛋白回収率の検討	臨床工 学技術 科	谷 亮太	100 例	2017/10/3 ～ 2017/12/31
25	京都第二赤十字病院	小児救急重篤疾患登録調査	小児科	梶田 光春	全参加施設 250～ 500 例 / 年	2017/10/13 ～ 2021/12/31
26		乳癌化学療法におけるペグフィルグラスチム投与時期に関する現状調査	薬剤部	佐々木 英雄	全例	2017/11/10 ～ 2018/3/31
27		化学療法開始前の HBV スクリーニング実施状況の調査及び HBV 再活性化対策マニュアルの有効性の評価	薬剤部	榊原 崇芳	全例	2017/11/10 ～ 2018/3/31
28		終末期がん患者のその人らしさに焦点をおいた行動制限最小化にむけての緩和ケア看護師の判断要素	看護部	中岡 美恵子	6 例	2017/12/1 ～ 2018/6/30
29		既往帝王切開症例に対する腹腔鏡下子宮全摘出術の検討	産婦人 科	村上 真由子	130 例	2017/12/5 ～ 2018/2/28

	依頼者	研究調査課題	科名	研究責任者名	症例数	期間
30	名古屋大学医学部 附属病院救急科	愛知県における小児死因究明制度の導入に関する後方視的調査	小児科	梶田 光春	全例	2017/12/12 ～ 2019/3/31
31		心房細動に対するクライオアブレーションおよび高周波カテテルアブレーション施行時の術者・看護師被ばく線量の調査	放射線技術科	村山 和宏	100 例	2018/1/12 ～ 2018/5/30
32	名古屋大学大学院医学系研究科腫瘍外科学分野	多施設共同の遠位胆管癌に関する臨床病理学的検討	外科	桐山 宗泰	全例	2018/1/19 ～ 2019/3/31
33		中枢原発びまん性大細胞型 B リンパ腫の免疫学的特性に関する後方視的研究	血液内科	鏡味 良豊	全例	2018/1/19 ～ 2019/12/31
34	公益社団法人日本口腔外科学会、 一般社団法人日本口腔腫瘍学会	疫学調査「口腔がん登録」	歯科口腔外科	兼子 隆次	75 例	2018/1/19 ～ 2022/12/31
35	バイオトロニック ジャパン株式会社	CRT 奏効の予測因子としての左室内伝導時間に関する多施設、前向きパイロット研究	循環器内科	金子 鎮二	当院：7 例 (全参加施設 200 例)	2018/6/20 ～ 2020/10/31
36	名古屋大学医学部 附属病院 整形外科	Tsurumai Biologics Communication Registry (TBCR) に登録された、関節リウマチ患者における自己抗体プロファイルと、アバタセプトの効果および安全性との関連に対するレトロスペクティブ解析	整形外科	金山 康秀	10 例	2018/1/30 ～ 2019/3/31
37	名古屋大学医学部 附属病院 整形外科	関節リウマチ患者の骨粗鬆症に対する抗 RANKL 抗体の治療効果と治療成績予測因子の検討	整形外科	金山 康秀	全例 (全参加施設 70 例)	2018/2/22 ～ 2018/9/30
38	名古屋大学医学部 附属病院 整形外科	早期関節リウマチ患者における初期治療効果反応性による治療強化の予後予測に関する研究	整形外科	金山 康秀	全例 (全参加施設 685 例)	2018/2/22 ～ 2022/3/31
39	一般社団法人 日本不整脈心電学会	新規我が国における心臓植込み型デバイス治療の登録調査 -New Japan Cardiac Device Treatment Registry (New JCDTR) -	循環器内科	金子 鎮二	10 例 (全参加施設 全例) 金子 鎮二	2018/3/1 ～ 2023/3/31
40		当院における MRSA 菌血症の臨床的背景と診療支援に向けての取り組み	臨床検査技術科	加藤 雄大	全例	2018/3/5 ～ 2018/7/1
41		即時型症状を呈した 0 歳児の臨床像と予後の検討	小児科	辻 元基	当院:100 例 (全参加施設 - 例)	2018/3/15 ～ 2019/3/14
42		ホルター心電図において緊急報告した症例の検討	臨床検査技術科	高本 智史	全例	2018/4/2 ～ 2018/12/31

Ⅱ 部署別業務実績

1. 放射線技術科

1) 平成 29 年度に実施した重点事項とその成果

1. 健診センター保健事業の充実

→ X-TV 装置増設（平成 29 年 4 月稼働）による胃透視検査枠拡大

2. 日当直二人体制の仮稼働

→ 迅速な血管撮影検査実施、患者待ち時間短縮による患者サービス向上と医療安全面の向上

3. 認定・専門資格取得 / 学会発表の推進

→ 胃がん X 線撮影技師検定、肺がん CT 検診認定技師、放射線治療品質管理士、放射線機器管理士、アドバンス診療放射線技師、放射線管理士、マンモグラフィー撮影技術認定技師等を新規取得。

* 学会発表計 10 題（国内 9 題 / 海外 1 題）。

4. 高度放射線治療の実施

→ 定位放射線治療 SRS11 件 / 定位分割放射線治療 SRT3 件

5. 緊急性を要する画像所見の医師への報告（読影補助）

→ 日当直帯を中心に医師へ報告（20 件 / 年）

2) 平成 29 年度実績

1. 放射線技術科取扱件数

	29 年度
一般撮影	117,286
X 線テレビ	13,340
血管撮影	2,961
C T	37,303
M R I	15,542
骨塩定量	2,034
R I	2,234
放射線治療	5,824
合計	196,524

2. M R I 検査件数

	29 年度
内科	4,589
心療精神科	85
小児科	183
外科	500
整形外科	2,029
脳神経外科	3,274
皮膚科	70
泌尿器科	533
産婦人科	574
眼科	61
耳鼻咽喉科	462
放射線科	567
麻酔科	6
歯科口腔外科	68
形成外科	97
心臓外科	99
呼吸器外科	24
健康管理センター	1,169
救急科	1,152
合計	15,542

3. 血管撮影件数

	29年度
内 科	2,090
外 科	104
整 形 外 科	9
脳 神 経 外 科	119
呼 吸 器 外 科	17
産 婦 人 科	1
合 計	2,340

4. X線CT検査件数

	29年度
内 科	13,317
心療精神科	11
小 児 科	45
外 科	4,103
整 形 外 科	1,480
脳 神 経 外 科	2,277
皮 膚 科	110
泌 尿 器 科	2,312
産 婦 人 科	400
眼 科	44
耳 鼻 咽 喉 科	1,387
放 射 線 科	730
麻 酔 科	1
歯科口腔外科	692
形 成 外 科	127
心 臓 外 科	360
呼 吸 器 外 科	487
健康管理センター	385
救 急 科	9,035
合 計	37,303

5. アイソトープ検査件数

	29年度
脳 血 流	350
甲 状 腺	24
副 甲 状 腺	3
肺 血 流	18
心 筋 負 荷	542
心 筋 無 負 荷	158
心 プ ール	0
肝	0
腎	6
副 腎	36
メ ッ ケ ル	2
消 化 管	2
骨	239
ガ リ ウ ム	13
P E T	728
そ の 他	113
合 計	2,234

その他: 甲状腺治療 5 、唾液腺 4 、セチリリカ[®] 節 93 、89Sr 注射 1、肺換気 10



6. 放射線科使用装置の定格

平成 30 年 4 月現在

設置場所	装置（メーカー）		定格（kV、mA）		購入年月
第 1 撮影室	KXO-50S (DRAD-3000A)	東芝	150/80	320/630	H20. 1
第 2 撮影室	UD150L-40	島津	150/80	320/630	H20. 1
第 3 撮影室	UD150L-40	島津	150/80	320/630	H26.9 H20.1*1
第 4 撮影室	UD150L-40	島津	150/80	320/630	H26. 9
第 5 撮影室	アマレット イカパリティ	フジ	49/35	102/200	H28. 4
第 6 撮影室	AutoAZ3000CMR	アサヒ	100	15	H20. 1
第 7 撮影室	UD150L-40	島津	150/80	320/630	H20. 1 *2
第 8 撮影室	Prodigy	GE	76	3	H24. 7
救急外来撮影室	UD150L-40	島津	150/80	320/630	H20. 1
	AMX-4 Plus	GE	125	(200mAs)	H14. 1
泌尿器科撮影室	カラスオブアケス	シーメンス	150/81	630/800	H20. 1
結石破砕室	Delta II	ドルニエ	110	4	H20. 1
第 1 透視室	Sonialvision Safire	島津	150/80	500/1000	H20. 1
第 2 透視室	KXO-80XM/KXO-80XM/ MDX-8000A	東芝	150/100	500/800	H20. 1
第 3 透視室	KXO-80Z /MFX-8000A	東芝	150/100	500/800	H23. 3
血管撮影室 I V R - C T	AXIOM Artis dTA	シーメンス	125/100	800/1000	H20. 1
	SOMATOM Open 40	シーメンス	140/120	570/665	H20. 1
循環器撮影室 1	AXIOM Artis dFA	シーメンス	125/100	800/1000	H20. 1
循環器撮影室 2	AXIOM Artis dBC	シーメンス	125/100	800/1000	H20. 1
第 1 C T 室	Light Speed VCT 64	GE 横河	140/120	715/800	H20. 1
第 2 C T 室	SCENARIA	日立	120/140	140/510	H24.10
第 3 C T 室	SCENARIA	日立	120/140	140/510	H24.12
第 1 M R I 室	SKYRA	シーメンス	3.0 テスラ		H28.11
第 2 M R I 室	Intera R11	フィリップス	1.5 テスラ		H18. 7
第 3 M R I 室	Achieva R 2	フィリップス	1.5 テスラ		H22. 8
ガンマカメラ室	Infinia 3	GE 横河			H20. 1
P E T - C T 室	Discovery ST Elite	GE 横河	140/120	380/440	H20. 1
	Clinac iX	バリアン	15MeV		H20. 1
リニアック室	OBI	バリアン	125	80/20	H20. 1
	Light Speed RT	GE 横河	140/120	380/440	H20. 1
シミュレータ C T 室	WHA-200 (DSA)	島津	110	(200mAs)	H17. 3
	WHA-200	島津	110	200/9	H23. 5
手術室ポータブル 器材庫	OECBrivo Essential	GE	110	20	H25.10
	モバ イアート MUX-100HJ	島津	125	(200mAs)	H20. 1
2F ポータブル庫	モバ イアート Evolution	島津	125	(200mAs)	H29. 10
3F ポータブル庫	モバ イアート MUX-100HJ	島津	125	(200mAs)	H20. 1
4F ポータブル庫	モバ イアート MUX-100HJ	島津	125	(200mAs)	H20. 1
感染病棟診察室	IME - 100L	東芝	125/80	145/225	H15. 3
健診胸部撮影室	KXO-50S(DRAD-3000A)	東芝	150/80	320/630	H20. 1
健診マンモ撮影室	マンモート Inspiration	シーメンス	35/24	134/189	H24. 11
健診透視室 1 I.I	DBA-2400A (KXO-50XM)	東芝	150/80	320/630	H18. 7
健診透視室 2 I.I	DBX-6000A (KXO-50XM)	東芝	150/80	320/630	H17. 3
健診透視室 3 FPD	FLEXAVISION	島津	150/80	320/630	H29.4
歯科口腔外科	AZ3000	アサヒ	90	12	H11. 1
X 線撮影室	GX-70	アサヒ	70	10	H11. 1

*1：立位管球 H26.9 臥位管球 H20.1 *2：第二撮影室から移設

2. 臨床検査技術科

1) 平成 29 年度に実施した重点事項とその成果

1. 診療機能への貢献

- ・術中神経モニタリング検査実施（脳外科、整形外科）において、手術室担当（神経検査）技師 2 名を出向させ、術中神経モニタリング実施により、患者の術後麻痺のリスク低減に寄与した。
175 件 / 年
- ・経食道超音波検査の実施（心臓外科、循環器内科）において、経胸壁からは観察し難い部位の描出が可能となり、血栓の有無や弁異常の診断に寄与でき、医師業務負担軽減に努めた。
82 件 / 年
- ・輸血後感染症検査実施率向上に向けた取り組みにおいて、輸血療法委員会等を通じた啓発と輸血担当技師により該当検査代行入力を実施したことで輸血後感染症検査実施率 33%⇒77%まで向上した。（目標 80%）
- ・血液培養および CD 毒素陽性結果への医師コメント補助において、ICT 医師不在時の介入遅延を補完するために ICT 医師コメント補助を行い感染制御に寄与した。
血液培養コメント 160 件 / 年 CD 毒素コメント 33 件 / 年

2. 業務改善と効率化

- ・生理検査予約枠拡大の取り組みにおいて、地域医療連携専用枠の増設（心臓・腹部・表在）、ホルター心電図検査枠 2 台分、心臓超音波検査（術前検査センター枠とフリー予約）5 枠、乳腺超音波 2 枠を増設した。
- ・病理報告書未読レポートの抽出と依頼医師への連絡に向けた取り組みにおいて、病理診断報告書の未読による患者への不利益を防止する目的で、「疑陽性」以上の未読に対し、依頼医師への直接報告を行った。
- ・HBV 陽転報告結果の抽出と依頼医師への連絡に向けた取り組みにおいて、外部委託 PCR 結果を確認し（210 件 / 月 2530 件 / 年）、20 件 / 年の陽転患者報告を実施した。
- ・体外診断薬の価格交渉および外部委託検査移行でのコスト削減において、免疫検査（360 万）、凝固検査（150 万）、外部委託（140 万）計 650 万円の削減

3. チーム医療および医療安全

- ・労働安全衛生法に準じた作業環境の整備とホルマリンの徹底管理を目的に、院内全体の記録簿変更をおこなった。（OPE 室では定数補充方式 ⇒トレイ全交換方式 ⇒ウレタンシート埋め込み方式）また、検査室・病院ラウンドを実施したことで、ホルマリン紛失事例にも迅速に対応できた。更に、病理検査室では管理台帳のシンプル化（5 種類→1 種類）と払い出し時の対面確認を実施し、手術室ではホルマリン保管方法の抜本的改善（個数管理と使用記録様式の変更）、および外来での保管場所の確認（施設、保管方法）と管理様式の統一を図った。これらの活動は全国農村医学会及び医療安全フォーラムにて報告した。
- ・肝炎関連検査の未実施患者において、薬剤部と連携を図り PBPM による感染症検査代行入力を実施した。 206 件 / 年

4. 人材育成と施設認証

- ・自己啓発推進を図り、学会・研修会にて 21 演題の発表及び 11 種 14 名が認定資格を取得した。
＜認定：超音波検査士（泌尿器・消化器・循環器）、I & A 視察委員、緊急臨床検査士、2 級臨床検査士（血液学・微生物学）、特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者、検体採取指定研修終了者、認定心電図技師、有機溶剤作業主任者＞
- ・論文投稿 2（医学検査・生物試料）、出版物 3（JAMT 技術教本シリーズ・日本臨床検査同学院・Medical Technology）

・I & A を受審するに当たり、輸血療法マニュアルの修正および輸血手順の周知確認を実施した。

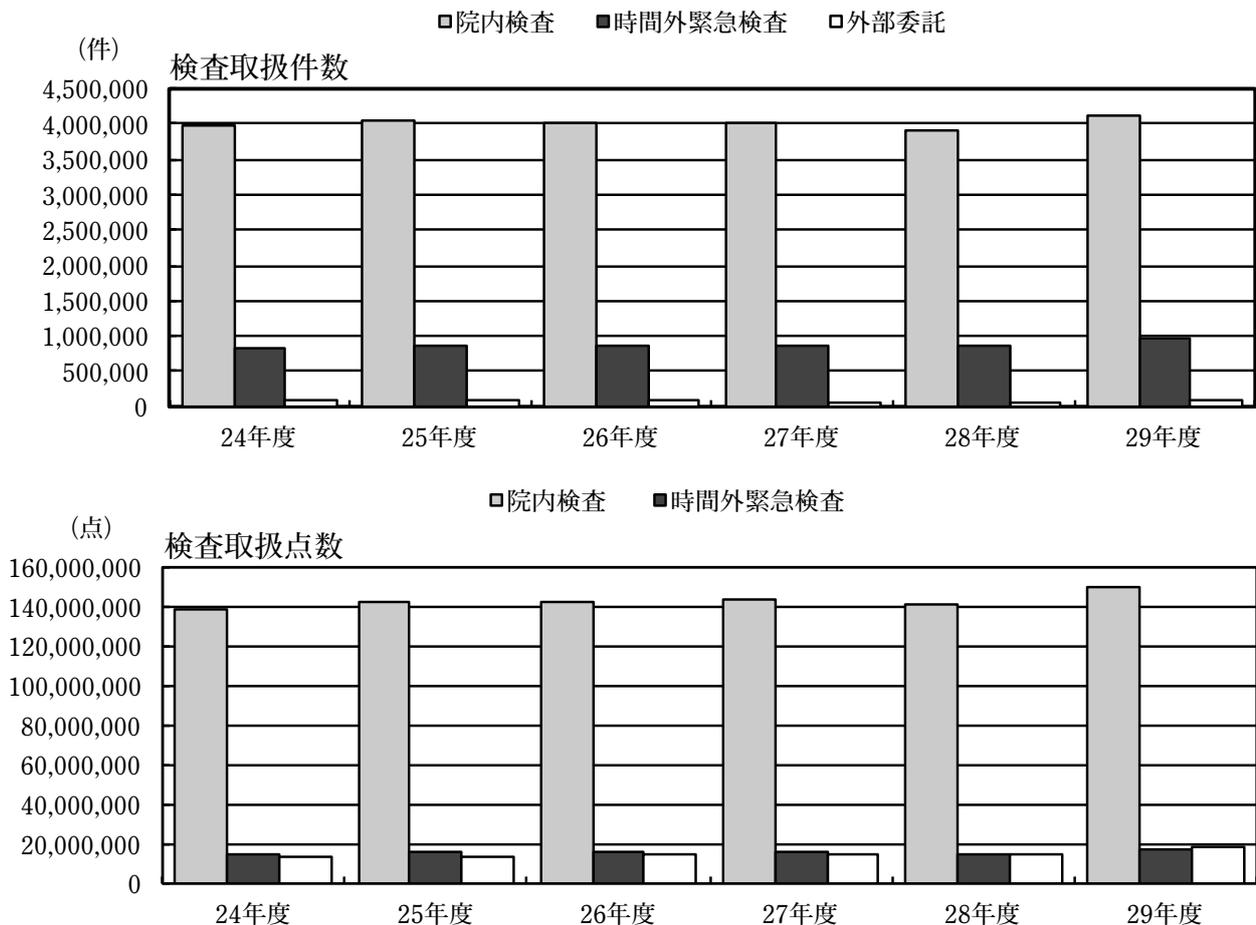
2) 平成 29 年度実績

1. 整備機器（高額医療機器および固定資産機器）

部署	機器名	数量
生理検査	ホルター心電図装置一式	1
生理検査	超音波診断装置	1
生理検査	超音波診断装置	1
血液・一般	血液凝固自動分析装置	2
血液・一般	冷却遠心機	1
血液・一般	顕微鏡	1
輸血検査	メディカルフリーザー	1
生化学	メディカルフリーザー	1
生化学	浸透圧計	1
生化学	冷却遠心機	1
微生物検査	血液培養装置	1
病理検査	自動染色機	1
病理検査	自動ガラス封入装置	1
病理検査	マイクロトーム	1

2. 検査取扱件数・点数

検査大項目	検査小項目	29 年度件数	平成 29 年度点数
一般検査	尿	143,424	4,369,801
	便	25,965	1,063,503
	体液	4,471	93,765
血液検査	血液	422,296	9,283,673
輸血検査	輸血	49,149	2,355,268
臨床化学	化学 I	2,724,768	32,920,319
	化学 II	105,676	14,957,880
	血液ガス	29,017	4,178,448
	負荷試験	234	32,300
免疫検査	免疫	272,318	14,333,597
微生物検査	一般細菌	77,315	10,353,872
	核酸検査	2,079	836,495
	その他	3,514	0
病理検査	病理組織	10,542	10,738,130
	細胞診	16,116	2,834,900
生理検査	肺機能	14,725	1,386,850
	心電図	49,168	10,742,480
	超音波	39,055	22,306,750
	脳波	1,481	1,144,660
	その他	27,612	2,791,896
その他	採血・検体採取	105,309	2,475,485
	病理解剖	16	400,000
	検査外業務	1,401	0
院内合計		4,125,651	149,600,072
外部委託		83,832	18,250,968
総合計		4,209,483	167,851,040
時間外緊急検査		960,821	16,801,794



3. 外注検査依頼状況

			29年度
S R L	保険収載分	件数	55,290
		点数	12,461,920
	薬物濃度	件数	1,005
		点数	472,350
保険未収載	件数	1,111	
	支払金額	3,467,477	
B M L	保険収載分	件数	20,493
		点数	3,422,983
ファルコ	保険収載分	件数	6,069
		点数	1,885,475

*外注の保険収載・薬物分は稼動点数、未収載は支払い金額を計上

4. 加算件数・点数

項目	29年度	
	件数	点数
時間外加算	6,877	1,375,400
入院初回加算	428	8,560
検体管理加算Ⅰ	97,319	3,892,760
検体管理加算Ⅳ	836	418,000
外来迅速加算	66,503	3,006,560
病理診断料(加算Ⅱ含)	24,697	7,538,520
輸血管理料・適正加算Ⅰ	3,666	633,850
骨髓診断加算	145	34,800
合計	200,471	16,908,450

5. 検査判断件数・点数

項目	29年度	
	件数	点数
尿	30,716	1,044,344
血液検査	82,346	10,293,250
臨床化学Ⅰ	83,174	11,977,056
臨床化学Ⅱ	27,775	3,999,600
免疫血清	57,803	8,323,632
微生物検査	11,333	1,699,950
病理細胞検査	1,406	210,900
生理検査	3,460	524,080
合計	298,013	38,072,812

6. 外部精度管理調査結果

調査年度	外部精度管理種類	評点
平成29年度	日本医師会	96.0点 D:2
平成29年度	日本臨床衛生検査技師会	A+B:228/229 C:0 D:1
平成29年度	愛知県臨床検査技師会	A+B:204/205 C:0 D:1

7. 臨床検査室認証・認定

認証・認定団体	29年度
日臨技精度保障施設認証	認証
日本臨床細胞学会施設認定	認定
日本臨床細胞学会教育研修施設認定	認定
認定臨床微生物検査研修施設認定	認定

8. 学会認定資格者

学会認定資格	29年度
超音波検査士	11名
細胞検査士	5名
輸血認定技師	2名
認定臨床微生物検査技師	1名
感染制御認定臨床微生物検査技師	1名
糖尿病療養指導士	2名
第1種衛生管理士	5名
衛生工学衛生管理者	1名
認定臨床化学者	1名
認定血液検査技師	2名
認定心電検査技師	3名
認定病理検査技師	2名
認定一般検査技師	1名
救急検査認定技師	3名
緊急臨床検査士	9名
二級臨床検査士(病理学)	3名
二級臨床検査士(微生物学)	4名
二級臨床検査士(血液学)	3名
認定サイトメトリー技術者	1名
医用質量分析認定士	2名
分析機器・試薬アナリスト	1名
リウマチ学会登録ソノグラファー	5名
ピンクリボンアドバイザー(初級/中級)	1名/1名
特化物及び四アルキル鉛等作業主任者	4名
検体採取並びに味覚検査及び嗅覚検査	53名
検査説明・相談ができる臨床検査技師	8名

3. リハビリテーション技術科

1) 平成 29 年度に実施した重点事項とその成果

1. 教育活動として、臨床実習生の受け入れの取り組み

- ・リハビリ学生：9 校 17 名
- ・他職種の臨地実習協力：4 名
- ・その他見学協力：1 回 1 名

2. 地域の支援活動

- ・介護認定審査会協力 【人数】1 名派遣【期間】通年【頻度】1 回／2W

3. 職員の資質向上

- ・部署内勉強会（全体会 6 回／年、職種別勉強会 1 回／2 M・毎月）
- ・他部署勉強会への講師派遣 14 回
- ・学会発表 1 題、論文投稿 1 題

2) 平成 29 年度実績

1. 部門別件数・単位数

		理学療法		作業療法		言語聴覚療法		
		外来	入院	外来	入院	外来	入院	
個別療法	脳血管疾患等 リハ料	患者数	382	8,880	194	9,496	53	3,783
		単位数	779	11,173	353	14,198	103	5,031
	廃用症候群 リハ料	患者数	—	4,549	—	78	—	0
		単位数	—	5,439	—	118	—	0
	運動器リハ料	患者数	1,539	19,380	3,532	2,992	—	—
		単位数	2,620	25,251	6,426	4,375	—	—
	呼吸器リハ料	患者数	56	9,252	0	337	—	—
		単位数	98	11,225	0	504	—	—
	心大血管疾患 リハ料	患者数	500	4,484	0	1	—	—
		単位数	983	5,574	0	2	—	—
	がん患者 リハ料	患者数	—	580	—	107	—	61
		単位数	—	752	—	148	—	70
	早期加算 (再掲)	患者数	—	37,498	0	10,340	0	2,921
		単位数	—	46,963	0	15,243	0	3,812
退院前訪問リハ指導			1	—	1	—	—	
退院時リハビリ指導		—	1,207	—	358	—	29	
リハビリ総合計画評価		55	2,832	344	819	2	72	
摂食機能療法							3,039	
件数合計		2,477	47,125	3,726	13,051	53	3,844	
単位数合計		4,480	59,414	6,779	19,345	103	5,101	

2. 部門別点数

項目	29 年度	
	外来	入院
理学療法	910,041	15,669,860
作業療法	1,378,495	5,655,440
言語聴覚療法	25,835	2,054,305
合計	2,314,371	23,379,605

3. 科別件数

	理学療法		作業療法		言語聴覚療法	
	外来	入院	外来	入院	外来	入院
内 科	9	13,649		2,233	1	328
呼吸器内科	25	3,602		96		
循環器内科	71	2,591		14		
神経内科	268	3,522	150	4,131	51	1,972
精神科						
小児科		6				
外科	2	6,539	1	145		40
整形外科	1,350	9,806	3,451	1,819		25
形成外科	168	280	91	31		6
脳神経外科	8	3,345	33	4,462	1	1,377
呼吸器外科	39	1,088		13		
心臓外科	392	1,909		47		26
皮膚科		201		15		
泌尿器科		198		2		
産婦人科		248		5		
眼科						
耳鼻咽喉科	145	141		38		35
麻酔科						
歯科口腔外科						35
合 計	2,477	47,125	3,726	13,051	53	3,844

4. 臨床工学技術科

平成 29 年度は「他職種との連携強化による安全で質の高い技術支援を行う。また、医療機器の計画的な保守・管理に基づき安全に使用できる医療機器の提供を行う」を年間目標に新たなる業務に取り組んだ 1 年と言える。心臓アブレーション治療ではクライオアブレーションの導入や 3D マッピングの操作、整形外科手術（脊椎後方固定術）へのナビゲーションシステムの導入など、当科も多岐にわたる臨床支援業務に携わり、質の向上及び各種治療における安全の担保に寄与できたと考える。一方、機器管理業務では機器の管理体制の見直しを行い、計画的な定期点検の充実させることで、より安心・安全な医療機器の提供に繋がれたと考える。今後も継続して新たなる技術支援と医療機器における保守管理の強化の 2 本柱を中心に安全で質の高い医療を提供していきます。

当科の診療支援の第一人者であり、当院の臨床工学技術科を牽引してきたと言っても過言ではない南良義和氏が 2017 年 3 月 1 日に逝去されました。院内外を問わず様々な病院関係者からの人望も厚く、これからはますます若手育成に向けた指導・活躍が期待されたなか、享年 46 歳の若さで急逝され、当科にとっても大きな損失であり残念でなりません。故南良氏の意志を継ぎ、スタッフ一同精進してまいります。ここに謹んで追悼の意を表します。

1) 平成 29 年度に実施した重点事項とその成果

1. 新たに支援業務への取り組み

- ・内視鏡業務への参画
- ・集中治療業務の確立と標準化
- ・業務拡充・技術支援の充実と医師及び看護部門への負担軽減

内視鏡業務では朝の機器点検に重点を置き、トラブルを未然に防ぐとともに看護師の業務負担の軽減に繋がった。集中治療業務では、日々の他職種ラウンドに参加し、ME の立場からの意見を共有化してもらうことで ICU における臨床工学技士の立ち位置を確立できた。また、心・肺エコー検査を導入することにより最適な循環・呼吸器管理にも貢献した。その他、心臓カテーテル治療（Ablation 業務）における 3D mapping 業務を 8 月以降、業者から当科で行える体制とした。血液浄化センターにおいては、看護業務の軽減を目的に機器の清掃を看護師から当科に移行した。

2. スタッフ教育及び育成と標準化

- ・各個人のスキルアップ
- ・当直業務の標準化
- ・定期的な症例検討会の実施
- ・急性期医療における知識・技術の共有化を図り、安全で質の高い技術支援の提供

2 月からであるが 1 名増員となりスタッフのローテーションが可能となった。ナビゲーション業務に 3 名加わり他の業務もスムーズに行えるようになった。内視鏡業務を若手スタッフで固め、新規参入業務のノウハウを得ることに繋がった。急性期医療における知識の共有化を目的に月 1 回の他職種合同集中治療勉強会の運営に協力した。

3. 安全対策の一環とした医療機器の保守管理体制

- ・院内医療機器の点検の充実
- ・厚生連技士会としての医療安全への取り組み
- ・ME 機器の安全の提供と情報の発信

機器管理システムへの登録の見直しを図り、点検の確実な実施により安全性の担保が確保できた。厚生連 ME 職種会を通し他病院から点検機器を貸与し、電気メスの点検を実施した。これにより点検費用のコスト削減と安全性の向上に繋がった。また、厚生連全体から集約した医療機器におけるインシデントレポートを取りまとめ、厚生連全職種に向けた安全情報の発信の準備を整えた。

4. 医療安全を目的とした研修会の充実

- ・スキルアップ講習会の開催
- ・インシデント・アクシデント事例に基づいた研修会の開催
- ・定期的な医療機器情報の提供と安全対策を目的とした他職種への教育
- ・学生指導力の強化と標準化

購入機械や新型モデルのデモ機などの勉強会も逐次行い、新しい技術の習得の徹底に努めた。他職種への教育は従来通りに各科・病棟毎に実施した。インシデント・アクシデント事例に基づいた研修会への開催には繋がらなかったが、看護師への機器研修会に対するアンケート調査を実施し、それを基に当科 WG にて検討を繰り返し行い、次年度開催へ向けての下準備が整った。学生実習は3校を受け入れ、若手スタッフの指導能力の育成を目的に、実習項目毎に担当教育スタッフを代えて、自分で勉強しながら教えるスタイルを導入した。

5. 計画的な機器・材料の管理によるコスト削減及び増収

- ・消耗品の運用・管理の見直しによるコスト削減
- ・医療機器の計画的更新（第15次中期計画）
- ・透析液水質加算Ⅱ取得による増収

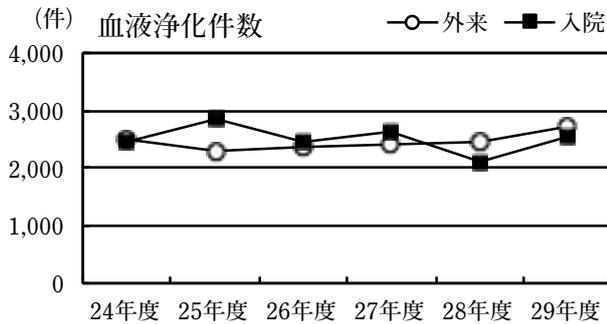
人工呼吸器回路、バックバルブマスク、モニターケーブルなど常にコストの見直しを図るとともに15次中期計画においてもコスト削減及び増収に繋がる機器の購入を選定した。透析液水質加算Ⅱにおいては on-line HDF 用透析機器の導入が遅れたため、年度末ぎりぎりの取得となった。大幅な増収には繋がらなかったが、血液浄化関連における次年度の診療報酬改定への影響回避への一手となった。高気圧酸素治療では積極的な治療アピールと治療時期の見直しを図ることで大幅な増収に繋がった。

2) 平成 29 年度実績

1. 血液浄化

①件数

		件数
外	来	2708
入	院	2542
計		5250
末梢血幹細胞		17
C A P D		204
腹水濾過濃縮		42
シャントエコー		794



②浄化法別分類

		件数
血液透析	H D	5146
血漿吸着	P P	40
血漿交換	P E	32
D F P P		4
血液吸着	D H P	6

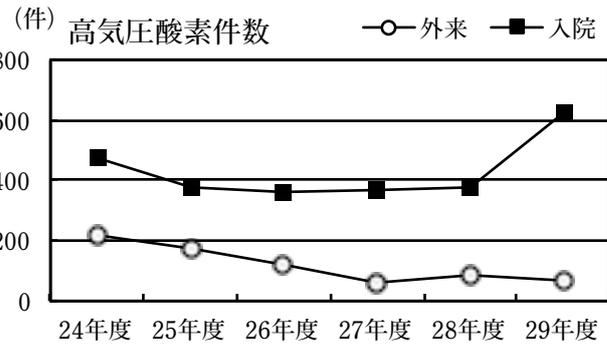
③患者動向分類

		件数
新規導入		62
急性浄化		24
他院転入		232
転出		172
死亡慢性		8
死亡急性		5

2. 高気圧酸素

①件数

		件数
外	来	67
入	院	626
計		693
緊急 (5000点)		499
非緊急 (200点)		185



②科別分類

		件数
内	科	42
外	科	239
整形	外科	50
耳鼻	科	281
口腔	外科	48
脳	外科	14
計		693

③疾患別分類

		件数
突発性難聴		281
急性末梢血管障害		16
骨髄炎		65
一酸化炭素中毒		44
腸閉塞		252
脳梗塞		14
計		693

3. 心臓カテーテル

①件数

		件数
緊急症例		267
予定症例		1008
計		1275

②心カテ分類

		件数
P	C I	347
C	A G	928
アブレーション		464
ペースメーカー新規		50
ペースメーカー交換		40
I	C D 新規	1
I	C D 交換	3
C	R T P 新規	3
C	R T P 交換	0
C	R T D 新規	3
C	R T D 交換	2
体外式ペースメーカー		45
I	A B P	42
P	C P S	9
ペースメカチェック		3230

4. 自己血回収術件数

①科別分類

	件数
心 臓 外 科	102
血 管 外 科	22
整 形 外 科	37
そ の 他	2
計	163

5. 心臓血管外科

①緊急・非緊急

	件数
緊 急 症 例	17
予 定 症 例	85
計	102

②症例分類

	件数
虚 血 性 心 疾 患	45
弁 膜 症	32
大 動 脈 疾 患	23
先 天 性 心 疾 患	0
計	102

6. 脳神経外科・耳鼻科

①科別分類

	件数
脳 外 科	49
耳 鼻 科	26
整 形 外 科	8
計	83

②症例分類

	件数
腫 瘍	37
ク リ ッ ピ ン グ	2
F E S S	25
頸 椎 固 定	8
そ の 他	11
計	83

7. 集中治療補助

①件数

	件数
診 療 支 援 業 務	2216

②心カテ分類

	件数
人 工 呼 吸 器 管 理	2050
血 液 浄 化	116
補 助 循 環 管 理	50
計	2216

8. 機器管理

①修理件数

	件数
院 内 修 理	891
委 託 修 理	90
計	981

②修理機器分類

	件数
心 電 図 モ ニ タ ー	262
人 工 呼 吸 器	21
輸 液 ポ ン プ	137
血 圧 計	127
パルスオキシメーター	77
血液浄化関連装置	101
そ の 他	256
計	981

③機器点検件数

	件数
点 検 件 数	18952

5. 栄養科

1) 平成29年度に実施した重点事項とその結果

1. 栄養管理の充実（栄養食事指導件数の増加）

- ・病棟に出向き、入院栄養指導件数の増加を図る
- ・準職管理栄養士を採用し、次年度以降の基礎を作る

〔結果〕 栄養指導件数 1名あたりの件数増加 50件から57件に増加
入院栄養指導件数の増加 前年比 218件増

2. 在庫管理業務の見直し

- ・公認会計士の監査に対応できる業務見直しを行う

〔結果〕 在庫管理マニュアルの改訂

3. 誤配膳減少の取り組み

- ・再発を防ぐ方法の洗い出し

〔結果〕 食札の記載内容の変更 同じ病棟に同姓患者がいる場合は「同姓あり」のコメントを追加
医療安全フォーラムにて発表

4. 食品衛生管理の充実

- ・病棟厨房の床の改修（防水加工）
- ・適温配膳車の更新（32膳から48膳へ）

2) 実績

1. 平成29年度 食事提供数

①患者食

	食数（人）	比率
常食	107,371	23.9%
軟食	74,427	16.6%
流動食	935	0.2%
特別食 A	150,004	33.3%
特別食 B	116,648	26.0%
合計	449,385	100.0%

②賄食

食種	食数（人）	比率
職員食	110,900	100.0%
付添食	19	0.0%
合計	110,919	100.0%

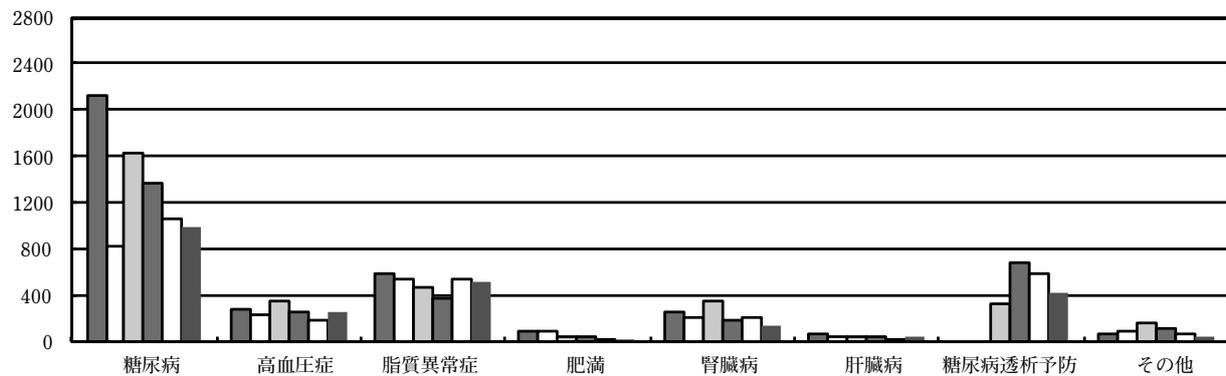
2. 平成29年度 疾患別栄養食事指導件数

①個別栄養指導

区分	外来(人)	入院(人)
糖尿病	998	598
高血圧症	245	503
脂質異常症	521	18
肥満	21	1
腎臓病	143	154
肝臓病	33	67
糖尿病透析予防	414	0
その他	54	311
合計	2,429	1,652

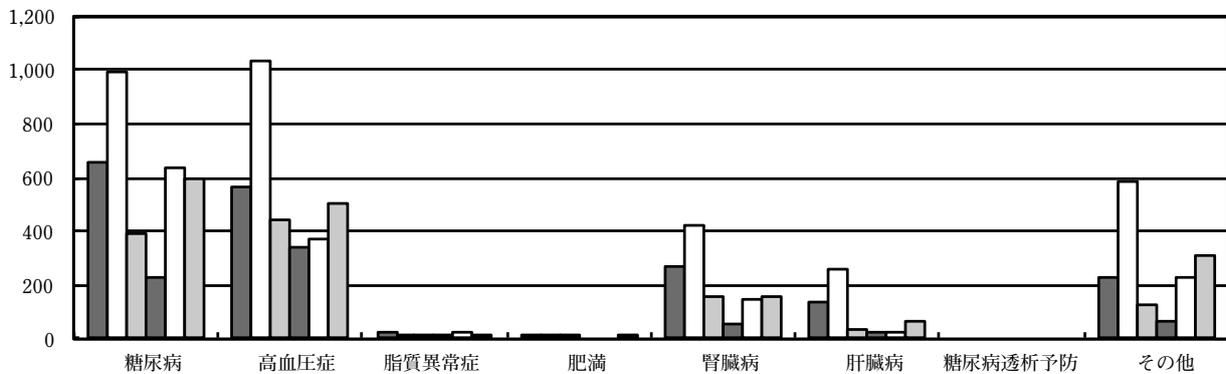
(件) 疾患別栄養食事指導件数 (外来)

■24年度 ■25年度 ■26年度 ■27年度 ■28年度 ■29年度



(件) 疾患別栄養食事指導件数 (入院)

■24年度 ■25年度 ■26年度 ■27年度 ■28年度 ■29年度



②集団栄養指導

区分	(人)
糖尿病	82
腎臓病	1
ワポ®イハ講座	30
市民講座	113
合計	226

3. 院外業務

J A あいち 豊田料理教室	(人)
参加者	1505

6. 薬剤部

1) 平成 29 年度に実施した重点事項とその成果

1. 病棟薬剤業務の充実および薬物治療管理の推進

- ・PBPM（プロトコルに基づく薬物治療管理）の推進と拡充
→新たに代行で実施できる項目を追加した。病棟でのPBPMの件数は28年度1409件に対して29年度は1715件と312件(21.7%)増加した。
- ・病棟薬剤業務における医薬品情報室との連携強化
→ 月1回の病棟チーム会において症例報告を実施。副作用など情報共有を行った。
- ・病棟薬剤業務の拡充（ICU等）
→ 薬剤管理指導件数は平成28年度14230件から平成29年度14636件へと406件(3%)増加した。

2.DPCに向けた取り組み

- ・機能評価係数Ⅱ後発医薬品指数アップ（後発医薬品使用割合入院80%以上外来70%以上）
→ 後発医薬品使用割合については平成29年4月で77.0%（入院84.1%、外来73.4%）から平成30年3月で77.3%（入院87.4%、外来72.4%）と増加した。
- ・持参薬管理運用の見直し（持参薬処方支援、ポリファーマシーへの介入）
→ 持参薬ワーキンググループを設置し、会議を5回開催した。医療安全対策室、多職種間で情報を共有し問題点を見直し、2月にさらにパイロット病棟を更に4病棟追加し計8病棟で運用を開始した。

3. 診療機能の充実

- ・通院治療センターにおける服薬指導の充実
→ 患者指導件数は1,170件行い、うちがん患者指導管理料③は213件算定した。
- ・術前検査センター業務の充実（術前中止薬リスト更新、中止薬説明書を院内統一）
→ 受け入れを術前検査患者やカテーテル治療患者（PCI、CAG）、一部局麻患者に拡大し、薬物治療を管理（休薬期間の提案、アドヒアランスの改善、ポリファーマシーの削減、薬剤追加の提案）、また必要な情報を医師や他の医療スタッフにフィードバックし、薬剤面からの安全に寄与することができた。また平成29年度に運用はできなかったが手術・検査前中止薬説明書を作成し各部署、委員会に報告した。次年度に術前検査センターで持参薬報告書を作成することを目標に他部署との調整をし、3回目の麻酔科面談時に施行することに決定した。平成29年度術前検査センター面談件数は1919件であった。
- ・抗がん剤投与により発症するB型肝炎対策ガイドラインを順守するためのチェック機能の充実（HBs抗原、HBs抗体、HBc抗体検査 目標実施率100%）
→ 実施率 HBs抗原：96.9%、HBs抗体：96.9%、HBc抗体：96.9%
- ・手術室における薬剤師常駐化への準備
→ 手術室内での薬剤師の業務の現状を把握し、常駐化となった際の業務内容について検討を行った。また、他の病院での薬剤師の関わりについて情報収集を行った。

4. 病院薬剤師連携および薬 - 薬連携の強化

- ・患者情報の提供及び共有化に向けての検討（吸入指導の統一等）
 - 豊田病院薬剤師連絡協議会を2回開催し、情報交換を行った。また、院外処方患者の吸入指導を院外移行することを踏まえ、当院医師と保険薬局薬剤師の情報共有のツールとして「吸入指導依頼書（院外用）」を作成した。加えて、同依頼書の運用周知ならびに患者指導方法の啓蒙・統一を目的に吸入指導交流会を開催し、同年9月より運用開始した。

5. 認定・専門資格取得の推進

- ・認定実務実習指導薬剤師の育成（長期実務実習生受け入れ）
 - 実務実習指導薬剤師の資格を2名が取得した。
- ・各種専門・認定薬剤師の資格取得への指導・教育
 - 各種専門・認定薬剤師資格取得のため、講習会および学会等に参加した。
日本臨床腫瘍薬学会 外来がん治療認定薬剤師 1名合格
- ・日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設の認定取得
 - 平成29年4月1日に日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設として認定

6. 供給センター（SPD）の管理体制の充実

- ・物流システム活用の充実
 - 昨年度に薬品請求回数を1日1回より3回へ変更しており、物流システムによる請求入力の利用について啓蒙し、薬品管理室からの臨時請求払出し件数の削減に取り組んだ。
目標値：薬品臨時請求数 30,000 以下 / 年に対して、実績 3 月末計：26,942 件であった。
- ・不動薬品・材料および死蔵薬品・材料の整理及び削除、部門定数外薬品・医療材料管理強化
 - 不動薬品として 14 品目を採用中止。
 - 不動材料として 38 品目を採用中止。
- ・手術室消耗品材料のコスト削減、定数見直し、シングルユースへの取り組み
 - 手術室と協力し、リユース材料の調査と適正使用に向けて切替を進めた。
- ・次期注射調剤システムの選定及び更新準備
 - 病棟において新システム導入時のシミュレーションを行い切り替え後の運用について確認した。
システム導入は次期中期計画を予定。

7. 治験業務の充実

- ・治験受託件数の拡大を目的とした院内体制の整備
 - 新規治験を2件受託した。既に受託した治験と併せ、総治験実施件数は9件（2018年3月現在）となった
 - 専従の院内治験コーディネーター2名を新たに採用し、治験実施体制を整備した。

8. Quality Indicator

- ・退院指導実施率（退院指導患者数 / 入院実患者数）は 25.3%（退院指導患者数 363 名、入院実患者数 1436 名）であった。

2) 平成 29 年度実績

薬剤部は医薬品および医療材料の安定供給、適正な在庫管理とともに安全かつ適正に使用するために下記の事項に取り組んだ。

1. 医薬品情報提供

従来と同様に、院内医薬品情報誌『DI-News くすりの時間』と医薬品情報一元化システム『JUS-DI』の充実に努めた。また、旧薬剤部ホームページから抗癌剤化学療法のレジメン部分を JUS-DI に完全移行した。

2018 年 2 月から開始した電子カルテの処方カレンダー機能追加に伴い、情報システム課と協働しマスター整備等のお手伝いをした。

これまで地域連携室を通して近隣施設からの紹介で内視鏡検査を受ける方の抗血小板薬・抗凝固薬チェックをさせて頂いていましたが、健診センターからも健診対象の方のチェック依頼を受け、2018 年 3 月より新たに開始した。

2. 病棟業務

昨年度に引き続きポリファーマシー（減薬）に取り組んだ。その結果平成 29 年度は薬剤総合評価調整加算を 79 件算定することができた。また病棟業務を通じてプレアボイド報告（111 件）および副作用報告（32 件）と昨年度に続いて積極的に報告した。

3. 調剤業務

お薬手帳の普及推進のため投薬窓口において手帳シール発行指示のない患者への声掛けを行い、希望者に対して PBPM に基づき手帳シールを発行・交付した。その結果、手帳シール発行件数は実績ベースで平成 29 年 4 月の 1,346 件から平成 30 年 3 月には 1,950 件と約 600 件の増加を認めた。外来患者へ麻薬・管理薬などを確実にお渡しすると共にその記録を残すために「おくすり受領確認書」を自動発行させるシステムを導入した。また、安全管理の面では、PTP の誤飲防止のため 1 錠調剤を原則廃止する手順に変更した。加えて、患者や看護師の安全面を考慮し、入院調剤時における金属ホチキス針の使用を止め、チャック付き袋で代用する運用に切り替えた。

4. 持参薬管理

持参薬ワーキンググループを設置し、持参薬廃止に向け各関係部署と情報を共有し問題点を抽出し新運用を修正した。1 月に新運用改訂版を院内周知、2 月にパイロット病棟を 4 病棟追加し 8 病棟で運用を開始した。次年度に全病棟持参薬廃止運用に向けて取り組みを続けていく。

5. 注射調剤

部門システムを利用し調剤・監査の正確性と効率性の向上に努めた。不動在庫の有効利用により経済面での効果向上に努めた。注射薬の個人別セット業務を通して適正な注射薬品の使用推進に努めた。後発薬品が使用できない場合の先発薬品への処方変更や手技・用法の修正等の PBPM に取り組んだ。

6. 薬品・医療材料の管理

薬品・医療材料においては定数による実施補充システムにより適正な在庫管理、また定期的な期限チェックを行い不動・死蔵品の減少に努めた。医療材料において、病棟カセット定数の見直しを行い、期限切迫品を使用部署へ回すなどの対応を行った。薬品管理においては、物流システムによる請求を啓蒙し、紙面による不要不急の臨時請求減少に努めた。

7. 化学療法における業務体制の見直し

週2日、化療担当が全日2名体制となり、調製指示をスムーズに行うことができ、午後の患者指導依頼にも対応しやすくなった。

8. NST（栄養サポートチーム）への参加

NSTチームの一員としてラウンドに参加し、低栄養患者栄養管理評価による栄養管理を行った。また栄養サポート委員会の一員として栄養サポート加算を算定できる体制を整えた。

9. 緩和ケアチームへの参加

緩和ケア回診に週2回参加し、薬学的視点から積極的に処方提案を行った。さらに、主治医、病棟スタッフなど他職種へフィードバックを行った。また、地域医療福祉連携部や院外薬局など、院内外の関係部署と連携し、在宅療養を希望する患者の支援を行った。学会発表、院内で実施されるがん患者を対象としたイベント（がんサロン煌）でも講師を務め、緩和ケアの普及に努めた。

10. ICT（感染対策チーム）への参加

抗菌薬使用届の集計や病棟薬剤師との情報共有をもとに抗菌薬ラウンドや血液培養ラウンドに参加し抗菌薬適性使用の評価も行った。加えて、感染防止対策加算、感染防止対策地域連携加算の対象となるカンファレンスや相互ラウンドにも参加した。これら定期的で開催されるカンファレンスなどだけでなく、ICTの一員として感染対策室、微生物検査室等と随時連絡を取り合い院内の感染対策を監視した。

抗菌薬適正使用についてはICTから独立したAST（抗菌薬適正使用支援チーム）を立ち上げた。

11. 治験管理室業務

■ 下記手順書等を改訂し、院内掲示板に掲載し院内に周知を行った。

＜手順書等の制定・改訂＞

- ・「愛知県厚生農業協同組合連合会豊田厚生病院治験倫理審査委員会 標準業務手順書」
- ・「愛知県厚生農業協同組合連合会豊田厚生病院における医学系研究等の審査・実施に係る標準業務手順書」
- ・「愛知県厚生農業協同組合連合会豊田厚生病院における臨床研究セミナー受講制度に関する手順書」

■ GCP、各種倫理指針に則り、適正かつ効率的な治験、臨床研究等の実施に取り組んだ。

＜治験＞新規受託治験2件（実施中の治験9件）

＜臨床研究等＞医学系研究実施審査44件、医学系研究変更審査39件

ヒトゲノム・遺伝子解析研究実施審査2件

症例報告審査2件

＜医療倫理＞倫理審査1件

■その他

- ・厚生労働省の臨床研究倫理審査委員会報告システムに当院の治験倫理審査委員会の委員名簿、会議の記録の概要、手順書等を更新した。
- ・がん診療連携拠点病院等の整備に伴い病院ホームページを企画室と連携して作成・更新した。
- ・臨床研究セミナーの開催
- ・医療倫理全体講演会の開催

12. 院外処方箋発行

豊田加茂薬剤師会と院外処方せん発行にともなう問題について2回の協議を行った。

13. 豊田病院薬剤師連絡協議会

「吸入指導の薬薬連携の現状と課題」、「院外処方箋への検査値表記の現状と課題」、「持参薬管理の運用方法」等のテーマにて各病院間の情報交換を行った。

14. 実務実習

長期実務実習2～3期（各11週間）、計8名の実習生を受け入れ指導にあたった。

	1期 (5/8～7/23)	2期 (9/4～11/19)	3期 (1/9～3/26)
名城大学		2	1
愛知学院大学		2	2
金城学院大学			1

15. 教育

主に医師を講師とした薬剤師勉強会（1回/月）9月以降は1回/2ヶ月を8回、定期的で開催した。

4月	62名	ヤナセ薬局 柴田薬剤師	院内外薬剤師
6月	59名	循環器内科 窪田医師	院内外薬剤師
8月	49名	小児科 梶田医師	院内外薬剤師・薬学生
10月	57名	救急科 小林医師	院内外薬剤師・薬学生
12月	43名	内分泌内科 加藤医師	院内外薬剤師・薬学生
2月	56名	腎臓内科 伊藤医師	院内外薬剤師・薬学生

平成29年度（主な業務指標）

外来処方せん枚数	55,016枚	薬剤情報提供（外来患者）	41,699件
院外処方せん枚数	128,153枚	薬剤管理指導（入院患者）	14,542件
入院処方せん枚数	86,677枚	無菌製剤件数	11,165件
注射せん枚数	122,221枚	分業率	72.4%
持参薬報告書作成件数	9,904件	吸入指導件数	210件
プレアボイド報告件数	111件		

①処方せん枚数と調剤数

	外来		入院	
	29年度		29年度	
	処方せん枚数	調剤数	処方せん枚数	調剤数
内科	21,937	85,832	43,259	113,600
精神科	2,358	6,628	846	1,543
小児科	819	1,569	1,421	1,703
外科	2,023	7,826	7,875	13,834
整形外科	4,902	11,828	7,064	21,587
形成外科	932	1,675	1,170	2,399
脳神経外科	416	1,131	2,973	6,732
呼吸器外科	127	373	1,054	1,823
心臓外科	154	968	2,931	6,387
皮膚科	2,291	6,174	2,281	3,970
泌尿器科	2,356	5,574	2,843	5,903
産婦人科	1,075	1,834	3,377	4,906
眼科	1,239	2,118	3,191	4,188
耳鼻科	1,068	3,160	2,843	4,818
放射線科	33	91	23	35
麻酔科	430	1,196	38	59
歯科口腔外科	571	1,110	3,103	4,223
救急科	12,282	17,447	359	491
計	55,014	156,538	86,658	198,219

②注射処方せん枚数と調剤数

	29年度
処方せん枚数	122,221
調剤数	264,191

③無菌製剤

	29年度
無菌製剤件数	11,115

④薬剤管理指導

	29年度
薬剤管理指導件数	14,542
麻薬加算件数	532
退院指導件数	4,997

⑤薬剤情報提供

	29年度
薬剤情報提供件数	41,699

⑥外来患者面談件数

	29年度
吸入指導	210
レブラミド等	245

⑦治験協力業務

	29年度
治験協力件数	8
被験者数	28

⑧院外処方せん発行状況

	29年度
処方せん発行枚数	128,153
分業率	72.4

⑨医薬品に関する問い合わせ（医師・看護師などから）

	29年度
問い合わせ件数	1,914

⑩時間外業務

	29年度
外来処方せん枚数	13,907
その他件数	33,171

⑪NSTラウンド参加状況

	29年度
NSTラウンド件数	896

⑫別記：化学療法無菌製剤（③無菌製剤再掲）

	29年度
入院調製件数	2,282
外来調製件数	5,500

7. 看護部

1) 平成 29 年度に実施した重点事項とその成果

1. 看護の質向上へ向けた取り組み

(1) 教育委員会

- ・看護のやりがい感も持てる看護師の育成・環境づくりという事で教育委員会では、ナラティブの学習会を実施した結果、ナラティブを実践した部署は 6 部署あり。「看護の振り返りや承認につながった」「看護を頑張りたい」「何気ない気付きをしている事が分かった」「その人の価値観を改めて知る事ができた」「看護っていいね」「モチベーションが上がる」というスタッフの意見がきかれた。

(2) DiNQL の入力体制の整備と活用

- ・各部署の目標の評価に活用してもらいたいが、そこまでの精度に至らず。入力することの負担感が大きい。しかし、看護の忙しさや、業務量を示す指標として活用していく必要がある。

(3) ナーシングスキル導入の検討

- ・8・9 月とトライアルを行い、各部署でアンケートにて意見聴取。ナーシングスキル導入に向け、起案にて許可を得る。4 月より導入に向け整備をしている。

(4) 退院支援担当者会

- ・退院支援の質向上のための看護師の育成に関しては、退院支援担当者会の企画で課長・係長・部署の担当者を対象に宇都宮宏子氏の「おうちへ帰ろう」の DVD 研修を施行。更に研修の思考過程のステップ 1～ステップ 3 に沿って、担当者の中で 2 事例学習会を施行。受け持ち看護師の役割について検討した。
- ・退院支援計画書作成数と退院患者数の 40%と目標設定した結果、2 月は 1314 名で 42%と達成することができた。

2. 看護師定着へ向けた取り組み

(1) インデックス調査結果の分析と取り組み課題の明確化・実施

- ・6 月にインデックス調査を実施。(回答者は 616 名)
- ・多様な勤務形態の導入に向けて起案提出中(日勤常勤)
- ・勤務計画表の作成基準の明文化・有給休暇についての周知(看護管理室通信 3 回発行)・スタッフに本会規定など制度認知への対応
- ・始礼・終礼、ノー残業デーなどの導入検討(各部署)

(2) 承認できる職場風土作り

- ・亀島氏の「成長する組織」を受講後、教育委員会にて今後何をすべきか意見交換した。また、経験学習シート・モチベータ診断を紹介し、教育担当係長にて承認や動機付けについて部署での実践を促した。経験学習シートを活用した部署は 4 部署であった。その他、モチベータ診断やコーチングの学習会、「イイねノート」などの工夫した事を、日々のペアや年間パートナーと共に実施する等様々であった。モチベータ診断や経験学習シートを使用した部署からは、対象者に合った動機付けを行う事で主体性が向上した、承認につながる、気付きや考えるきっかけになるなどの意見が聞かれた。参加課長：23 名(88%) 係長：36 名(84%)

(3) 部署訪問

- ・スタッフからの意見を吸い上げ、課題があればその都度対応
- ・部署訪問回数

(畠中副看護部長：42回 横山副看護部長：22回 富川副看護部長：20回)

(4) 多職種との連携（定期的な話し合いの開催）

- ・検査科：生理検査の電話連絡について等検討
- ・栄養科：FAX 運用削減（H 30 年 4 月から運用開始予定）
- ・リハビリ：歩行器の一括管理
- ・放射線科：紹介患者の CD への書き出し件数増加に伴う対策、手術室イメージ操作等について検討
- ・薬剤科：内服薬の払い出し時の W チェック、腹膜透析液の管理等について検討

(5) 外来の適正な人員配置

- ・H 28 年度より適正な人員配置にし、今後は診察室をクラーク・MA へと移行する方向で検討し、委託・派遣者の募集。外来 C ブロックへはクラーク 3 名配置。

(6) 教育委員会

- ・P N S のあり方検討に関しては、アンケートの分析結果を基に課長会で協議した結果、受け持ち患者数が多い事による、①情報収集の多さ ②業務量の多さ ③ペアの行った看護の責任を負う事のストレスについて焦点を絞り、運用を修正。更に看護部全体でスタッフの業務負担軽減を継続する旨を確認した。

3. 診療報酬改定への対応

(1) 16 対 1 夜間看護配置加算の再取得

- ・応援の運用の見直しと周知、勤務表の確認体制の構築を行い 5 月実績で 6 月より加算を開始した。

(2) 7 対 1 入院基本料の適正運用と看護必要度基準越え 25% の維持

- ・毎月の勤務表確認と的確な有給休暇の付与
- ・看護職確保に向けた活動の続行（看護学校訪問 48 校・説明会 13 回・院外合同説明会 3 回・看護学校学内説明会 6 校・インターンシップなど）
- ・看護記録委員会メンバーによる監査（年 2 回）
 ワイズクリッパーによる評価訓練・・・評価に関わる全職員終了
 各部署における研修会の実施・・・11 月～12 月に終了
 院内指導者研修（院外）参加・・・6 月 20 名・11 月 17 名参加

(3) 25 対 1 急性期看護補助体制加算の適正運用と維持

- ・看護補助者の採用活動継続中ではあるが採用ができていない。
- ・看護師の離職に伴い 3 月は加算取得できず、50 対 1 加算へ変更した。

(4) DPC II 群の維持

- ・ベッドコントロール専任者を看護管理室に配置し、日常的なベッドコントロールとペア病棟による予約入院の受け入れ推進、退院時期の調整を行った。

(5) 認知症ケア加算の取得

- ・入院時スクリーニングに、ランクⅢ認知症症状の項目を追加し、8 月より認知症ケア加算 2 を算定。
- ・9 月以降に 3 名研修受講。認知症サポート看護部会のメンバーにて各部署伝達講習会を実施した。
- ・2 月実績：14 日以内 495 件 15 日以上 816 件実施。
- ・認知症ケア認定看護師教育課程修了者ができたことから 3 月より認知症ケア加算 I を取得した。

2) 平成 29 年度実績

1. 合同就職説明会

日程	名称	参加人数
2月11日	マイナビ	50人
2月19日	キャリアタス	20人
3月20日	中日新聞	46人
4月22日	キャリアタス	38人
合計		154人

2. 学内説明会

日程	名称	参加人数
1月28日	椋山女学園大学	9人
2月8日	愛知県立看護大学	20人
4月5日	日本赤十字豊田看護大学	7人
4月21日	豊田地域看護専門学校	28人
合計		64人

3. インターンシップ

日程	参加人数
3月	11人
8月	18人
合計	29人

4. 就職説明会・施設見学

日程	新卒者	既卒者	参加人数
4月15日	9人	1人	10人
5月6日	17人	0人	17人
6月3日	10人	0人	10人
6月17日	1人	1人	2人
7月1日	2人	1人	3人
7月15日	2人	1人	3人
8月5日	5人	1人	6人
8月19日	7人	1人	8人
9月2日	3人	2人	5人
2月3日	6人	0人	6人
2月17日	3人	0人	3人
3月3日	2人	0人	2人
3月17日	8人	0人	8人
合計	75人	8人	83人

5. 学生・実習生受け入れ状況

①中学生体験

学校名	日程	人数
末野原中学校	11/7～8	3人
猿投中学校	6/8～9	2人
石野中学校	6/13～14	1人
豊南中学校	6/20	1人
梅坪台中学校	6/22～23	1人
崇化館中学校	6/13～14	2人
藤岡南中学校	11/29～30	4人
朝日丘中学校	10/18～19	4人
逢妻中学校	6/8～9	2人
みよし市立北中学校	12/6～7	3人
井郷中学校	6/22～23	1人
美里中学校	6/13～14	1人
みよし中学校	9/14～15	2人
足助中学校	8/7～8	2人
合計人数	—	29人

②高校生体験

主催	日程	人数
愛知県主催	8/2	32人
病院主催	7/27	30人
病院主催	8/23	30人

③看護学生

学校名	日程	人数(延人数)
加茂看護専門学校 1年生	8日間	40人(320)
2年生	42日間	39人(1638)
3年生	109日間	40人(4360)
豊田地域看護専門学校 2年生 小児	9日間	16人(144)
内科	12日間	13人(156)
3年生 小児	9日間	23人(207)
内科	12日間	22人(264)
日本赤十字豊田看護大学 3年生 成人Ⅱ	9日間	24人(216)
日本赤十字豊田看護大学 3年生 統合	9日間	6人(54)
日本福祉大学看護学部 3年生 小児	6日間	15人(90)
日本福祉大学看護学部 3年生 母性	6日間	20(120)
穂の香看護専門学校 3年生 周手術期	9日間	7(63)
認定看護師教育課程実習 脳卒中リハビリテーション	23日間	3(69)
兵庫県立大学看護研究科博士前期課程 看護教育学専攻研究コース フィールドワーク	6日間	1(6)
県立看護大学	訪問看護ステーション実習	
日本赤十字豊田看護大学		
弥富看護専門学校(通信)		

8. 医療安全管理部

1) 平成 29 年度に実施した重点事項とその成果

全職員が当事者意識を持って医療安全活動に取り組めるよう、職場の意識を高める。
インシデントレポート、医療事故事例の情報は遅延なく報告され、レポートから見えてくる傾向や対策をフィードバックし、現場で実施されるよう支援を実施。

1. インシデントレポート集計・分析

インシデントレポート件数は総数 5242 件と増えてきているが、診療部とくに臨床研修部からが約 500 件以上増加した。

2. インシデントカンファレンスを実施し事実確認が必要な部門へラウンド実施。

インシデント事例の内容や発生状況を確認しながら、具体的な指導を行った。日常的に現場に足を運ぶことで、各部署の職員とコミュニケーションを図ることができた。

3. M & M カンファレンス開催

インシデントレポートや医療事故報告から情報の共有が必要と思われる事案に対して、各部署から選出されたスタッフが参加。毎月 1 回定例化している。診療部を始め各部署からも参加。幅広い視点から有意義な意見交換ができています。具体的な改善策に繋がる事例もあった。

4. 啓蒙活動の実施

全体講演会 2 回実施。

医療事故ワークショップについては、当院で起こった事例を検討。いろんな部門からの意見交換が出来る事に焦点をあてた。医療安全フォーラムは各部門で 1 事例を分析・改善策立案・実践報告を時間をかけて読み込むことが出来るようにした。この取り組みによって職員全員が医療安全活動に参加している意識付けに繋がると考えた。参加者総数 1157 名であった。

インシデントレポートなどから共有したい事例や内容をセーフティニュース・お便り・今月の一枚として配布。

5. 医療事故対応（事例検討会）の実施

6. 医療事故調査制度にともなう死亡患者の確認

医療事故調査制度の対象事例はなし。

2) 平成 29 年度実績

1. インシデント報告件数

職 種 別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
診療部 (臨床研修部)	8 (1)	2 (15)	19 (13)	10 (5)	26 (19)	7 (4)	42 (36)	88 (36)	96 (53)	145 (121)	272 (239)	85 (71)	819 (613)
放射線技術科	6	6	7	4	3	2	3	4	5	1	6	2	49
臨床検査技術科	18	28	20	18	15	12	14	18	13	10	15	9	190
リハビリテーション技術科	1	2	8	2	4	2	1	3	5	2	1	2	33
臨床工学技術科	3	3	3	0	2	5	3	6	4	2	4	3	38
栄養科	2	2	1	5	4	2	10	2	2	1	1	3	35
薬剤部	7	8	8	12	12	14	9	15	9	15	13	10	132
看護部	337	339	328	353	350	315	311	304	327	247	274	257	3742
事務部	6	15	7	4	5	10	8	17	14	5	6	10	107
地域医療福祉連携部	5	2	3	5	3	6	7	6	7	1	1	0	46
保健事業部	2	7	6	5	2	0	5	0	1	5	1	1	35
その他	1	3	0	2	1	0	0	2	3	0	3	1	16
合計	396	436	410	420	427	375	413	465	486	434	597	383	5242

内容別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
薬 剤	150	157	149	150	167	126	141	169	140	124	189	118	1780
輸 血	2	4	4	2	6	5	4	5	2	3	2	3	42
治療、処置	39	36	52	44	41	34	44	52	75	75	113	63	668
医療機器等	9	8	7	13	14	19	16	13	12	14	26	19	170
ドレーン・チューブ	50	60	41	37	47	40	45	43	50	37	50	40	540
検 査	48	72	57	54	48	37	52	61	62	62	79	40	672
療養上の世話 (転倒・転落)	71 (42)	71 (35)	69 (41)	90 (49)	72 (41)	65 (35)	69 (26)	62 (42)	81 (47)	47 (29)	73 (44)	50 (32)	820 (463)
そ の 他	27	28	31	30	32	49	42	60	64	72	65	50	550
合 計	396	436	410	420	427	375	413	465	486	434	597	383	5242

2.M & Mカンファレンス開催日程

月 ・ 日	参加者
4月19日	15名
5月24日	15名
6月12日	12名
7月19日	13名
8月23日	16名
9月20日	14名
10月25日	21名
11月22日	14名
12月20日	15名
3月28日	13名

3.啓蒙活動内容

研修企画：実践

- 新人職員研修 4月4日 10月2日 研修医4月5日
- 看護師新人研修 4月10日
- 看護部ラダー研修 レベルⅠ 10月5日 レベルⅡ 10月17日
- 看護補助者研修 8月22日、1月16日 看護部クラーク研修8月24日

全体講演会開催

- ・8月29日 「クレーム対応について」
講師 星野智史先生 損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント(株)・・・参加者1148名
- ・10月26日 「コミュニケーションエラーを防ぐ 初めの一步」
講師 鎌田敏先生 株式会社 システムブレン・・・参加者996名

医療事故ワークショップ

拡大M & Mカンファレンス

テーマ：ムンプス 3歳児 名大搬送 警察介入事例

ファシリテーター：服部副院長 司会：大橋医師

各部門より参加代表者を選出。事例を3ステージに分けてディスカッションした。

平成30年1月20日参加者62名(医師20名 研修医9名 看護師15名 診療協同部18名)

平成30年2月3日参加者80名(医師27名 研修医15名 看護師20名 診療協同部18名)

医療安全フォーラム

目標：各部署が自部署事例の分析を行い、対策を見出し、改善に取り組むことが出来る

対象：全部署

方法：各部署の取り組み報告を冊子にまとめ各部署に配布

期間：平成30年2月1日（木）～平成30年2月28日（水）

1か月間読み込んだ後、アンケート実施

参加者 1157名

興味をひいた取り組み内容の部署：1位 3B病棟「配薬忘れを予防しよう」
2位 臨床検査技術科「ホルマリンの適正管理と運用周知」
3位 外来Aブロック「案内表100%」

パトロール

時刻確認パトロール 6月16日

リストバンド装着確認パトロール 9月15日

医療安全パトロール 患者確認について 2月16日

医療安全推進週間（11月19日～11月25日）

全職員の名札に黄色リボンを付け医療安全推進週間の意識付けを行う

入院・外来患者に対してリーフレット配布

29年度テーマ：～あなたから発信・私から発信・共につくろう安全文化～

インシデント報告を推進

インシデントカンファレンスから必要と思われる部門へラウンド実施。事実確認、改善策の検討等を行う

セーフティニュース毎月発行、医療安全情報提示（毎月）

医療安全看護部会へはお便り発行

年間計画進捗確認ラウンド実施

栄養科：職場環境の問題に対して意見があり施設課と共に情報共有。

放射線科：CT、MRI、一般撮影時の患者確認行動について。

薬剤科：調剤時の確認方法について。

健診センター：採血スピッツ確認行為について。

事例検討会・・・10回

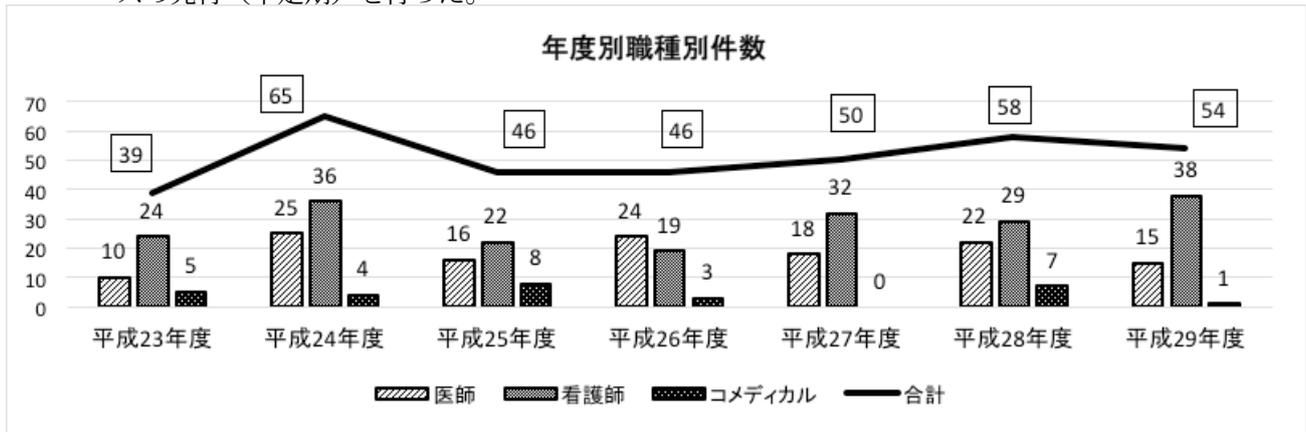
標語の提示

9. 感染制御部

1) 平成 29 年度に実施した重点事項とその成果

1. 針刺し・切創・粘膜曝露対策

針刺し・切創・粘膜曝露についてのデータ収集を前年度より継続して実施した。医療安全対策委員会・安全衛生委員会メンバーとともに、針刺しワーキンググループを立ち上げ、針刺し・切創・粘膜曝露についての検討、介入を実施した。平成 29 年度は、54 件/年の事例が発生し、前年度（58 件/年）よりわずかだが減少した。また、針刺し・切創・粘膜曝露に対する職員への啓蒙として、針刺しニュースの発行（不定期）を行った。



2. 新型インフルエンザ等患者搬送訓練

平成 29 年 11 月 24 日に、豊田市保健所・豊田市消防本部主催、豊田厚生病院共催で、新型インフルエンザ等患者搬送訓練を実施した。訓練に際し、新型インフルエンザ等対応マニュアルの整備等を行った。

3. リンクナース活動の充実

院内パトロールチーム、標準予防策チーム、血液体液曝露チームに分かれ、それぞれグループ活動を展開した。院内パトロールチームは、毎月各部署から報告があるパトロール結果をアセスメントし、改善策を検討、廃棄物の処理に焦点を絞って介入した。標準予防策チームは、毎月の擦式アルコール製剤の消費量を調査し、適切なタイミングで手指衛生ができるように小テストを実施した。血液体液曝露チームは、インスリン用針のリキャップが多かったことをふまえ、リキャップ防止を呼びかけるポスターの貼付などを実施した。

2) 平成 29 年度実績

1. 教育活動

開催月	研修会名
平成 29 年 4 月 3 日	新入職員研修（全職種対象）「院内感染対策の実際」
4 月 7 日	新入職員研修（看護師対象）「感染対策の概要」「針刺し、血液・体液曝露防止対策の実施と事故後の対応」他
4 月 20 日	2A 病棟「なぜ感染対策が必要か」
5 月 19 日	看護係長会議「血流感染対策～CVC および PVC 管理について」
9 月 4 日	日本赤十字豊田看護大学学生実習「感染対策について」
9 月 6 日	地域医療福祉連携部「医療関連感染対策と在宅ケアの感染対策」
9 月 19 日	看護助手会議「感染対策について」
9 月 28 日	クラーク会議「感染対策勉強会」

開催月	研修会名
10月 2日 10月 2日	中途採用者研修（全職種対象）「院内感染対策の実際」 全体講演会（全職員対象）「血流感染予防対策 Up To Date」 帝京大学特任講師 藤田烈先生
11月 9日 11月 14日	ラダーⅡ研修「デバイス関連感染・手術部位感染」 ボランティア対象「冬の感染対策～手洗い・防護具の実際～」
12月 6日 12月 7日	地域連携看護技術研修会「STOP! 感染拡大～感染対策の基本から、吐物処理の実際まで～」 ラダーⅠ研修「標準予防策・感染経路別予防策」
1月 11日	地域連携看護技術研修会「STOP! 感染拡大～感染対策の基本から、吐物処理の実際まで～」
2月 21日	地域連携看護技術研修会「STOP! 感染拡大～感染対策の基本から、吐物処理の実際まで～」
3月 6日 3月 8日	全体講演会「肺炎の予防と治療」 三重大学呼吸器内科 丸山貴也先生 地域連携看護技術研修会「STOP! 感染拡大～感染対策の基本から、吐物処理の実際まで～」

2. 地域連携

《感染防止対策加算Ⅰ・Ⅱカンファレンス》

開催月	内容	主催
平成29年4月19日	昨年度の感染症の統括と今年度の活動について	トヨタ記念・豊田厚生共同開催
6月21日	平成28年度の情報共有	トヨタ記念病院
8月23日	誤嚥性肺炎の予防について考えよう	トヨタ記念病院
10月18日	インフルエンザアウトブレイク対応	豊田厚生病院
12月20日	新型インフルエンザ等患者搬送訓練を終えて	豊田厚生病院
2月21日	抗菌薬・消毒薬の使用状況報告	トヨタ記念・豊田厚生共同開催

《感染防止対策加算Ⅰ×Ⅰラウンド》

開催月	内容	評価施設
平成29年7月14日	トヨタ記念病院ラウンド	豊田厚生病院
平成30年1月26日	豊田厚生病院ラウンド	トヨタ記念病院

3. ICT ラウンド（毎週金曜日）

毎回テーマを絞って、病棟・外来系のラウンドを実施。

4月…標準予防策（ゴミの分別、滅菌物の管理等）

5月…手指衛生（擦式アルコール製剤での手指衛生チェック、流水手洗いチェック）

6月…血流感染防止（ミキシング台の環境整備、薬液管理、側注の手技等）

7月…職業感染（吸引時の防護具着脱等）

8月…環境整備（針捨てボックスのチェック、点滴刺入部観察等）

9月…手指衛生・廃棄物関連（流水手洗いチェック、施設課と合同の廃棄物ラウンド）

10月…血流感染防止（点滴刺入部観察、点滴ルート確保準備等）

11月…標準予防策（滅菌物の管理）

12月…職業感染（看護助手の手指衛生、空気感染についての知識チェック、N95マスク）

1月…環境整備（汚物室の環境、ゴミの分別等）

2月…手指衛生（シンク回りの乾燥）

3月…標準予防策（薬液管理、パソコンキーボード培養）

4. 血液培養ラウンド（毎週水曜日）・抗菌薬ラウンド（毎週火曜日）

・血液培養ラウンド

血液培養陽性：1,017 例に介入 うち血流感染：86 例

・抗菌薬ラウンド

119 症例に介入

5. ICT ニュースの発行（12 月より毎月）

開催月	内容
平成 29 年 12 月	血流感染（CRBSI）の予防について
平成 30 年 1 月	インフルエンザが流行しています！
2 月	急増中！冬に流行する感染症～ノロウイルス編～
3 月	バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）って？

10. 地域医療連携課（地域医療連携係）

急性期病院として期待される要望事項の把握に努め、地域医療機関との交流を密にし、地域医療連携がスムーズに行えるように受け入れ体制を充実させる。

1. 地域医療機関との連携強化

①地域医療機関への表敬訪問の実施（121件）

連携医療機関の拡大のため、副院長と共に名古屋市・瀬戸市・安城市・刈谷市・北設楽郡の医療機関への訪問を行った（連携医数 102 機関→137 機関に拡大）

②登録医の当院広報誌への情報掲載

毎号 4 医療機関ごと掲載

③5大がん地域連携パス受け入れ医療機関拡大

開業医訪問の際に新規届出および追加届出依頼を行うとともに、届出未医療機関との連携パスを希望する患者が発生した場合、新規届出依頼及びパス説明の訪問を行った（届出医療機関数 105 機関→128 機関に拡大）

④平成 29 年 4 月地域連携勉強会開始（詳細は 2. 平成 29 年度実績⑩地域連携勉強会を参照）

⑤平成 29 年 5 月 31 日（水）第 2 回（平成 29 年度第 1 回）豊田厚生病院地域医療支援病院運営委員会開催

平成 29 年 8 月 30 日（水）第 3 回（平成 29 年度第 1 回）豊田厚生病院地域医療支援病院運営委員会開催

平成 29 年 11 月 15 日（水）第 4 回（平成 29 年度第 1 回）豊田厚生病院地域医療支援病院運営委員会開催

平成 30 年 3 月 14 日（水）第 5 回（平成 29 年度第 1 回）豊田厚生病院地域医療支援病院運営委員会開催

⑥平成 29 年 5 月 19 日（土）第 22 回 豊田厚生地域医療連携交流会開催

全参加者：180 名（院内医師 47 名・他 34 名、院外医師 54 名・他 45 名）

⑦平成 29 年 9 月 30 日（土）平成 29 年度 豊田加茂地域医療連携交流会参加

当院参加者：47 名（医師 26 名・他 21 名）

⑧平成 29 年 3 月 8 日（水）平成 28 年度 豊田加茂医師会・豊田厚生病院合同 C P C 開催

参加者：81 名（院外医師 9 名、院内医師 42 名・医学生 1 名・他 29 名）

2. 地域医療連携向上の取り組み

①紹介の推進

- 平成 29 年 4 月 1 日（日）ホームページリニューアル

当院ホームページリニューアルに伴い、「医療関係者の方へ」に掲載している地域医療連携課の情報についてもユーザビリティ向上の視点から全面リニューアル。

- 4 月 15 日（土）～救急科宛での救急車については全て救命救急センターにて対応

- 5 月 10 日（水）～平日午後の救急科宛で紹介患者のうち、診療科が明確でないものについては救命救急センターにて対応

- 5 月 25 日（木）～午後の紹介患者について各科確認は不要で受け、対抗困難時は救命救急センターにて対応

- 9 月 22 日（金）地域医療支援病院承認

- 10 月 1 日（日）より DPC/PDPS 機能評価係数 I 地域医療支援病院入院診療加算（0.0266）算定開始

- ・10月2日（月）より再診時保険外併用療養費 300 円を 2,700 円に変更

②逆紹介の推進

- ・4月より膀胱留置カテーテル交換患者（90名）の逆紹介推進開始。
- ・9月5日（火）～火曜日整形外科予約枠専門1日6枠追加
- ・2月20日（火）電子カルテ内かかりつけ医紹介カード全更新

③予約枠の拡大

- ・8月30日（水）～9月末まで神経内科服部部長1日4件→6件（13：00・13：20枠）追加
- ・9月4日（月）～12/末まで血管外科池田医師午前枠2/2→3/2まで地域医療連携予約取得可
- ・10月2日（火）整形外科（一般）予約枠追加（月～金曜日9：001枠、9：301枠→各2枠）

④インターネット予約の拡大に向けた取り組み

- ・整形外科ネット火曜日予約枠9：009：30各1枠追加（9：00・9：30計2枠×5日となった）。
- ・10月2日（火）整形外科（一般）ネット枠新設、月～金曜日9：001枠、9：301枠
- ・10月3日（水）心不全外来開始（ネットのみ）インターネット予約枠新設：心不全外来 火曜日14：001枠、14：301枠
- ・10月10日（火）神経内科（もの忘れ以外）ネット予約枠週2枠→週8枠に変更

⑤ その他

- ・6/6（火）日進市「特定保健指導」受託、健診実施機関へ案内発送
- ・10月2日（火）他院からの返書等の取込を各ブロックから地域医療連携課へ変更。

2）平成29年度実績（地域医療支援病院運営委員会資料より抜粋）

1. 医科登録医数・歯科登録医数・施設数（ ）内は施設数

	29年度末
医科	260(205)
歯科	175(159)
合計	435(364)

2. 開放型利用実績（開放型病床25床）

	29年度
紹介患者延利用日数	1,669
利用率	18.3%

3. 地域医療連携課利用実績（紹介総数）

区分	29年度	
合計	31,943	
地域医療連携課経由	外来	16,359
	入院	5,479
	検査	2,505
	小計	24,343
地域医療連携課経由外	外来	6,275
	入院	1,325
	検査	0
	小計	7,600
地域医療連携課利用率	76.0%	

4. 地域別紹介件数

	29年度
豊田市	22,467
みよし市	4,084
二次検診	1,822
その他	3,570
合計	31,943

5. 科別紹介実績

（単位：人）

科別	29年度	29年度（内訳）	
		外来	入院
内科	13,876	10,856	3,020
精神科	186	184	2
小児科	1,574	1,049	525
外科	2,306	1,755	551
整形外科	2,474	1,929	545
形成外科	533	467	66
脳神経外科	775	637	138
呼吸器外科	97	73	24
心臓外科	242	232	10
皮膚科	1,067	959	108
泌尿器科	1,395	1,103	292
産婦人科	1,014	686	328
眼科	822	598	224
耳鼻咽喉科	2,024	1,705	319
放射線科	995	994	1
麻酔科	40	40	0
歯科口腔外科	2,523	1,872	576
合計	31,943	25,139	6,804

6. 科別逆紹介実績

（単位：人）

科別	29年度	29年度（内訳）		
		紹介元へ	紹介元以外へ	当院患者を紹介
内科	12,284	9,205	241	2,838
精神科	142	33	22	87
小児科	399	238	5	156
外科	957	637	24	296
整形外科	2,214	378	50	1,786
形成外科	477	235	5	237
脳神経外科	454	176	24	254
呼吸器外科	38	30	3	5
心臓外科	302	250	3	49
皮膚科	424	276	23	125
泌尿器科	234	56	39	139
産婦人科	268	113	3	152
眼科	725	428	29	268
耳鼻咽喉科	2,030	1,898	5	127
放射線科	1,005	1,001	3	1
麻酔科	8	0	0	8
歯科口腔外科	1,660	1,312	10	338
合計	23,621	16,266	489	6,866

7. 高度医療機器利用実績

検査名		29 年度
放射線関係	CT	738
	MRI	585
	RI	15
	PET-CT	16
	骨密度	126
	消化管透視（上部）	1
	消化管透視（下部）	14
内視鏡・ 生理検査関係	内視鏡（上部）	280
	内視鏡（下部）	252
	腹部超音波	264
	心臓超音波	165
	甲状腺超音波	64
	頸動脈超音波	41
	その他超音波	15
	脳波	13
	その他	151
	合計	2,740

※その他の超音波は下肢血管

※その他はホルター心電図・トレッドミル・神経伝導検査・肺機能検査など

8. 紹介率・逆紹介率

	29 年度
紹介率	73.3%
逆紹介率	76.7%

9. インターネット予約システム利用状況

	28 年度
地域医療連携課経由紹介件数	23,111
インターネット予約件数（再掲）	4,332
インターネット予約割合	18.7%

10. 地域連携勉強会

日程	研究会等の名前	内容	主催	対象	参加者数
5/24 (水)	第 1 回乳腺勉強会 (第 1 回地域連携勉強会)	検診発見乳がんの検討 ～画像と病理の対比～	外科	健診機関、豊田市乳がん検診 協力医療機関、乳がん地域連 携パスを依頼した医療機関の 放射線技師、臨床検査技師、 医師	74
5/25 (木)	第 1 回看護技術研修会 (第 2 回地域連携勉強会)	膀胱留置カテーテル 看護技術研修会	泌尿器科・ 地域医療連携課	膀胱留置カテーテル交換受け 入れ医療機関の看護職	17
6/8 (木)	第 2 回看護技術研修会 (第 3 回地域連携勉強会)	膀胱留置カテーテル 看護技術研修会	泌尿器科・ 地域医療連携課	膀胱留置カテーテル交換受け 入れ医療機関の看護職	16
6/15 (木)	第 3 回看護技術研修会 (第 4 回地域連携勉強会)	膀胱留置カテーテル 看護技術研修会	泌尿器科・ 地域医療連携課	膀胱留置カテーテル交換受け 入れ医療機関の看護職	15
7/6 (木)	第 4 回看護技術研修会 (第 5 回地域連携勉強会)	膀胱留置カテーテル 看護技術研修会	泌尿器科・ 地域医療連携課	膀胱留置カテーテル交換受け 入れ医療機関の看護職	14

8/23 (水)	第2回乳腺勉強会 (第6回地域連携勉強会)	検診発見乳がんの検討 ～画像と病理の対比～	外科	健診機関、豊田市乳がん検診 協力医療機関、乳がん地域連 携パスを依頼した医療機関の 医療従事者	81
8/31 (木)	第5回看護技術研修会 (第7回地域連携勉強会)	血管アセスメントに基 づく採血・静脈注射・ 留置針研修	地域医療連携課	連携医療機関看護師	22
9/20 (水)	第6回看護技術研修会 (第8回地域連携勉強会)	血管アセスメントに基 づく採血・静脈注射・ 留置針研修	地域医療連携課	連携医療機関看護師	17
10/18 (水)	第7回看護技術研修会 (第9回地域連携勉強会)	血管アセスメントに基 づく採血・静脈注射・ 留置針研修	地域医療連携課	連携医療機関看護師	20
11/1 (水)	第8回看護技術研修会 (第10回地域連携勉強会)	血管アセスメントに基 づく採血・静脈注射・ 留置針研修	地域医療連携課	連携医療機関看護師	15
11/15 (水)	第3回乳腺勉強会 (第11回地域連携勉強会)	検診発見乳がんの検討 ～画像と病理の対比～	外科	健診機関、豊田市乳がん検診 協力医療機関、乳がん地域連 携パスを依頼した医療機関の 医療従事者	81
12/6 (水)	第9回看護技術研修会 (第12回地域連携勉強会)	感染対策勉強会～ STOP! 感染拡大～	地域医療連携課	連携医療機関看護師	14
1/11 (水)	第10回看護技術研修会 (第13回地域連携勉強会)	感染対策勉強会～ STOP! 感染拡大～	地域医療連携課	連携医療機関看護師	19
2/21 (水)	第11回看護技術研修会 (第14回地域連携勉強会)	感染対策勉強会～ STOP! 感染拡大～	地域医療連携課	連携医療機関看護師	21
3/8 (水)	第12回看護技術研修会 (第15回地域連携勉強会)	感染対策勉強会～ STOP! 感染拡大～	地域医療連携課	連携医療機関看護師	14

11. 地域医療連携課（在宅支援コーディネーター係）

1) 平成 29 年度に実施した重点事項とその成果

1. 院内における退院支援体制の向上を図る

退院支援担当者会に毎月 1 回参加

退院支援担当者が、担当者としての役割を理解し、病棟スタッフへの働きかけができるよう GW、伝達を行った。

専従看護師・病棟専任看護師・病棟専任医療社会福祉士にて専任会を 1 回 / 2 カ月開催した。

退院支援計画書作成件数 UP のために、退院支援計画書作成件数を毎月報告し、スタッフの意識付けを行った。

医療と介護の連携のために、ケアマネジャーの訪問件数の把握と介護支援連携の充実を図った。

2. 退院支援担当者の育成 退院支援の充実

担当者会に在宅支援コーディネーター 3 名参加

5 月 退院支援加算 1 の維持、内容の充実について検討

6 月 宇都宮浩子先生の講義「おうちへ帰ろう」DVD 聴講

7 月 総合機能評価加算のための、システム変更の伝達

8 月 退院支援における受け持ち看護師の役割について GW

9 月 退院支援における受け持ち看護師の役割について具体的な内容の GW

10 月 2 事例を通しての退院支援の具体について GW (ステップ 1)

11 月 2 事例を通しての退院支援の具体について GW (ステップ 2)

12 月 2 事例を通しての退院支援の具体について GW (ステップ 3)

1 月 事例検討から学んだことを、字部署で導電託していくか GW にて検討

2 月 介護支援連携について、ケアマネが来院した時の対応について GW

3 月 年間目標の評価

退院支援計画書の作成件数は、増加したが、内容の不備があり、担当者会を通じて、内容に充実を図った。

3. 地域関係機関との連携強化

【緩和ケア小勉強会】介護・医療関係者との顔の見える連携

平成 30 年 1 月 20 日 在宅でできる医療：アガペクリニック院長 伊藤志門医師

【在宅医療】

豊田市在宅医療シンポジウム・多職種合同研修会への参加

4. 地域クリニカルパス推進

【脳卒中地域連携パス運用会議】年 3 回開催

平成 30 年 3 月 8 日 脳卒中地域連携パス部会

「急性期病院実績報告」

【大腿骨頸部骨折地域連携パス運用会議】年 3 回開催

平成 30 年 2 月 23 日 大腿骨頸部骨折地域連携パス合同会議

「急性期病院実績報告」

5. 質向上とキャリアアップを図る

東海4県農村医学会

退院調整養成研修参加

2018年度診療報酬・介護報酬同時改定の内容とこれからの経営戦略

2) 平成29年度の実績

看護師4名体制。退院調整件数は新規738件（前年度比136%）。年々増加となっている。

疾患分類で見ると悪性新生物が357件で依頼の48%を占め、がん患者の在宅療養の件数が増えてきている。

退院支援計画書は、6,917件（前年度比186%）と増えた。

①疾患分類

	平成29年度
新生物	357件
神経系	49件
循環器系	103件
呼吸器系	51件
消化器系	36件
その他	142件

②退院時転帰先

	平成29年度
在宅	434件
施設	70件
転院	14件
死亡	83件
合計	601件

③対応件数

	平成29年度
新規件数	738件
継続延べ件数	1953件
合計	2691件

④退院支援計画書・介護支援連携

	平成29年度
退院支援計画書	6917件
介護支援連携	182件

⑤地域連携パス件数

	29年度
大腿骨頸部骨折	107件
脳卒中	128件
胃がん	43件
大腸がん	74件
乳がん	64件
肝がん	2件
肺がん	40件
喘息	1件
COPD	4件
PCI後（循環器）	0件
CKD	0件
在宅緩和ケア	7件
合計	470件

12. 医療福祉相談課 (兼がん相談支援センター)

平成 29 年度の医療福祉相談課の対応件数に関して、平成 28 年度を大幅に上回る結果であった。新規対応依頼の件数が平成 28 年度比で 249 件もの増加（平成 28 年度 1,881 件、平成 29 年度 2,130 件）したことが大きい要因である。昨年度が前年比で新規依頼 0.4% の増加だったことを考えると、今年度での前年比 13% 増は、かなり大幅に増加していると言える。ソーシャルワーカーの介入を求められる事例は毎年のように増加傾向であるが、ここまでの増加はここ数年では例が無い。内訳では、昨年までのように退院相談が増え、その他が減っているといったように退院相談に偏重してきている部分は変わらないが、全体的に相談件数が増加しているのが平成 29 年度の特徴となっている。

がん相談支援センターとしては、前年比 0.4% 増に留まり、対応件数全体としては大きな差はなかった。内容としては治療そのものに対する不安や悩みが多いのが例年通りの特徴である。自宅退院は援助内容項目では「治療・療養生活等」に含まれるため、一般の患者に比べると、がん患者の方が自宅復帰の比率が高いとも言えるのも平成 28 年度と同様となった。

1) 平成 29 年度に実施した重点事項とその成果

1. 後方病院や在宅関係機関との連携強化

- ・市役所における相談統合窓口の設置（豊田市一福祉総合相談課・みよし市一福祉の窓口）により、複合課題を抱える利用者への相談がスムーズになった。
- ・認知症初期集中支援チームとの連携により、認知症患者を抱える家族への介入がスムーズになった。
- ・在宅医療中核サポートセンターや他病院代表者、医師会などと協力して豊田加茂地域における退院支援の仕組みをある程度ルール化したガイドブックへの作成協力を前年に引き続きで行った。
- ・空床情報を定期的に送ってもらうことができる後方医療機関が増え、効率の良い転院支援が出来るようになってきている。
- ・後方医療機関との地域包括ケア病棟の運用について個別に協議をしたことで、在宅準備の短期入院などの受け入れ幅が広がった。
- ・居宅介護支援事業所との顔の見える連携を繰り返すことにより、退院支援加算の要件取得だけでなく、ケアマネジャーに医療機関の機能を理解してもらう機会にもなっている。

2. 退院支援計画書の算定率向上のための支援

- ・在宅支援コーディネーター係と協働で退院支援スクリーニング時に病棟に退院支援計画書算定の声掛けを行い、平成 28 年度の 300 件前後から、平成 29 年度には 550 件程度まで算定数が伸びている。
- ・退院支援スクリーニングカンファレンスでの病棟への声掛けを継続的に行い、該当患者のピックアップと内容の充実が図れるようになってきている。
- ・除外疾患の見直しを行う事で算定件数は増えたが、短期入院の場合だと、計画書が画一的になりやすく、利用者の個別性への内容の充実が課題となった。そのため、退院支援計画書の内容充実のために医療福祉相談課と在宅支援コーディネーター係のダブルチェック体制で全例をチェックし、病棟ヘッフィードバックを行い、看護部のラダー研修の講義にも織り込んで、内容充実を図った。

3. 部署内の資質向上

- ・新人教育の計画的な展開と、経験年数の浅い職員のフォローアップ体制の確立のため、チーム制における教育システムの充実を図った。その結果、教育担当者がチーム内で偏る傾向も見られたため、チーム制のあり方については、その見直しも含めて平成 30 年度以降の課題となった。

4. 地域包括ケアシステム作りへの協力

- ・前年度から開設準備をしていた豊田市成年後見センターが開設し、準備委員から継続で運営会議（豊田市成年後見・法福連携推進会議）に参加している。今後に身寄りのない単身者が増えることが予想され、成年後見制度の必要性が増している。この運営会議に豊田市内の医療機関のソーシャルワーカーの代表として参加し、医療機関における事例などを通じてセンターの役割について提言を行っている。医療同意における問題点の整理や制度では手が出せない部分も含んで対応するセンターの基盤づくりに協力を続けている。具体的に病院利用者からの相談も繋がるようになってきている。
- ・豊田市地域密着型包括支援ネットワーク会議に参加し、今後の豊田市の基盤整備への話し合いに医療機関の代表として提言を行っている。

2) 平成 29 年度実績

1. 援助内容別対応件数

援助内容	29 年度	
	件数 (件)	構成比 (%)
1. 心理・社会的処遇	256	1.0%
2. 治療と療養生活	610	2.5%
3. 家族関係・在宅生活	213	0.9%
4. 受診・入院	557	2.3%
5. 退院・転院	20,007	81.2%
6. 医療費・生活費・経済	1,130	4.6%
7. 手続き・診断書・保険	1,548	6.3%
8. 職業等社会生活	33	0.1%
9. その他	279	1.1%
合計	24,633	100.0%

2. がん相談支援センター 援助内容別対応件数

援助内容	H 29 年度	
	件数 (件)	構成比 (%)
1. 治療・療養生活等	1,215	62.5%
2. セカンドオピニオン	8	0.4%
3. 治療実績・受診・入院・退院・医療機関紹介	366	18.8%
4. 医療費・生活費・社会保障制度	215	11.1%
5. 不安・精神的苦痛・告知・コミュニケーション	66	3.4%
6. その他	75	3.9%
合計	1,945	100.0%

3. 関係機関との会議等への参加状況

豊田市要保護児童・DV 対策協議会、愛知県児童虐待対応医療機関連絡会、豊田加茂児童虐待等関係機関連絡調整会議、地域連携パス会議（脳卒中・大腿骨骨折・在宅緩和ケア）、豊田市地域密着型包括支援ネットワーク会議、豊田市成年後見・法福連携推進会議、難病ネットワーク三河ブロック連絡員会議、愛知県難病医療協議会、難病関係機関連絡会議（衣浦東部保健所・豊田保健所）、保健所・難病医療ネットワーク連携会議、認知症医療連携協議会、医療福祉関係機関と名古屋刑務所との連絡協議会、豊田市母子医療保健福祉ネットワーク会議、豊田市精神保健福祉関係機関連絡会議、豊田市アルコール支援推進会議 等

4. 地域貢献

- ・愛知県医療通訳派遣システム 講師派遣
- ・がん相談支援センター基礎研修会Ⅲ（国立がん研究センター） ファシリテーター派遣
- ・名古屋刑務所視察委員会 委員派遣
- ・豊田市介護保険認定審査会 委員派遣
- ・日本福祉大学「医療ソーシャルワーク演習」 講師派遣
- ・実習生対応（他職種含む） 等

5. 患者会開催状況（事務局が医療福祉相談課のもののみ）

①オストミー友の会（人工膀胱・人工肛門患者会）— 事務局 医療福祉相談課

- ・第 35 回 オストミー友の会

日 時：平成 30 年 3 月 15 日

テ ー マ：「皮膚の赤み・かゆみの対処法」

講 師 福岡沙織（皮膚排泄ケア認定看護師）

イ ベ ント：楽器演奏 演奏 音楽ボランティア

座 談 会：意見交換会

参 加 者：会員 39 名、付添い 14 名、病院スタッフ 15 名

②ひまわり会（在宅酸素療法患者会）— 事務局 医療福祉相談課

- ・第 38 回 ひまわり会

日 時：平成 29 年 7 月 1 日

テ ー マ：「呼吸筋体操」 講 師 鈴木香奈（理学療法士）

イ ベ ント：「和太鼓演奏」 披露 小野民夫 氏

「オカリナ演奏」 披露 おかりーなフレンズ

座 談 会：意見交換会

参 加 者：会員 13 名、付添い 5 名、病院スタッフ 16 名、酸素業者 3 名

- ・第 39 回 ひまわり会

日 時：平成 29 年 10 月 1 日

小 旅 行：「名古屋市科学館」

参 加 者：会員 10 名、付添い 4 名、病院スタッフ 21 名、酸素業者 3 名、開業医 1 名

13. 豊田厚生訪問看護ステーション

1) 平成 29 年度に実施した重点事項とその成果

1. スタッフ 1 日一人当たり訪問件数増への取り組み

①目標の設定と訪問実績のみえる化

訪問看護事業実績における収支改善を図るため、1人当たりの訪問件数 3.0 人を目標に設定した。毎月のステーション会議における実績報告と訪問実績グラフ化によりモニタリングを行った。

②新規利用者数を増やす取り組み ～院内外へ向けて P R 活動の実施～

- ・医師を対象に訪問看護のことを知ってもらう為の説明会を実施（5 月外科会、6 月内科会）
- ・豊田産業フェスタにおける健康相談と訪問看護の P R 活動（9 月）
- ・豊田市図書館でのポスター展示（10 月、在宅医療サポートセンター事業に参加）
- ・市民シンポジウム「豊田市でずっと暮らし続けるために」訪問看護認定看護師がパネリストとして参加（1 月）

③訪問件数を増やす取り組み～状態変化に合わせた訪問回数の調整と空き情報に関する情報提供～

- ・日々のカンファレンスで看護計画の評価を行い、状態変化に合わせて訪問回数の調整を実施した。
- ・後方支援部署や院内外ケアマネジャーに空き情報を伝える等、多職種との情報共有を行った。
- ・利用者の入院により訪問枠が空いた場合、新規依頼や追加訪問を行い、訪問件数を減らさない為の取り組みを実施した。→ 機能強化型訪問看護Ⅱの取得が維持出来ている。

2. 部署内教育体制の充実と人材育成

①部署内教育係りによる教育計画の立案と実施 ～毎月のステーション会議に合わせて実施～

- ・5 月：前年度チームリーダーによるターミナルケア看護に関わる症例の発表～
- ・6 月「退院時共同指導加算」、7 月「看護記録の基本原則」、8 月「人工呼吸器装着中の看護」、10 月「呼吸リハビリテーション」、11 月「在宅におけるフィジカルアセスメントと急変対応」、12 月「ナラティブワークショップ」の部署内勉強会に関しては、講師をスタッフが担当した。
- ・9 月「ストーマケア」、2 月「在宅酸素療法」3 月「人工呼吸器トリロジー」に関しては外部への依頼

②訪問看護師向け学習支援プログラム（O J T シート）の活用と報告（11 月～12 月）

スタッフ全員に対し上記を使用し、自己評価を実施。→結果より事業所全体としての訪問看護基本能力、専門的能力、組織的能力は市内の事業所平均値を上回っていることが明らかになった。領域別にみると、「災害対応」「社会資源の活用」「他職種連携」「学生指導」「困難事例」の評価が低くなっている傾向が明らかになった。今後自己の振り返りと研修企画への資料として活用する。

4. 在宅医療サポートセンター「訪問看護推進事業」への参画と地域とのネットワークづくり

①豊田市訪問看護ステーション部会主催の研修会への協力と参加（4 月、6 月、9 月、10 月、1 月）

②訪問看護ワーキンググループへの参加（4 月、5 月、6 月、8 月、9 月、10 月、12 月、2 月）

西三河北部医療圏における訪問看護の連携強化の体制作りを始め、市民への周知活動、訪問看護師の人材育成、多職種連携など豊田市が推進する在宅医療・福祉連携推進計画とも協力体制を構築。

③電子連絡帳（豊田みよしケアネット）使用に向けての院内説明会参加（6 月）と安全性・操作性に関する評価の実施（3 月迄）

5. 業務のスリム化と業務量の調整を図る

- ・ナーススケジューラーより時間外の項目について、定義の統一を図った上で管理の実施→看護記録や

連携業務に係る時間多い実態が明らかとなった。

- ・訪問終了後の看護記録、連携業務時間の確保と時間の有効活用を目的に、「日々カンファレンスの運用方法」についてステーション会議で検討を行い、「訪問看護業務基準」明示した。
- ・訪問看護実績入力を各スタッフから事務職に移譲（7月）
- ・日報・月報の入力から管理資料が作成できるよう、様式変更の実施（7月）
- ・緊急訪問バッグ内のデータベース管理について、個人情報保護の強化を目的に、医療情報室の協力を得て、タブレットでのパスワード管理に変更した

2) 平成 29 年度実績

前年度比における利用者数 107.6%、訪問件数 113%、訪問看護収益 108.9%の結果であり、1日一人当たりの訪問件数 3.0 件以上の目標を達成した。訪問看護収益と支出の関係においても、昨年度までの 1 千万円以上マイナス実績から大幅に改善した、平成 29 年度の特徴として、介護保険利用者における独り暮らし高齢者、老々介護世帯における褥瘡、カテーテル類、ストマ処置や内服管理などの依頼が多い状況であった。特に要支援 1・2 の割合が増加し、介護予防における看護体制強化加算の算定が出来ない状況となったが、要介護利用者が大幅に増加した為、その影響を受けることなく利用者数、訪問件数、訪問看護収益も好調な結果となった。医療保険では、緩和ケア病棟からのリセット入院の為、一週間程度の期間限定で訪問看護を利用するケースや、膀胱留置カテーテル管理が必要な利用者の件数が増えるなど、豊田厚生病院の方針が在宅にも反映する結果となった。

1. 訪問実績

	利用者数 (人)	訪問件数 (件)	訪問看護収益 (千円)	事業費【支出】(千円)
医療保険	525	2,959	36,878	95,502 損益 ▲ 375 万円
介護保険	1,185	5,314	54,872	
計	1,710	8,273	91,750	

2. 新規依頼の紹介元

*昨年までは、院内からの新規依頼が多い状況であったが、平成 29 年度は院外ケアマネジャーからの依頼が多い状況であり、その一方で院内在宅支援コーディネーターからの依頼は減少した。結果としてトータルとしての依頼件数は昨年度の 154 名から 130 名と減少する結果となった。

紹介元		介護	医療	計
院内	在宅支援コーディネーター	13	42	55
	居宅介護支援事業所	7	1	8
	地域包括支援センター	0	4	4
	小計	20	47	67
院外	他施設より（他病院・診療所等）	5	6	11
	居宅介護支援事業所	36	8	44
	地域包括支援センター	7	1	8
	小計	48	15	63
合計		68	62	130

3. 終了者数

*昨年度までは医療保険の終了者が多い状況であったが、平成 29 年度は医療保険と介護保険の終了者がほぼ同じ人数となった

	終了者数 (人)
医療保険	66 (内入所等 4 人)
介護保険	68 (内入所等 18 人)
計	134 名

4. 学生・実習生受け入れ状況

学校名	実習日数	人数 (述べ人数)
加茂看護専門学校	9クール 99 日間	40 名 (441 名)
愛知県立看護大学	3クール 11 日間	9 名 (33 名)
日本赤十字豊田看護大学	1クール 7 日間	4 名 (28 名)
弥富看護学校	2クール 4 日間	8 名 (16 名)
愛知県立看護大学 教諭	1 日間	1 名

1 4. 豊田厚生居宅介護支援事業所 (豊田厚生介護保険センター)

1) 平成 29 年度に実施した重点事項とその成果

1. 利用者の意向を踏まえ、居宅介護支援の立場から在宅移行調整を行う

- ・利用者・家族の意向を確認した上で、在宅移行カンファレンスに参加や開催した。
- ・退院に向けて、急な対応依頼の方を優先的に対応し、サービス調整で退院を遅らせないように努めた。
- ・院内依頼紹介ケースは、対象エリア内は、100%対応。認定前も暫定プランとして対応できた。要支援か要介護か見極めが困難な場合は、利用者にも不利益を生じないように地域包括支援センターと連携強化を図りつつ相談対応に努めた。

2. 居宅介護支援事業所の特定事業所加算Ⅲを継続算定できるように諸条件を満たす

- ・週 1 回ケアマネ会議を開催し、新規ケースや問題ケースなどの情報を共有した。
- ・時間外携帯当番を 365 日対応。特に大きなトラブルはなし。
- ・ケアマネごとに個別的な研修目標を設定し受講した。
- ・運営基準減算に該当しないように今後も条件を満たしていく。
- ・ケアマネ 1 人当たり受け持ち平均 34 件 (標準 35 件目安)、プラン数平均 32.1 件。短期間で終了するケースや状態悪化にてプラン発生につながらないケースが多いため、今後も新規ケースの継続対応が必要である。
- ・ケアマネ実務研修における実習受入協力事業所へ登録。初めて、6/3～7/17 の間に 2 名 3 日間ずつ実習受入完了。主任ケアマネ更新の個人要件ともなるため今後も対応できるようにしていく。
- ・特定事業所加算基準の遵守状況に関する所定の記録を毎月末まで作成し、5 年間保存。
- ・豊田市集団指導・講習会の情報を適宜スタッフと共有。

2) 平成 29 年度実績

1. ケアプラン作成

平成 29 年度	
件数	収益
1,156	18,417,205

- ① H27/4 介護保険法改正にともない、特定事業所加算要件として、人材育成に関する協力体制の整備がある。H28 年度の介護保険支援専門員実務研修受講試験発表日からの適応であり、H 29/6/3～7/17 の間に 2 名 3 日間ずつ実習受入完了。他の要件は、満たすように常時留意中である。しかし、H 30/4～1 名部署異動に伴い、1 名欠員状態となるため、H 30/4～特定事業所加算は算定取り下げ予定である。
- ②活動実績は、ケアプラン件数は前年度比 102%と微増したが、収益は前年度比 100%であった。また、母体病院の役割に添うように、主に医療依存度の高いケースやがん末期のケースが安心して自宅療養できるように関係者と連携しながら受け持ち対応しているが、医療依存度の高い場合やがん末期ケースの場合、状態変化しやすいケースが多く、急変にて、相談対応は行ってもプランにならないケースが 77 名、死亡者 41 名、介護負担などから施設入所など中止 (終了) 者 21 名あった。また、スタッフ 1 名 H30/4～部署異動に伴い 12 名院外ケアマネへケース移行を行った。
- ③H 29 年度の受け持ち利用者の時間外携帯相談対応件数は 24 件あり、前年度比 89%であった。
- ④上記収入とは別に、実施地域外のケースは毎月の訪問の車代 (片道代) を領収し経理に報告している。
- ⑤業務改善として、院内の地域包括支援センターとの連携強化を目標に活動した。利用者に適した事業

所等の紹介が必要となることを踏まえた上で、当院併設の地域包括支援センターから当事業所への紹介率を60%以上とし、実績は61.3%であり目標は達成。H29/2～居宅介護サービス計画作成依頼届出書の提供開始日は、提出月の1日までとなっており、今後も要介護・要支援どちらの認定結果がでるか見極めが困難な場合は、各地域の包括支援センターとも連携を図っていく必要性がある。

2. 要介護別件数

要介護度別	平成29年度
要介護1	293
要介護2	325
要介護3	160
要介護4	238
要介護5	140
計	1,156

3. その他

	平成29年度件数
新規利用契約者	66
中止者(入所等)	21
死亡者	41
利用者(電話相談以外)	1824
他事業所へのケース紹介(再掲)	12
主治医連絡票(平成21年度から対応開始)	359
介護保険医療連携用情報提供書対応件数(平成21年度から対応開始)	438

⑥ 院外のケアマネジャーが当院の主治医と連絡がとりやすくなるように主治医連絡票や入院時の情報提供窓口となり、院外のケアマネジャーと当院の橋渡しができるよう継続して対応出来た。業務分担として、H29/4～入院時の情報提供窓口とH30/1～主治医連絡票の担当窓口を地域医療連携課へ移行。

⑦ 愛知県厚生連のケアマネジャーとの情報交換を年2回開催協力できた。さらに、愛知県厚生連で、高齢者福祉事業を担う職員のスキルアップ、モラル及びモチベーション向上の一環として、平成29年度高齢者福祉研究会を11/18開催。開催運営協力できた。

⑧ 要介護認定者の主治医の意見書取り扱い件数(地域医療連携課窓口)

平成29年度	
件数	収益
1,610	7,321,320

主治医意見書は前年度比102.4%と取扱件数が増加している。外来患者・泌尿器科入院患者等に対して、意見書作成の事前アンケートは継続中。H28.4から事務員が地域医療連携課に配置転換。兼務という形で業務遂行中。

⑨ 医師意見書取り扱い件数(地域医療連携課窓口)

平成29年度	
件数	収益
23	9,720

1 5. 豊田厚生地域包括支援センター

1) 平成 29 年度に実施した重点事項とその成果

*平成 29 年度は 9 月末までに猿投中学校区を新たにできた地域包括支援センターへ業務の引継ぎを行った。10 月以降、浄水中学校区（一中学校区）の担当となった。

1. 地域におけるネットワークづくり

地域の核となる自治区長、民生児童委員から信頼頂き、常に連絡を取り合える良好な関係性を目指す。高齢者クラブ、ふれあいサロンの活動に参加する方や支援する方、ささえあいネット登録機関との『顔の見える関係性づくり』を目指す。コミュニティ会議との連携を密にし、地域住民の活動や意向をセンターの活動に反映できるように努める。

(数値目標)

区長会、交流館運営委員会、まごころフェスタ（実行委員会含む）への参加 年 3 回

ささえあいネット会議の開催 年 1 回

高齢者クラブ・ふれあいサロン活動への訪問 4 回

(成果) 数値目標達成

- ・まごころフェスタには 113 名のブース来場者有、また、地域会議イベント（9/16）、地域会議（傍聴・10/11）、浄水自治区福祉講演会（10/21）、伊保原自治区防災避難訓練（11/5）、浄水地区健康づくり意見交換会（12/3,12/17）、伊保原自治区女性会（12/11）、交流館イベントなどに積極的に参加し、地域住民の活動の把握とセンターの周知に努め、世代を問わず多くの方と出会うことで地域の様子を肌で感じることが出来た。
- ・ささえあいネット会議（地域ケア地域会議）は、全 34 事業所へ開催を案内、参加勧奨を行った結果、56 名の方に参加を頂くことが出来た。会議では、他自治区の地域づくりの様子と民生委員より情報提供をいただいたひとり暮らし高齢者に対するアンケート結果を紹介し、協議体の開催を見据えて地域課題と住民活動の様子の把握を目的としてグループワークを行った。その結果、活動に参加できない方をどのように参加を促すかという共通課題が明らかになった。一方、協議体への展開を働きかけることができる活動の把握には至らなかった。しかし、参加者の声、アンケートから「地域の取り組みを知ることができて良かった」「今後も意見交換の場を増やして欲しい」という意見を頂いた。（次年度に向けて）昨年度、向山自治区で地域ケア会議を開催した際、住民活動の好事例を紹介してほしいと意見があった。ふれあいサロンへ参加させていただいた折には認知症予防に関する意識も強いことも把握しているため、次年度に向けて、他自治区の好事例の紹介とともに、認知症サポーターステップアップ講座の開催を見据えた認知症サポーター養成講座の開催も提案していく。提案後の展開、取り組み状況を次年度のささえあいネット会議において紹介することができるとよい。
- ・ささえあいネット会議、「地区概況」「地区把握表」の記載、まとめを通して、地域では多くの活動が行われていることが分かった。ささえあいネット会議では、新たな協議体の開催には至らなかったが、これら、今ある活動を活かすことが必要だと感じている。又、今後も要介護者を地域で支えるために、地域の介護支援専門員等、関係機関に把握した社会資源を情報提供していくことができるとよい。
- ・民児協高齢者福祉部会の次年度の取り組みについて、包括も可能な範囲で協働させていただきたい旨申し出て了解を得ることができた。民生委員の協力を得ながら、より効果的な活動が出来るように努める。
- ・ささえあいネット登録事業所に関しては、薬局との連携体制、昨年度未訪問だった事業所の訪問を重

視したため、新規登録事業所は1件（セブンイレブン豊田市浄水町南平店）であった。訪問した既存事業所では、窓口担当者が交代していたり、認知症が疑われる高齢者への対応をされていることが分かり、ささえあいネットについて周知をすることが出来た。

- ・交流館より地域企業、団体との連携について提案・打診有。地域住民の健康づくり等、30年度に豊田厚生病院と交流館の連携事業実現に向け、橋渡しを担う。
- ・地域保健課が実施する「浄水地区健康づくり意見交換会」（12/3,12/17・きらきらウェルネス地域推進事業）に参加した。幅広い年代の地域住民と意見交換を行い、地域住民の想いを知ることが出来た。次年度に向けて作成される健康づくり計画とセンターの活動がそれぞれ効果を上げる事が出来るように努めたい。

2. 総合相談支援事業

速やかで適切な支援ができるよう、利用者の事情に合わせた相談形態で懇切丁寧に対応する。様々な専門・関係機関や協力者と利用者個別の支援ネットワークを構築できるよう関係性作りを継続する。相談に至らない高齢者へ手が届くようにするために、積極的に地域に出向き、高齢者の生活の実態把握を行う。高齢者になってから子ども世代に呼び寄せられた地域住民の状況把握を積極的に行う。

（数値目標）

民生委員との懇談会、情報交換会の開催 年1回
ひとり暮らし高齢者登録者の実態把握 60件
「地区の概況」「地区把握表」の更新 随時

（成果）数値目標達成

- ・地域保健課の地区担当保健師より、保健師が行った「自治区長へのインタビュー」結果の情報提供を頂き、「地区の概況」の把握をすることが出来た。
- ・民生児童委員、主任児童委員との懇談会・意見交換会では、地域の課題や住民のニーズに応じた対応をされたり、自主的な活動に取り組みだしたりしている様子を教えていただいた。また「地区把握表」に関する情報提供を頂くこともできた。センターの活動と今後の予定について周知させていただいた。また、改めて介護保険について知りたいという申し出もいただき、3月の地区協議会で介護保険制度の説明とセンターの役割の周知を行った。
- ・ひとり暮らし高齢者の実態把握を進めるために、7月下旬～8月初旬、民生委員の「ひまわり活動」に同行させていただき、67名の実態把握が訪問により実現した。民生委員がひとり暮らし高齢者を対象に行ったアンケート結果も提供いただき、ひとり暮らし高齢者の実態把握を行うことが出来た。アンケート結果に基づいて今後展開される民生委員活動を把握しながら、センターの役割遂行に努める。

3. 権利擁護事業

生活に困難を抱えた高齢者が安心して住み慣れた地域で生活を継続するために、福祉総合相談課や市民後見支援センター、社会福祉協議会 CSW 等と連携し、より専門的・継続的な支援を行う。

（数値目標）

高齢者クラブ・サロン訪問時の消費生活被害防止啓発活動 4回
季刊誌による地域住民への啓発 年1回

(成果) 数値目標達成

- ・サロン活動や高齢者クラブ訪問時、または認知症カフェ開催時にチラシ等を配布しながら、また季刊誌を自治体に回覧して消費生活被害の予防を訴えた。
- ・高齢者虐待対応、成年後見制度、身元保証等に関する研修に積極的に参加し、職員として資質向上に努めた。

4. 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業

地域の介護支援専門員が関係機関及び自治区長、民生委員、地域住民支援者と連携を取りやすくするための支援を充実する。介護支援専門員が相談をしやすい関係性の構築を目指す。

(数値目標)

居宅介護支援事業所への訪問 3件

西部ブロック包括合同ケアマネジャー向け研修会開催 2回

(成果) 数値目標達成

- ・担当地区内3件の居宅介護支援事業所訪問を通して、各事業所の実情を把握した。また地域ケア個別会議について意見交換した。2つの事業所で支援困難を感じているケースはないとのことだが、近い将来を見据えて行う会議の意義について説明をした。1つの事業所から紹介いただいた事例については、地域ケア会議を開催した。また、包括の主任介護支援専門員に対する意見も頂き、次年度の活動に活かしていきたい。
- ・西部ブロック5包括と地域の事業所の主任介護支援専門員有志の共催で、10/3に行った研修会には33名の参加有。複合課題を抱えた家族支援について、福祉総合相談課を講師に招き、事例検討を行い学んだ。当センターは企画の全体まとめとグループワークの進行を行った。福祉総合相談課は居宅介護支援において今後連携が必要な機関であり、アンケートでは「福祉総合相談課の役割が理解できた」と回答される方が多く、関係機関の役割理解につながった。

5. 認知症に関する支援

認知症に対する正しい知識と対応について、普及・啓発を充実させるとともに、地域での見守りネットワークの構築を目指す。認知症の方とその家族の支援のために、認知症初期集中支援チームとの連携に努める。

地域における認知症カフェの設置を目指し、家族介護者同士の交流機会を充実させる。

(数値目標)

「認知症サポーター養成講座」の開催 年2回

豊田厚生病院内ボランティアへの認知症講座 年1回

認知症サポーター養成講座、まごころフェスタ、家族介護交流事業における啓発 4回

(成果) 数値目標達成

- ・3回開催した認知症サポーター養成講座では、151名の認知症サポーターを養成した。2/17に浄水コミュニティ会議福祉健康まちづくり委員会と共催した講座は昨年度に引き続き2度目。委員会の希望を伺い、中学生ボランティアの協力も得て『寸劇』を披露した。その打ち合わせ時には、次年度以降の講座についての意見も伺うことが出来た。
- ・豊田厚生病院のボランティア24名に対して、認知症に対する正しい理解と対応を日頃の活動に活かしていただくよう伝えた。

- ・「認知症カフェ～Sui Café（スイカフェ）～」は、共催先とセンターそれぞれの特徴とメリットを活かすべく、検討を重ねて開催している。豊田厚生病院にもカフェPRの協力を依頼。認知症の方が介護者とともに参加したり、施設の送迎を利用してこれまで出かけたくても出かけられなかった方の参加が叶っている。初回開催の様子はひまわりネットワークの取材を頂き、「とよたNOW」の特集で放送された。認知症カフェについて広く市民に広報することができた。（9月～30.3月述べ参加者132名、平均参加者数22名）
- ・7/19に開催した認知症ケアマネ研修会には介護支援専門員34名の参加有。認知症高齢者の支援における成年後見制度の活用について、豊田市成年後見支援センターを講師に招き、事例検討を行い学んだ。アドバイザーを杉本弁護士に依頼、当センターは事例提供を行った。事例検討を通し、地域ケア会議の果たす役割や早めに包括へ相談する意味を共有することができた。

2) 平成29年度実績

1. 相談に対する対応件数（件）

※ほのぼの（地域包括支援センター支援システム）実績

電話	訪問	来所	その他	合計
2,706	1,194	451	353	4,704

2. 介護予防サービス支援計画作成（指定介護予防支援事業）実績

平成29年度		
件数（件）	収入（円）	前年度比
554	2,284,390	67.1%

3. 介護予防ケアマネジメント実績 ※平成29年度～

平成29年度		
件数（件）	収入（円）	前年度比
113	438,567	— %

4. 介護機器展示室における相談（件）

相談・対応件数
329

4. 会議等参加実績 合計 183回

会議・研修名等（一部）・回数	
民生委員児童委員地区協議会	15回
サービス連絡調整会議	24回
地域包括支援センター連絡会議	12回
会議・研修会等の開催・講師派遣	16回

5. 委託加算事業の実績

事業区分	加算項目数・回数
事業評価加算	5項目
家族介護交流事業（認知症カフェ含む）	12回

16. 健康管理室

1) 平成 28 年度に実施した重点事項とその成果

1. 人間ドックの胃カメラ枠追加

人間ドックの胃カメラ（追加価格 4,320 円）検査は、経鼻用胃カメラを 2 本追加して計 3 本・1 日の件数も 2 件から 6 件（経鼻のみ生検なし）に増枠して検査を行った結果、3 月末で 1205 件の予約枠で 822 件（実施率 68.2%・昨年度比 225.8%）と昨年度より倍増することができました。また、内視鏡センターとの受診者の送迎を健診スタッフとボランティアにも協力を得て行うようにしました。

2. 保健指導の充実 全国協会健保の充実・拡大（当日指導の充実）

平成 24 年度より全国協会健保等の当日保健指導を開始し、また保健指導室が増設された事により、29 年度は保健指導の受診者が動機付け支援 171 名、積極的支援 175 名と前年度に比較し増加しました。要因は、新たに 2 団体と保健指導の契約を締結したものです。また当日の保健指導の実施率は 97.7%と好調であった。当日の保健指導実施率は県下でもトップクラスの評価を頂きました。

3. 人間ドック施設機能評価更新

昨年度より準備委員会を立ち上げ計 18 回の委員会を行い、7 月に書面調査を提出し 12 月 27 日にサーベイヤー 2 名（医師 1 名・事務 1 名）が来院して訪問調査を行いました。当日のサーベイヤーの好評も好評価を頂き、2 月 24 日に認定を頂きました。今回は、生活習慣病（血圧・脂質・糖代謝）の受診勧奨システムを構築し、健診結果が経過観察の受診者に 6 ヶ月後にフォローアップ健診を受診して頂き生活習慣の改善に向けた方策を開始しました。また健診当日の結果説明・保健指導も開始しました。

2) 平成 29 年度の実績

平成 29 年度の受診者総数は 19,881 名（職員健診含む）、総収入 550,125 千円、予算は 500,057 千円に対して予算対比 50,068 千円増 110.0%と予算を大幅に達成することができた。平成 29 年度の稼働日は 267 日で 1 日当たり平均の受診者数は 74.5 名（職員健診含む）、また一日当たりの平均収入は 2,060 千円で、平成 29 年度の一人当たりの平均単価が 27,670 円であった。各種健診別の受診者の増加率はドック 109.0%、企業健診等 105.5%、全国協会健保 107.1%、豊田市国保特定健診 111.9%、豊田市がん検診 110.5%と前年度に比べ、全体的に収益・受診者数ともに大幅に増加が見られた。

1. 29 年度のがん検診精査率

平成 30 年 4 月 1 日現在

	総受診者数	要精検者数	要精検率	精検受診数	精検受診率	がん発見数	がん発見率
胃がん	9,875	820	8.3%	521	63.5%	6	0.06%
肺がん	15,579	349	2.2%	232	66.4%	5	0.03%
大腸がん	11,245	701	6.2%	422	60.1%	14	0.12%
前立腺がん	2,140	102	4.7%	43	42.1%	4	0.18%
子宮がん	4,360	221	5.0%	150	67.8%	2	0.04%
乳がん	5,547	225	4.0%	197	87.5%	20	0.36%

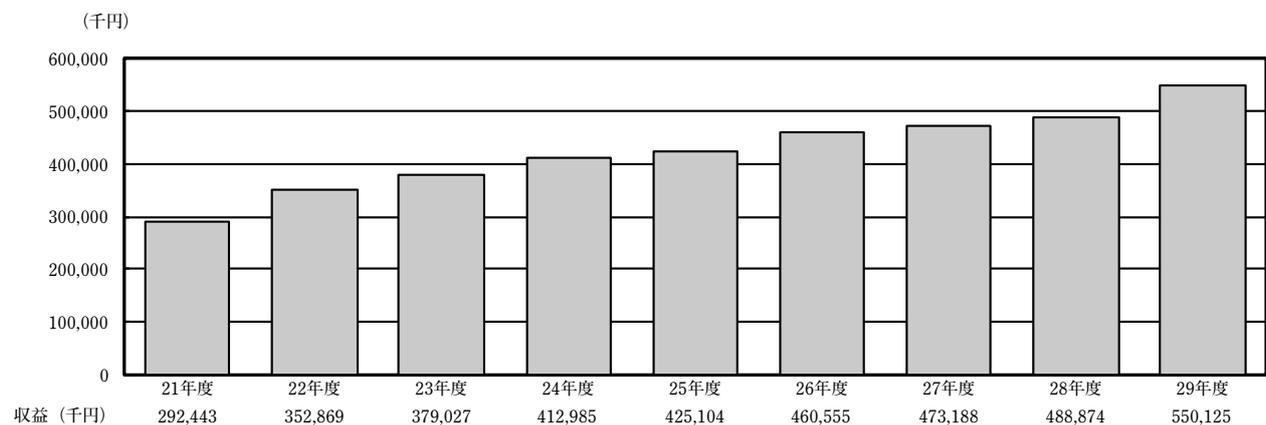
※胃がん検診にて、食物残渣多量、描出不良、撮影不可等の理由にて検査未実施者は総数に含まず

※各精検受診者数については、上記日までに当センターに報告されたもののみとする
 ※精査率は1年遅れで集計します

2. 健康管理室利用者数前年対比

	平成 29 年度
人間ドック	3,413
JA 組合員人間ドック	89
脳ドック	1,016
PET 検診	101
肺ドック	385
レディースドック	179
甲状腺ドック	62
もの忘れドック	4
豊田市国保特定健診	4,503
特定健診（集合契約A）	527
保健指導（動機付け）協会健包含む	174
保健指導（積極的）協会健包含む	176
全国協会健保 一般	1,532
“ 付加・差額	406
“ 乳・子宮がん	481
“ 肝炎	5
企業健診・身体検査	4,330
被爆健診	89
職員健診	2,564
保健指導（動機付け）	36
保健指導（積極的）	17
豊田市がん検診 胃がん	3,917
“ 大腸がん	4,925
“ 肺がん	4,024
“ 子宮がん	1,186
“ 乳がん	1,866
“ 前立腺がん	1,082
“ 肝炎	564
“ 総合健診	305
“ 乳がん検診（無料券）	159
“ 子宮がん検診（無料券）	29
受診者数（職員健診含む）	19,881
収益（円）	550,125,419

3. 健康管理室収益推移



Ⅲ 職員活動

1. 研究業績

1) 呼吸器内科

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	当科における胸腺癌 10 例の臨床的検討	○高嶋浩司、牛嶋太、佐藤美佳、青山昌弘、谷川吉政	第 57 回日本呼吸器学会学術講習会	2017.4.22
2	腭性胸水後にサルモネラ菌血症、膿胸を発症した 1 例	○佐藤美佳、二村圭祐、牛嶋太、高嶋浩司、青山昌弘、谷川吉政、石田順造、平松義規	第 111 回日本呼吸器学会東海地方会	2017.5.28

2) 循環器内科

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	GuideLinerを用いてRotablationを施行した 1 例	○鈴木伯征、窪田龍二	第 37 回日本心血管インターベンション治療学会東海北陸地方会	2017.5.12
2	高度石灰化を通過した Retro wire の評価に OCT が有用であった 1 例	○鈴木淳也、窪田龍二、井村仁美、鈴木伯征、山口和才、上原敬尋、豊陽祐、藤田雅也、林 大介、大橋大器、金子鎮二、篠田政典	第 37 回日本心血管インターベンション治療学会東海北陸地方会	2017.5.13
3	右橈骨アプローチにおいてキンクしたカテーテルの抜去に難渋した 1 例	○伊藤亮太、大橋大器、足立健太郎、井村仁美、鈴木淳也、鈴木伯征、藤田雅也、林大介、窪田龍二、金子鎮二、篠田政典	第 37 回日本心血管インターベンション治療学会東海北陸地方会	2017.5.13
4	ECMO使用中に血栓を認め、抗リン脂質抗体症候群が疑われた心不全の 1 例	○白井義憲、大橋大器、井村仁美、鈴木伯征、鈴木淳也、豊陽祐、藤田雅也、林大介、窪田龍二、金子鎮二、篠田政典	第 149 回日本循環器学会東海地方会	2017.7.1
5	急性心筋梗塞後心不全に対して挿管管理下にトルパブタンを使用した 1 例	○伊藤亮太、窪田龍二、井村仁美、鈴木伯征、鈴木淳也、豊陽祐、藤田雅也、林大介、大橋大器、金子鎮二、篠田政典	第 149 回日本循環器学会東海地方会	2017.7.1
6	OCTを用いたstent elongationの評価:Stentの不完全圧着とelongationとの関連についての検討	○鈴木伯征、窪田龍二	第 26 回日本心血管インターベンション治療学会・学術集会	2017.7.8
7	三尖弁輪から焼却できたHis近傍心房頻拍の 1 例	○藤田雅也、藤田雅也、金子鎮二、窪田龍二、大橋大器、林大介、豊陽祐、鈴木伯征、鈴木淳也、井村仁美、篠田政典	カテーテルアブレーション 2017	2017.7.7
8	Maze 後 Marshall Reentry Atrial Tachycardia を Marshall Vein-CS 間弾道 Block で治療した 1 例	○金子鎮二、藤田雅也、窪田龍二、大橋大器、上原敬尋、山口和才、鈴木伯征、鈴木淳也、足立健太郎、井村仁美、白井義憲、篠田政典	カテーテルアブレーション 2017	2017.7.7
9	興味深い冠静脈洞伝導所見を伴うmarshall reentry atrial tachycardia の一例	○井村仁美、金子鎮二、藤田雅也、窪田龍二、大橋大器、鈴木伯征、鈴木淳也、足立健太郎、篠田政典	カテーテルアブレーション 2017	2017.7.7

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
10	バルーン拡張後にw irelによる冠動脈穿孔が顕在化したため2nd sessionを要したLMT CLOの一例	○窪田龍二、井村仁美、鈴木淳也、鈴木伯征、豊陽祐、藤田雅也、林大介、大橋大器、金子慎二、篠田政典	T O P I C 2017	2017.7.20
11	I V U S and OCT Guided Cutting Balloon	○窪田龍二、井村仁美、鈴木淳也、鈴木伯征、豊陽祐、藤田雅也、林大介、大橋大器、金子慎二、篠田政典	P O P A I 2017	2017.9.9
12	A C a s e of Atrial Tachycardia Originating from Left Atrial diverticulum	○鈴木淳也、金子慎二、井村仁美、鈴木伯征、豊陽祐、藤田雅也、林大介、大橋大器、窪田龍二、篠田政典	第64回日本不整脈心電学会学j術大会	2017.9.15
13	E f f e c t of EEPVI and com@plate linear ablation for presistent AF of Large LA	○藤田雅也、金子慎二、井村仁美、鈴木淳也、鈴木伯征、豊陽祐、林大介、大橋大器、窪田龍二、篠田政典	第64回日本不整脈心電学会学j術大会	2017.9.16
14	C a s e O F V T A lation for Tetralogy of Fallot	○金子鎮二、藤田雅也、井村仁美、鈴木伯征、鈴木淳也、豊陽祐、林大介、大橋大器、窪田龍二、篠田政典	第64回日本不整脈心電学会学j術大会	2017.9.16
15	jailed balloon technique を用いても側枝の血流確保に難渋した一例	○大橋大器、井村仁美、鈴木淳也、鈴木伯征、豊陽祐、藤田雅也、林大介、窪田龍二、金子鎮二、篠田政典	CVIT 第38回東海北陸地方会	2017.10.6
16	バルーン拡張後に著明な冠動脈解離を認めたが、解離を進行させずに治療し得た1例	○白井義憲、大橋大器、伊藤亮太、井村仁美、鈴木淳也、鈴木伯征、豊陽祐、藤田雅也、林大介、窪田龍二、金子鎮二、篠田政典	CVIT 第38回東海北陸地方会	2017.10.6
17	亜急性心筋梗塞後、心室頻拍が頻発した重症心不全患者に対して Scar Homogenization が有効であった一例	○鈴木伯征、長井伸 篠田政典、金子鎮二 窪田龍二、大橋大器、林大介、藤田雅也、豊陽祐	日本循環器学会第150回東海・第135回北陸合同地方会	2017.11.3
18	冠静脈洞内で伝導が逆転する marshall reentry atrial tachycardia の一例	○井村仁美、篠田政典、金子鎮二、窪田龍二、大橋大器、林大介、藤田雅也、豊陽祐、鈴木伯征、鈴木淳也	日本循環器学会第150回東海・第135回北陸合同地方会	2017.11.3
19	Maze 後 Marshall reentry atrial tachycardia の一例	○伊藤亮太、金子鎮二、窪田龍二、大橋大器、林大介、藤田雅也、豊陽祐、鈴木伯征、鈴木淳也、足立健太郎、井村仁美、白井義憲、篠田政典、	日本循環器学会第150回東海・第135回北陸合同地方会	2017.11.3
20	僧帽弁 flutter 治療中に biatrial tachycardia に変化した一例	○足立健太郎、篠田政典、金子鎮二、窪田龍二、大橋大器、林大介、藤田雅也、豊陽祐、鈴木伯征、鈴木淳也、井村仁美	日本循環器学会第150回東海・第135回北陸合同地方会	2017.11.3
21	複数回血行再建術施行するも、狭窄・閉塞繰り返し返した陳旧性前壁中隔心筋梗塞の1例	○窪田龍二、井村仁美、鈴木淳也、鈴木伯征、豊陽祐、藤田雅也、林大介、大橋大器、金子鎮二、篠田政典	A R I A 2017	2017.11.24
22	Comparison of low voltage zone ablation and complete linear ablation against persistent atrial fibrillation.	○鈴木伯征、井村仁美、鈴木淳也、豊陽祐、藤田雅也、林大輔、大橋大器、金子鎮二、篠田政典	第82回日本循環器学会総会	2018.3.23

3) 消化器内科

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	急速に増大し破裂した多発肝腫瘍の1剖検例	○森悠、長井伸、喜田裕一、岩下紘一、伊藤裕也、竹内敦史、森田清、都築智之、成田道彦	日本消化器学会東海支部第127回例会	2017.11.11
2	腹水に伴った好酸球性腸炎の1例	○豊島創、喜田裕一、岩下紘一、伊藤裕也、竹内敦史、森田清、都築智之	日本消化器学会東海支部第127回例会	2017.11.11
3	胃腫瘍の画像強調併用拡大内視鏡診断における全焦点画像生成技術の応用(シンポジウム)	○松井健一、宮原良二、後藤秀実	日本消化器学会東海支部第127回例会	2017.11.11
4	スキルス胃癌が疑われ遠位側胃切除が施行された胃炎の1例	○安田司、伊藤裕也、喜田裕一、岩下紘一、竹内淳史、森田清、都築智之	第60回日本消化器内視鏡学会東海支部例会	2017.11.18

会長・司会・座長

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	座長	都築智之	日本消化器学会東海支部第127回例会	2017.11.11

4) 神経内科

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	進行性の認知機能低下を呈した lymphomatosis cerebri の1剖検例	○森悠、赤塚和寛、富田稔、伊藤瑞規、服部直樹、氏平伸子、成田道彦、吉田真理、豊田厚生病院神経内科、同病理診断科、愛知医科大学加齢研	第148回日本神経学会東海北陸地方会	2017.7.15
2	多発脳神経麻痺を主徴としたギラン・バレー症候群の1例	○赤塚和寛、富田稔、伊藤瑞規、服部直樹	第28回日本末梢神経学会学術集会	2017.8.25
3	健康成人に発症した黄色ブドウ球菌(MSSA)による一次性化膿性筋炎の1例	○赤塚和寛、富田稔、伊藤瑞規、服部直樹	第22回日本神経感染症学会総会・学術大会	2017.10.14
4	横紋筋融解症で発症した細菌性髄膜炎の1例	○久野光皓、服部直樹、伊藤瑞規、富田稔	第149回日本神経学会東海北陸地方会	2017.11.3
5	当院でのTrousseau症候群40例の臨床特徴	○赤塚和寛、服部直樹、伊藤瑞規、富田稔、赤塚和寛	第149回日本神経学会東海北陸地方会	2017.11.3
6	無症候性高CK血症が先行した壊死性ミオパチー2例の治療検討	○富田稔、赤塚和寛、伊藤瑞規、服部直樹、野田成哉、勝野雅央	第35回日本神経治療学会	2017.11.16
7	セフェム系抗菌薬が奏功した黄色ブドウ球菌(MSSA)による化膿性筋炎の成人発症例	○赤塚和寛、富田稔、伊藤瑞規、服部直樹	第35回日本神経治療学会	2017.11.18
8	当初ALSと診断し、死亡時臨床診断がPSPであった1剖検例	○森悠、赤塚和寛、伊藤瑞規、服部直樹、富田稔、氏原伸子、成田道彦、吉田真理	第150回日本神経学会東海北陸地方会	2018.3.3
9	原発不明癌による抗Yo抗体陽性傍腫瘍性小脳失調症の1例	○赤塚和寛、富田稔、伊藤瑞規、服部直樹	第150回日本神経学会東海北陸地方会	2018.3.3

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
10	サーフィンにより肺炎球菌性髄膜炎を繰り返した1例	○安田司	第151回日本神経学会東海北陸地方会	2018.3.3
11	脳梗塞発症後に新規潜在癌を認めたTrousseau症候群11例	○赤塚和寛、富田稔、伊藤瑞規、服部直樹	STROKE 2018	2018.3.17

5) 内分泌・代謝内科

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	糖尿病ラウンドの効果についての検討と今後の課題	○加藤大也、前田佳照、増田富、渡邊令奈、脇坂涼子、加藤美里、鈴木泰子、北村美奈、草野仁美、白石彩乃、川上恵美、熊谷美希、澤井喜邦	第60回日本糖尿病用学会学術集会	2017.5.19
2	患者さんと共に歩む糖尿病治療～当院におけるチーム医療を交えて～	○加藤大也	糖尿病若手臨床スキルアップセミナー2017	2017.10.25
3	患者さんと共に歩む糖尿病治療～当院におけるチーム医療を交えて～	○加藤大也	第6回愛知糖尿病セミナー	2017.10.28

6) 腎臓内科

著書・論文

No.	題名	著者・発表者及び共同研究者	書名・雑誌名
1	難治性腹水と急性腎不全を伴うTAFRO症候群において腹水濾過濃縮再静注法(CART)とHDFの併用が有用であった1例	○倉沢史門、中前健二、伊藤岳司、青木孝文、大石恵梨、加藤由貴、中村嘉宏、伊藤亮太、堀貴洋、倉田久嗣	日本急性血液浄化学会雑誌 vol.8-1 p100-103, 2017

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	西三河北部地区の災害対策の現況	○倉田久嗣	西三河南部西地区透析施設災害対策検討会	2017.5.11
2	IgA腎症治療選択におけるCD147の有用性	○森佳子、吉岡智輝、長屋啓、堀麻衣子、勝野敬之、小杉智規、丸山彰一	第60回日本腎臓学会学術総会	2017.5.27
3	迅速な血液透析と適切な全身管理により救命しえたLi中毒の一例	○加藤由貴、倉沢史門、伊藤岳司、倉田久嗣	第62回日本透析医学会学術集会・総会	2017.6.16
4	PCSK9阻害薬エボロクマブ導入によるLDLアフェレーシスからの離脱についての検討	○倉沢史門、加藤由貴、伊藤岳司、倉田久嗣	第62回日本透析医学会学術集会・総会	2017.6.16
5	血液透析導入後4年4ヶ月で透析離脱しえた感染関連腎炎が疑われる一例	○加藤由貴、伊藤岳司、倉田久嗣、大脇明子、脇田寛之、稲葉慎一郎、倉田圭	第47回日本腎臓学会東部学術大会	2017.10.28
6	The clinical relevance of plasma CD147/Basigin in biopsy-proven Kidney diseases	○森佳子、Shoichi Maruyama	International Society of Nephrology Frontiers 2018	2018.2.23



7) 血液内科

著書・論文

No.	題名	著者・発表者及び共同研究者	書名・雑誌名
1	EBV-positive diffuse large B-cell lymphoma as a secondary malignancy arising in a myelodysplastic syndrome patient who was treated with azacitidine.	○ Suzuki N, Hiraga J, Kato H, Takagi Y, Ujihara N, Narita M, Kagami Y	Internal Medicine 56:1711-1713, 2017
2	血清 CEA が病勢を反映し ABVD が奏功した指状陥入型樹状細胞肉腫	○ 酒村玲央奈、平賀潤二、北川諭、伊藤雅文、梶口智弘、水野真一	臨床血液 2017, April. vol 58, NO.4
3	A low birth weight infant with no malformations delivered by a primary immune thrombocytopenia patient treated with eltrombopag.	○ Suzuki N, Hiraga J, Hariyama Y, Takagi Y, Ohashi H, Kishigami Y, Oguchi H, Kagami Y	Int J Hematol. 2017 Nov 29. doi: 10.1007/s12185-017-2383-1
4	Immune thrombocytopenia induced by vonoprazan fumarate: a single center retrospective study.	○ Suzuki N, Hiraga J, Takagi Y, Tsuzuki T, Uematsu N, Kagami Y	Ann Hematol. 2017 Dec 16. doi: 10.1007/s00277-017-3206-4
5	Establishment of cell lines from adult T-cell leukemia cells dependent on negatively charged polymers.	○ Kagami Y, Uchiyama S, Kato H, Okada Y, Seto M, Kinoshita T	J Clin Exp Hematop. 2017 Jul 5;57(1):9-14

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	胃原発びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫の穿孔による緊急幽門側胃切除後に腹壁浸潤を認めた 1 例	○ 豊田絢恵、鈴木奈瑠子、高木雄介、平賀潤二、鏡味良豊	第 232 回日本内科学会東海地方会	2017.6.11
2	前立腺癌骨髄腫腫症により血栓性微小血管症を呈したが治療により軽快した 1 例	○ 堀貴洋、倉沢史門、鈴木淳也、鈴木奈瑠子、加藤由貴、伊藤岳司、平賀潤二、倉田久嗣	第 232 回日本内科学会東海地方会	2017.6.11
3	サルコイドーシスに M 蛋白血症を合併した 1 例	○ 安田司、鈴木奈瑠子、高木雄介、鏡味良豊、倉沢史門、倉田久嗣	第 232 回日本内科学会東海地方会	2017.6.11
4	血液悪性疾患に対する P I C C の安全性と有用性	○ 平賀潤二、鈴木奈瑠子、高木雄介、鏡味良豊	第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会	2017.7.28
5	A case of idiopathic thrombocytopenic purpura in pregnancy managed with eltrombopag	○ Naruko Suzuki, Junji Hiraga1, Yusuke Takagi1, Haruhiko Ohashi2, Yasuyuki Kishigami3, Hidenori Oguchi3, Yoshitoyo Kagami	第 79 回日本血液学会学術集会	2017.10.20
6	Retrospective analysis of plasma cell neoplasms patients with second primary malignancies.	○ Junji Hiraga, Naruko Suzuki1, Yusuke Takagi1, Yoshitoyo Kagami	第 79 回日本血液学会学術集会	2017.10.21
7	SFTS が疑われたが病理解剖で末梢性 T 細胞性リンパ腫の診断に至った 1 例	○ 林雅、渡口賢隆、加藤誓子、西本泰浩、平賀潤二	第 233 回日本内科学会東海地方会	2017.10.29
8	Randomized Phase II Study of R-CHOP-14 Versus R-CHOP-14 Followed By Chaser As Induction Therapy for High-Dose Chemotherapy (HDT), LEED, and Autologous Stem-Cell Transplantation (ASCT) in Poor-Risk Diffuse Large B-Cell Lymphoma (DLBCL): Japan Clinical Oncology Group (JCOG) Study (JCOG0908)	○ Kagami Y	the 59th Annual Meeting and Exposition, The American Society of Hematology	2017.12.11

8) 総合内科

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	当院におけるカテーテル関連血流感染の検討	○渡口賢隆	第 65 回 日本化学療法学会学術集会	2017.4.6
2	成人窒息 C P A 蘇生後患者は内科が診るべきか？	○西本泰浩、安藤望、加藤誓子、渡口賢隆	第 114 回日本内科学会総会・講演会	2017.4.15
3	食道期嚥下障害、胃食道逆流症により肺炎を来した外科術後症例	○渡口賢隆、荻野周作	第 23 回摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会	2017.9.16
4	家族内感染を含む腸チフス感染同時発生 6 例の報告	○林雅、渡口賢隆、西本泰浩、川端厚	第 65 回日本化学療法学会西日本支部総会	2017.10.26
5	Systemic Capillary Leak Syndrome によるショックで入院し血管内大細胞型 B 細胞リンパ腫と診断した 1 例	○中野栞、加藤誓子、渡口賢隆、西本泰浩	日本内科学会第 233 回東海地方会	2017.10.29
6	SFTS が疑われたが病理解剖で末梢性 T 細胞性リンパ腫の診断に至った 1 例	○林雅、渡口賢隆、加藤誓子、西本泰浩、平賀潤二	日本内科学会第 233 回東海地方会	2017.10.29

会長・司会・座長

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	座長	渡口賢隆	第 234 回日本内科学会東海地方会	2018.2.11

9) 緩和ケア内科

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	ボルテゾミブによる末梢神経障害 (PN) および多発血管炎性 PN により生じたプレガバリン抵抗性疼痛に対してデュロキセチンの上乗せ投与が有効であった 2 例	○村松雅人、水野伸宏、平賀潤二、西村大作、植松夏子、田中沙耶、近藤有、横山尚美	第 22 回日本緩和医療学会学術大会	2017.6.23

講演会等講師

No.	講演会名及び演題名	演者	主催	年月日
1	第 8 回豊田地域緩和ケア交流会 「エンドオブライフ・ケアとアドバンスケア・プランニング」	村松雅人	豊田厚生病院 緩和ケア委員会	2017/2/28
2	第 8 回豊田地域緩和ケア交流会 「話し合う時に知っている」と便利なこと」	眞野香	豊田厚生病院 緩和ケア委員会	2017/2/28

会長・司会・座長

No.	会長・司会・座長区分	氏名	学会・研究会名	年月日
1	特別講演座長	村松雅人	第 20 回豊田がん疼痛研究会	2017/10/4
2	特別講演座長	村松雅人	第 21 回豊田がんフォーラム	2018/1/31



10) 精神科

著書・論文

No.	題名	著者・発表者及び共同研究者	書名・雑誌名
1	Risk of hospitalization associated with anticholinergic medication for patients with dementia	○渡邊周一、深津孝英、兼本浩祐	Psycho Geriatrics. Jan;18(1):57-63. doi 10.1111/psyg.12291

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	Quantitative analysis of sentence completion technique and its implications	○渡邊周一、加藤史哲、江里口智絵、眞野香、沖崇子、前川和憲	アジア・太平洋発達障害会議	2017.11.14
2	Association between social functioning and intellectual quotient of patients with autistic-like traits	○渡邊周一、加藤史哲、江里口智絵、眞野香、沖崇子、前川和憲	アジア・太平洋発達障害会議	2017.11.15

11) 小児科

著書・論文

No.	題名	著者・発表者及び共同研究者	書名・雑誌名
1	一タンデムマスでは発見されない有機酸代謝異常症— S S A D H欠損症の病態と診断について	○梶田光春	日本小児科医学会会報. 53(4):138-141,2017
2	Genomic Characterization of Chromosomal Insertions: Insights into the Mechanisms Underlying Chromothripsis	○梶田光春、Kato T、Ouchi Y、Inagaki H、Makita Y、Mizuno S、Ikeda T、Takeuchi K and Kurahashi H	Cytogenet Genome Res. 153:1-9, 2017

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	二相性に拡散強調画像の異常を認めた急性脳症の1例	○中田智彦、細川洋輔、梶田光春、田中雅大、岡井佑、坂口陽子、伊藤祐史、山本啓之、大野敦子、城所博之、夏目淳	第59回日本小児神経学会	2017.6.15
2	高サイトカイン血症による致死性ショックに至ったインフルエンザ脳症の1例	○辻元基、伊藤卓冬、西田大恭、中西久美子、生駒雅信、梶田光春	第270回日本小児科学会東海地方会	2017.6.25
3	発熱、下肢痛、嘔吐、腹痛意識障害を主訴に受診した6歳男児（恥骨坐骨軟骨結合骨髄炎）	○西田大恭、伊藤卓冬、辻元基、中西久美子、生駒雅信、梶田光春	第62回豊田加茂小児科医会例会	2017.7.22
4	一過性チアノーゼで救急搬送された11ヶ月女児（縦隔奇形腫）	○伊藤卓冬、金子健一郎、辻元基、西田大恭、中西大恭、中西久美子、生駒雅信、梶田光春	第62回豊田加茂小児科医会例会	2017.7.22
5	こどもの病気と薬剤～当科で経験した興味深い症例～	○梶田光春	平成29年8月薬剤師勉強会	2017.8.10
6	骨髄性プロトポルフィリン症の12才男児例	○梶田光春、伊藤卓冬、辻元基、西田大恭、中西久美子、生駒雅信	第53回中部日本小児科学会	2017.8.20
7	I g G結合型LDアノマリーの1例	○梶田光春、伊藤卓冬、辻元基、西田大恭、中西久美子、生駒雅信、小島勢二	第271回日本小児科学会東海地方会	2017.10.15

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
8	急性脳症で発症した後に著明なADHDを認めた1例(SSADH欠損症)	○中田智彦、夏目淳、梶田光春、大萱俊介、竹内智哉、三浦清邦	第5回尾張東部・豊田小児医療研究会	2017.11.24
9	急性脳症で発症した後に著明な多動を認めた1例(SSADH欠損症)	○梶田光春、中田智彦、三浦清邦	第12回三機関合同勉強会	2017.12.13
10	低Na血症、高K血症、代謝性アシドーシス、脱水を認めた生後4か月の女児(偽性低アルドステロン症)	○西田大恭、伊藤卓冬、辻元基、中西久美子、生駒雅信、梶田光春	第63回豊田加茂小児科医会例会	2018.2.17
11	著明な発育障害をきたしたアトピー性皮膚炎の乳児2例	○辻元基、中西久美子、伊藤卓冬、西田大恭、生駒雅信、梶田光春	第63回豊田加茂小児科医会例会	2018.2.17

講演会等講師

No.	講演会名及び演題名	演者	主催	年月日
1	平成29年度学校(園)医研修会:こども園のアレルギー疾患対策	中西久美子	豊田加茂医師会	2017.4.12
2	第12期アレルギー大学:医学-基礎	中西久美子	アレルギー支援ネットワーク	2017.6.4、 2017.9.16
3	アレルギー対応研修会:学校現場における食物アレルギーの知識と適切なアナフィラキシー対応について	中西久美子	豊田市教育委員会保健給食課	2017.7.28 2017.8.22
4	平成29年度保育研修会:園現場における食物アレルギーの知識と適切なアナフィラキシー対応について	中西久美子	豊田市子ども部保育課	2017.12.14

会長・司会・座長

No.	会長・司会・座長区分	氏名	学会・研究会名	年月日
1	司会	梶田光春	平成29年度第2回三機関合同障がい児医療・療育に関する勉強会	2017.12.13

12) 病理診断科

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	進行性の認知機能低下を呈し、紡錘形リンパ腫細胞を認めたlymphomatosis cerebriの1剖検例	○森悠、井村仁美、赤塚和寛、宇佐見恵子、富田稔、服部直樹、氏平伸子、成田道彦、吉田真理	第58回日本神経病理学会総会	2017.6.2
2	中枢神経において、紡錘形形態を示すリンパ腫細胞について	○氏平伸子、成田道彦、森悠、服部直樹、鏡味良豊、三室マヤ、岩崎靖、吉田真理	第58回日本神経病理学会総会	2017.6.2

13) 外科

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	膝窩動脈瘤の3例	○池田脩太	第45回日本血管外科学会	2017.4.21
2	NEDを目指した切除信仰再発大腸癌の治療戦略	○小林聡、久留宮康浩、水野敬輔、世古口英、河合清貴、桐山宗泰、富永健太、鳥居直矢、池田脩太	第117回日本外科学会定期学術集会	2017.4.27



No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
3	刑務所受刑者における外科治療の検討	○久留宮康浩、世古口英、小林聡 河合清貴、桐山宗泰	第117回日本外科学会定期学術集会	2017.4.28
4	幽門側胃切除Roux-Y再建術後に発症した拳上空腸盲端重積の1例	○桐山宗泰、久留宮康浩、水野敬輔、世古口英、河合清貴、桐山宗泰、富永健太、鳥居直矢、池田脩太	第72回日本消化器外科学会総会	2017.7.20
5	TAPP術後の有棘縫合糸によりイレウスを呈した1例	○富永健太	第9回Acute Care Surgery学会	2017.9.9
6	両側乳癌に対する乳房再建症例の検討	○久留宮康浩、小西尚巳、丹羽多恵、川端明子、今井弘恵、林玲子、世古口英、小林聡、河合清貴、桐山宗泰、富永健太、鳥居直矢、蟹江恭和、池田脩太	第5回乳房オンコプラスチックサージェリー学会	2017.9.22
7	大腸癌肝転移に対する肝切除の抗VEGF抗体と抗EGFR抗体の比較検討	○久留宮康浩、世古口英、小林聡、河合清貴、桐山宗泰、鳥居直矢、中島悠、森万希子、池田脩太、渡邊裕樹、佐久間政宜	JDDW 2017	2017.10.14
8	分子標的治療薬が原因と考えられる消化器穿孔を来した切除不能進行・再発大腸癌6例の臨床的検討	○河合清貴、久留宮康浩、世古口英、小林聡、桐山宗泰、富永健太、鳥居直矢、中島悠	第15回日本消化器外科学会大会	2017.10.14
9	未破裂胃大網動脈瘤に対して待機的に切除を行った一例	○池田脩太、水野敬輔、久留宮康弘、世古口英、小林聡、小西尚巳、河合清貴、桐山宗泰、富永健太、鳥居直矢、蟹江恭和、稲田亘佑、佐久間政宜	第58回脈管学会総会	2017.10.20
10	鏡視下修復術を施工したDeGarengot herniaの1例	○鳥居直矢	第30回日本内視鏡外科学会総会	2017.12.7
11	胃癌術後内ヘルニアに対して腹腔鏡下アプローチで治療した1例	○蟹江恭和、久留宮康浩、水野敬輔、世古口英、菅原元、河合清貴、桐山宗泰、鳥居直矢、池田脩太、佐久間政宜、稲田亘佑	第54回日本腹部救急医学会総会	2018.3.8

14) 呼吸器外科

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	ネット形成とGORE-TEX(e-PTFE)による胸壁再建の工夫	○平松義規、石田順造	第117回日本外科学会定期学術集会	2017.4.29
2	医学部生は我々外科医をどう見ているのか?～外科医不足打開のための学生意識調査～	○岡阪敏樹	第117回日本外科学会定期学術集会	2017.4.29
3	O-armナビゲーションシステムを用いて椎体合併切除を施行したcT4肺癌の手術経験	○岡阪敏樹	第34回日本呼吸器外科学会総会	2017.5.18
4	医学生、研修医の「外科離れ」は止められるか～医学生と現役外科医へのアンケート調査結果からの考察と提言～	○岡阪敏樹、横井香平	第70回日本胸部外科学会定期学術集会	2017.9.28
5	絞扼性イレウスを伴った右側横隔膜腱膜ヘルニアの1例	○渡邊裕樹、久留宮康弘、水野敬輔、世古口英、小林聡、小西尚巳、河合清貴、桐山宗泰、富永健太、鳥居直也、蟹江恭和、池田脩太、佐久間政宜、稲田亘佑	第79回臨床外科学会総会	2017.11.24

15) 脳神経外科

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	くも膜下出血縮期におけるMRA血管縮期スコアリングシステムの構築	○圓若幹夫	国際脳神経外科学術集会 2017	2017.10.7
2	対側頸動脈閉塞および狭窄症例に対する carotid endarterectomy	○河村彰乃	第 43 回日本脳卒中学会学術集会	2018.3.16
3	当院における頸動脈狭窄に対するCEAの治療成績および術後DWI high 陽性 pattern の解析	○圓若幹夫、河村彰乃、住友正樹、立花栄二	STROKE 2018	2018.3.17

16) 心臓血管外科

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	国境なき医師団より派遣された外科医たちの経験から考える、災害医療における外科医の役割	○寺田貴史、溝端康光	第 117 回日本外科学会定期学術集会	2017.4.29
2	心臓外科手術における外皮用殺菌消毒剤オラネキシングコン酸液の使用経験	○小西康信、荒木善盛、川口鎮	第 60 回関西胸部外科学会学術集会	2017.6.23
3	HOCM合併MRに対する僧帽弁手術の strategy	○荒木善盛、川口鎮、小西康信、寺田貴史、寺本慎男	第 70 回日本胸部外科学会	2017.9.29
4	貢献できるかというチャレンジ～国境なき医師団からの派遣を終えて～	○寺田貴史、溝端康光	第 45 回日本救急医学会総会・学術集会	2017.10.26
5	左心室瘤に対する心内膜側パッチとオーバーラップを併用した左室容量縮小術の遠隔予後	○小西康信、寺田貴史、荒木善盛、川口鎮	第 48 回心臓血管外科学会学術総会	2018.2.19

17) 救急科

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	ANCA関連血管炎に合併したきも膜下出血の 1 例	○都築通孝、伊藤亮太、立花栄二、伊藤岳司、鈴木伯征、戸田州俊、圓若幹夫、河村彰乃、倉田久嗣	日本集中医療医学会第 1 回東海北陸支部学術集会	2017.6.24
2	Clinical Scenario 1 の心不全急性増悪合併したANCA血管炎の 1 例	○都築通孝、佐藤美佳、沖島正幸、戸田州俊、谷川吉政、青山昌広、高嶋浩司、牛嶋太、中前健二	日本集中医療医学会第 1 回東海北陸支部学術集会	2017.6.24
3	ICUにおける日代謝性心不全例に対する intrarenal doppler ultrasonography の試み	○都築通孝、大橋大器、伊藤岳司、森佳子、佐藤直和、倉田久嗣	日本超音波医学会第 38 回中部地方会	2017.9.10
4	巨大縦隔血腫を来たした縦隔型気管支動脈瘤破裂の 1 例	○畑田剛、西本泰浩、都築通孝、小林修一	第 45 回日本救急医学会総会・学術集会	2017.10.26
5	伝送基準でアンダートリアージとなった急性心筋梗塞の 1 例	○小林修一、畑田剛、西本泰浩、都築通孝	第 5 回 12 誘導心電図伝送を考える会	2018.1.13
6	Flail chest に対して胸腔内出血止血後保存的療法を行った多発外傷の 1 例	○都築通孝、沖島正幸、戸田州俊、太田祐介、畑田剛、中前健二	第 45 回日本集中治療医学会学術集会	2018.2.22



18) 泌尿器科

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	Cyp2a5/CYP2A6の過剰発見は筋層浸潤膀胱がんの発生早期に関与している	○金本一洋、海野奈央子、山田健司、橋本良博、岩瀬豊、河合憲康、戸澤啓一、落合雅子、岡本康司、加藤勝、金井弥栄、中釜斉、安井孝周	第105回日本泌尿器科学会総会	2017.4.23
2	当院でのECIRS手術症例の検討	○山田健司、海野奈央子、濱本周造、金本一洋、橋本良博、岩瀬豊、安井孝周	第105回日本泌尿器科学会総会	2017.4.23
3	当院における進行性腎癌に対するAxitinib投与症例の臨床的検討	○橋本良博	第65回日本化学療法学会西日本支部総会	2017.10.28
4	DICを伴う重症尿路感染症におけるトロンボモジュリンの効果と安全性について（後ろ向き試験）	○橋本良博、山田健司、金本一洋、岩瀬豊	第18回国際感染症学会	2018.3.2

19) 眼科

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	Optical Coherence Tomography Angiographic Features of Idiopathic Macular Telangiectasia in Japanese patients	○野崎祐加	17th EURETINAS Congress	2017.9.10
2	網膜静脈閉塞症患者における網膜無灌注領域の網膜感度と黄斑浮腫の関係	○富安胤太、平野佳男、小椋祐一朗	第71回日本臨床眼科学会	2017.10.14

20) 麻酔科

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	在宅医療での脊髄鎮痛法の経験	○高橋徹朗、小島康裕、伊藤雅人、床本光弘、太田祐介、上原博和	日本麻酔科学会東海北陸支部第5回学術集会	2017.9.9
2	肺胞低喚気症候群（オンディーヌの呪い）の麻酔経験	○伊藤雅人、上原博和、小島康裕、太田祐介、長橋究、高橋徹朗、床本光弘	日本麻酔科学会東海北陸支部第5回学術集会	2017.9.9
3	Carney's triadの麻酔経験	○床本光弘、太田祐介	日本麻酔科学会東海北陸支部第15回学術集会	2017.9.9

21) 歯科口腔外科

著書・論文

No.	題名	著者・発表者及び共同研究者	書名・雑誌名
1	エタンブトール、リファンピシンにより口腔内にも発症した扁平苔癬型葉疹の1例	○宇佐見一公、兼子隆次、西川雅也、河合孝真、望月大督、水野肇、鶴迫真一、鈴木英治、日比英晴	Hospital Dentistry & Oral-Maxillofacial Surgery, Vol.29 No.1, 2017

No.	題名	著者・発表者及び共同研究者	書名・雑誌名
2	術後性上顎嚢胞を契機として発見した嚢胞腺腫の1例	○宇佐見一公、兼子隆次、河合孝真、望月大督、浅井英明、水野肇、鶴迫真一、鈴木英治	Hospital Dentistry & Oral-Maxillofacial Surgery, Vol.30 No.1, 2018

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	A Study on the cases of soft tissue sarcoma in oral maxillofacial region	○ Kaneko Ryuji, Okabe Kazuto, Kawai Takamasa	23rd International Congress on Oral and Maxillofacial Surgery (Hong Kong)	2017.4.1
2	口腔癌術後に生じた顎欠損を骨延長術にて再建した長期観察例の検討	○兼子隆次、宇佐見一公、望月大督、河合孝真	第66回日本農村医学会総会	2017.10.5
3	POEMS 症候群に関連すると思われる上顎腫瘍の1例	○兼子隆次、宇佐見一公、望月大督、河合孝真	第62回日本口腔外科学会総会	2017.10.20
4	エタンプトール、リファジピンにより口腔内にも発症した扁平苔癬型薬疹の1例	○宇佐見一公、兼子隆次、望月大督、河合孝真	第62回日本口腔外科学会総会	2017.10.21
5	認知症を有する悪性腫瘍患者症例の検討	○河合孝真、兼子隆次、望月大督、宇佐見一公	第62回日本口腔外科学会総会	2017.10.22

23) 整形外科

著書・論文

No.	題名	著者・発表者及び共同研究者	書名・雑誌名
1	VEPTR(Vertical Expandable Prosthetic Titanium Rib) 手術	○辻太一	脊椎脊髄ジャーナル VOL. 30 No.8
2	Sauve-Kapandji 法後の ulnar stump の前腕回旋時における動態と症状について	○佐伯岳紀、稲垣弘進、増田高将	日本手外科学会雑誌 34 巻 5 号 Page798-801
3	両手環小指伸筋腱皮下断裂を生じた両 Madelung 変形の1例	○増田高将、稲垣弘進、村田盛郎、金山康秀、二村尚久、佐伯岳紀	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 60 巻 3 号 Page609-610
4	Kienboeck 病に合併した手根管症候群の4例	○増田高将、稲垣弘進、佐伯岳紀	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 61 巻 2 号 Page349-350
5	特集：ポイント解説 整形外科診断の基本知識 I 脊椎脊髄疾患 脊柱変形の診断	○辻太一	マンスリーブック オルソペディックス VOL30No8
6	High rate of improvement in serum matrix metalloproteinase-3 levels at 4 weeks predicts remission at 52 weeks in RA patients treated with adalimumab	Yosuke Hattori, Toshihisa Kojima, Atsushi Kaneko, Daihei Kida, Yuji Hirano, Takayoshi Fujibayashi, Yuichiro Yabe, Takeshi Oguchi, Yasuhide Kanayama, Hiroyuki Miyake, Takefumi Kato, Hideki Takagi, Masatoshi Hayashi, Takayasu Ito, Tomone Shioura, Nobunori Takahashi, Hisato Ishikawa, Koji Funahashi, and Naoki Ishiguro	Mod Rheumatol. 2018 Jan;28(1):119-125



No.	題名	著者・発表者及び共同研究者	書名・雑誌名
7	Predictors of biologic discontinuation due to insufficient response in patients with rheumatoid arthritis who achieved clinical remission with biologic treatment: A multicenter observational cohort study	Shuji Asai, Takayoshi Fujibayashi, Takeshi Oguchi, Masahiro Hanabayashi, Masatoshi Hayashi, Hiroyuki Matsubara, Takayasu Ito, Yuichiro Yabe, Tsuyoshi Watanabe, Yuji Hirano, Yasuhide Kanayama, Atsushi Kaneko, Takefumi Kato, Hideki Takagi, Nobunori Takahashi, Koji Funahashi, Toki Takemoto, Nobuyuki Asai, Tatsuo Watanabe, Naoki Ishiguro and Toshihisa Kojima	Mod Rheumatol. 2017 Jul 13:1-6.
8	Disuse Atrophy Accompanied by Intramuscular Ectopic Adipogenesis in Vastus Medialis Muscle of Advanced Osteoarthritis Patients	Madoka kemoto-Uezumi, Yasumoto Matsui, Masaki Hasegawa, Remi Fujita, Yasuhide Kanayama, Akiyoshi Uezumi, Tsuyoshi Watanabe, Atsushi Harada, A. Robin Poole and Naohiro Hashimoto	Am J Pathol. 2017 Dec;187(12):2674-2685
9	両側大腿骨近位部骨折における検討	○長田直祥、金山康秀、稲垣弘進、二村尚久、佐伯岳紀、村田盛郎	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 61(1), 155-156, 2018

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	当科におけるアバタセプト投与症例における関節エコー評価について	○金山康秀、長坂日登美	第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会	2017.4.20
2	Tocilizumab の RA 頸椎病変進行抑制効果について～多施設研究登録症例 (TBCR) における TCZ、MTX 投与例との比較検討～	○金山康秀、小嶋俊久、平野裕司、高橋伸典、矢部裕一郎、石黒直樹	第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会	2017.4.20
3	RA 骨粗鬆症に対するデノスマブの治療効果におけるステロイドの影響について～多施設登録研究 (TBCR-BONE) より 24 ヶ月投与例の検討～	○金山康秀、平野裕司、高橋伸典、浅井秀司、石黒直樹、小嶋俊久	第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会	2017.4.22
4	臨床的寛解達成 RA における関節エコー所見の検討	○長坂日登美、金山康秀	第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会	2017.4.22
5	MTX 投与中に骨びらんの進行を認め、イグラチモドを追加併用し骨びらんの修復が得られ、その後維持されている一例	○長田直祥、金山康秀、長坂日登美	第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会	2017.4.22
6	セルトリズマブペゴルは投与開始後 8 週の疾患活動性で治療目標達成の可否が予測できる～ TBCR より 52 週経過例における検討～	○金山康秀、金子敦史、高橋伸典、加藤武史、平野裕司、服部陽介、浅井信之、藤林孝義、塩浦朋根、林真利、矢部裕一郎、石黒直樹、小嶋俊久	第 61 回日本リウマチ学会総会・学術集会	2017.4.22
7	シンポジウム 2. 私の行っている Dupuytren 拘縮の Best Practice: Dupuytren 拘縮の手術治療成績	○稲垣弘進、佐伯岳紀、増田高将	第 60 回日本手外科学会学術集会	2017.4.28
8	Sauve-Kapandji 法後の ulnar stump の前腕回旋時における動態と症状について	○佐伯岳紀、稲垣弘進、増田高将	第 60 回日本手外科学会学術集会	2017.4.28
9	当科における骨粗鬆症に対するデノスマブの治療成績～ RA 骨粗鬆症と原発性骨粗鬆症症例の比較検討～	○金山康秀、村田盛郎、稲垣弘進、二村尚久、佐伯岳紀、増田高将、長田直祥、足立維、館寛人	第 90 回日本整形外科学会学術総会	2017.5.19

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
10	生物学的製剤の RA 頸椎病変進行抑制効果について～ TBCR における MTX+IFX、TCZ と MTX 投与例の比較検討～	○金山康秀、小嶋俊久、平野裕司、矢部裕一郎、高橋伸典、石黒直樹	第 90 回日本整形外科学会学術総会	2017.5.21
11	THE IMPROVEMENT OF ULTRASONOGRAPHIC FINDINGS FOR 24 WEEKS MAY PREDICT REMISSION AT 52 WEEKS IN JAPANESE RHEUMATOID ARTHRITIS PATIENTS TREATED WITH IGURATIMOD THERAPY	○ Yasuhide Kanayama、Hitomi Nagasaka、Miyuki Shimotake、Fumiko Miyachi、Keisuke Fujita、Atsushi Nagata	第 18 回欧州リウマチ学会 (EULAR)	2017.6.15
12	EFFICACY OF TOCILIZUMAB FOR SUPPRESSING RADIOGRAPHIC PROGRESSION OF CERVICAL LESIONS IN PATIENTS WITH RHEUMATOID ARTHRITIS COMPARISON WITH METHOTREXATE TREATMENT ; TWO YEARS OF FOLLOW-UP ~A MULTICENTER REGISTRY STUDY ~	○ Yasuhide Kanayama、Toshihisa Kojima、Yuji Hirano、Yuichiro Yabe、Nobunori Takahashi、Yukiyoshi Oishi、Naoki Ishiguro and TBCR study group	第 18 回欧州リウマチ学会 (EULAR)	2017.6.16
13	INFLUENCE OF ORAL PREDNISOLONE ON EFFECT OF DENOSUMAB ON OSTEOPOROSIS IN PATIENTS WITH JAPANESE RHEUMATOID ARTHRITIS; 24 MONTHS OF FOLLOW-UP ~A MULTICENTER REGISTRY STUDY~	○ Yasuhide Kanayama、Yuji Hirano、Nobunori Takahashi、Shuji Asai、Naoki Ishiguro、Toshihisa Kojima and TBCR-BONE study group	第 18 回欧州リウマチ学会 (EULAR)	2017.6.16
14	USE OF A 8-WEEK OBSERVATIONAL PERIOD FOR PREDICTING REMISSION AND LOW DISEASE ACTIVITY AT 52 WEEKS IN RA PATIENTS TREATED WITH CERTOLIZUMAB PEGOL ~A MULTICENTER STUDY~	○ Yasuhide Kanayama、Atsushi Kaneko、Nobunori Takahashi、Takefumi Kato、Masatoshi Hayashi、Yousuke Hattori、Nobuyuki Asai、Naoki Ishiguro、Toshihisa Kojima and TBCR study group	第 18 回欧州リウマチ学会 (EULAR)	2017.6.17
15	大腿骨頭骨折に対して骨接合術を施行した 3 例	○足立維、金山康秀、稲垣弘進、辻太一、二村尚久、佐伯岳紀、増田高将、長田直祥、館寛人、村田盛郎	第 43 回日本骨折治療学会	2017.7.8
16	成人脊柱変形術後のロッド折損 (RF) - 折損後の対応 -	○辻太一、小原徹哉、斎藤敏樹、田内亮史、森下和明、川上紀明、豊田厚生病院整形外科、名城病院整形外科	第 51 回日本側彎症学会	2017.8.25
17	Influence of glucocorticoids on effect of denosumab on osteoporosis in patients with Japanese rheumatoid arthritis; 12 months of follow-up ~a Multicenter Registry Study~	○ Yasuhide Kanayama、Yuji Hirano、Nobunori Takahashi、Shuji Asai、Naoki Ishiguro、Toshihisa Kojima and TBCR-BONE study group	第 39 回米国骨代謝学会 (ASBMR)	2017.9.11
18	Dupuyren 拘縮のに対する Collagenase 注射療法	○稲垣弘進、佐伯岳紀、増田高将	第 129 回中部整形外科学会	2017.10.6
19	両側大腿骨近位部骨折における検討	○長田直祥、金山康秀、稲垣弘進、二村尚久、佐伯岳紀、村田盛郎	第 129 回中部日本整形外科学会災害外科学会・学術集会	2017.10.6
20	kienbock 病に合併した手根症候群の 4 例	○増田高将、稲垣弘進、村田盛郎、金山康秀、二村尚久、佐伯岳紀	第 129 回中部整形外科学会災害外科学会	2017.10.7



No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
21	成人脊柱変形術後のロッド折損 (RF) - 折損症例の特徴 -	○辻太一	第26回日本脊柱インストゥルメンテーション学会	2017.10.14
22	関節リウマチの骨粗鬆症に対するデノスマブの治療成績～多施設登録研究 (TBCR-BONE) よりステロイド併用例と非併用例における24ヶ月投与例の比較検討～	○金山康秀、平野裕司、高橋伸典、浅井秀司、石黒直樹、小嶋俊久	第19回日本骨粗鬆症学会	2017.10.21
23	当科におけるアバタセプト投与症例の関節エコー所見の検討～24週経過例の検討～	○金山康秀、長坂日登美、下竹美由紀、宮地文子、藤田啓介、永田篤志	第32回日本臨床リウマチ学会	2017.12.3
24	関節リウマチ患者の頸椎病変における関節破壊進行に対するトシリズマブの抑制効果について検討した2年間の追跡調査	○金山康秀	第8回アクテムラカンファレンス	2017.12.9
25	Delbet-Colonna 分類2型小児大腿骨頸部骨折の治療経験	○館寛人、金山康秀、村田盛郎、稲垣弘進、二村尚久、佐伯岳紀、増田高将、長田直祥、足立維	名古屋大学合同カンファレンス	2017.12.21
26	脊椎関節炎疾患の診療状況について	○金山康秀	三河脊椎関節炎フォーラム2018	2018.1.20
27	軽微な外傷で繰り返す骨折より骨形成不全症が疑われた症例	○足立維、金山康秀、稲垣弘進、辻太一、二村尚久、佐伯岳紀、増田高将、長田直祥、館寛人、村田盛郎	名古屋大学合同カンファレンス	2018.1.25
28	関節リウマチにおける頸椎病変について	○金山康秀	第22回西三河リウマチ研究会	2018.2.10

講演会等講師

No.	講演会名及び演題名	演者	主催	年月日
1	関節リウマチ診療におけるアバタセプトの位置付けについて～関節エコー評価を中心に～	○金山康秀	第2回三地区関節リウマチを考える会	2017.4.27
2	関節リウマチの病態と治療	○金山康秀	第一三共	2017.6.22
3	関節リウマチ診療におけるアバタセプトの位置付けについて～自験例における関節エコー評価を含めて～	○金山康秀	第18回丹波整形外科医会学術講演会	2017.6.29
4	関節リウマチ診療における関節エコーの有用性について	○金山康秀	ヤンセンファーマ	2017.7.12
5	セルトリズマブペゴルの至適効果判定時期は果たしていつ頃か？～TBCR症例における検討より～	○金山康秀	関節リウマチ治療シンポジウム～早期治療の重要性とシムジアの役割～	2017.8.24
6	関節リウマチ診療における関節エコーの役割について	○金山康秀	三遠リウマチカンファレンス～ふだん聞けない関節リウマチの話～	2017.9.2
7	関節リウマチ診療におけるセルトリズマブペゴルの位置づけと至適患者像とは？～TBCR症例の解析を中心に～	○金山康秀	関節リウマチWEBシンポジウム	2017.9.15
8	当科におけるイグラチモド投与症例の関節エコー評価について	○金山康秀	関節リウマチフォーラム in 豊橋	2017.9.30
9	側弯症治療の基本と実際	○辻太一	三整会	2017.10.17

No.	講演会名及び演題名	演者	主催	年月日
10	骨粗鬆症紹介外来の現状と病診連携	○金山康秀	豊田加茂骨粗鬆症学術講演会	2017.10.25
11	関節リウマチ診療におけるアバタセプトの至適症例像とは？～自験例における関節エコー評価を含めて～	○金山康秀	リウマチエリア WEB セミナー	2017.10.26
12	RA 診療における関節エコー検査の意義と使いどころについて	○金山康秀	Biologics Forum on RA ～ GO-NEXT STAGE ～	2017.10.28
13	TBCR 症例における生物学的製剤の治療成績と RA 頸椎病変進行抑制について	○金山康秀	12th Sapporo Orthopedics Lecture	2017.11.11
14	関節リウマチ診療におけるアバタセプトの至適症例像とは？～自験例における関節エコー評価を含めて～	○金山康秀	ORENCIA 講演会 in 岐阜～アバタセプトの可能性を探る～	2017.11.16
15	関節エコーの有用性と当院での使用状況について	○金山康秀	豊田厚生 関節エコー研修会	2017.11.19
16	関節リウマチの病態と治療～関節エコーの有用性を中心に～	○金山康秀	日本化薬株式会社	2017.11.30
17	関節リウマチの病態と治療について～関節エコーの有用性を含めて～	○金山康秀	旭化成ファーマ	2018.1.24
18	関節リウマチ診療における関節エコーの臨床的意義と活用術について	○金山康秀	遠江 Medical Staff Seminar	2018.2.9
19	新しい RA 治療薬オルミエントについて	○金山康秀	三河・豊明 RA Meeting	2018.2.17
20	乾癬性関節炎の診断と治療	○金山康秀	ノバルティスファーマ	2018.3.15
21	関節エコーの有用性と当院での使用状況について	○金山康秀	豊田関節エコー研修会	2018.3.18
22	TBCR から見るセルトリズマブペゴルの有効性とローディング後のフレアについての解釈	○金山康秀	RA Clinical Seminar in Fukuoka	2018.3.28
23	TBCR 症例からみたセルトリズマブペゴルの特性とポジショニングについて	○金山康秀	第 6 回宮崎リウマチ勉強会	2018.3.30

会長・司会・座長

No.	会長・司会・座長区分	氏名	学会・研究会名	年月日
1	座長 (シンポジウム 手関節鏡の現状と未来 - 新進気鋭の手外科医からの提案)	稲垣弘進	第 60 回日本手外科学会学術集会	2017.4.27
2	座長	金山康秀	第 8 回三河トシリズマブ研究会	2017.5.27
3	座長	金山康秀	第 5 回三河 Orthopaedic Surgery 研究会	2017.7.1
4	座長	金山康秀	リウマチ学の門を叩く会 ～リウマチは良くなる病気です～	2017.7.15
5	座長	金山康秀	Biologics Users Forum ～チーム医療を考える会～	2017.7.29
6	座長	金山康秀	豊田加茂整形外科医会学術講演会	2017.9.28
7	座長	金山康秀	第 8 回三河骨粗鬆症研究会	2017.10.7
8	座長	金山康秀	第 5 回 MAESTRO SEMINAR	2017.10.11
9	座長	金山康秀	第 5 回愛知 DMARDs 研究会	2017.10.14



No.	会長・司会・座長区分	氏名	学会・研究会名	年月日
10	司会	金山康秀	三整会	2017.10.17
11	座長	金山康秀	豊田加茂骨粗鬆症学術講演会	2017.10.25
12	座長	金山康秀	RA 領域適応追加講演会～デノスマブを再考する～	2017.11.2
13	司会	金山康秀	豊田厚生 関節エコー研修会	2017.11.19
14	座長	金山康秀	第 4 回三河関節エコー研究会	2017.11.25
15	座長	金山康秀	西三河リウマチフォーラム	2018.2.1
16	座長	金山康秀	第 22 回西三河リウマチ研究会	2018.2.10
17	司会	金山康秀	豊田関節エコー研修会	2018.3.18

24) 形成外科

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	当院での一次乳房再建における外科との連携についての検討	○林玲子、林玲子、今井弘恵、川端明子、久留宮康浩、栗原里美	第 5 回乳房オンコプラステックサージェリー学会	2017.9.22
2	トリマーの指間に生じた毛巣洞の 1 例	○今井久恵、川端明子、林玲子	第 66 回日本農村医学会学術総会	2017.10.5

25) 皮膚科

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	診断困難であった原発性皮膚未分化大細胞リンパ腫 (PC-ALCL) の 1 例	○吉川真人、足立秀禎、鈴木伸吾、高木雄介	第 281 回日本皮膚科学会東海地方会	2017.9.13
2	皮下結節性脂肪壊死症から発見に至った膵臓房細胞癌の 1 例	○吉川真人、足立秀禎、鈴木伸吾、鳥居直矢、中島昭奈	第 282 回日本皮膚科学会東海地方会	2017.12.3
3	BCG 膀胱内注入後に左大腿部皮下腫瘍を呈した弱毒化ウシ型結核菌 (M.bovisBCG) 感染症	○吉川真人、足立秀禎、鈴木伸吾、二村圭祐、増田高将、橋本良博	第 283 回日本皮膚科学会東海地方会	2018.3.18

26) 産婦人科

著書・論文

No.	題名	著者・発表者及び共同研究者	書名・雑誌名
1	子宮鏡下手術で Atypical polypoid adenomyoma (APAM) に合併した子宮体癌を診断し得た一例	○新城加奈子、溝口真以、村上真由子、氏平伸子、成田道彦、針山由美	東海産婦人科内視鏡手術研究会雑誌、Vol.5 (2017.10)
2	既往帝王切開症例に対する腹腔鏡下子宮全摘出術の検討	○村上真由子、南洋佑、溝口真以、山本靖子、新城加奈子、針山由美	東海産婦人科学会雑誌、Vol.54 (2018.3)

学会・研究会発表

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	当院における腹腔鏡下子宮体癌手術の検討	○新城加奈子、南、洋佑、溝口真以、山本靖子、村上真由子、針山由美	第 57 回日本産婦人科内視鏡学会学術講演会	2017.9.7

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
2	腹腔鏡手術の術後疼痛に対する薬物療法の検討～アセトアミノフェン静注液とNSAIDs静注液の比較～	○山本靖子、南洋佑、溝口真以、村上真由子、新城加奈子、針山由美	第57回日本産婦人科内視鏡学会学術講演会	2017.9.7
3	単回使用開創器を用いたTLHにおける子宮回収の工夫	○村上真由子、南洋祐、溝口真以、山本靖子、新城加奈子、針山由美	第18回東海産婦人科内視鏡手術研究会学術講演会	2017.10.14
4	当院におけるLSCの短期成績およびその導入による骨盤臓器脱手術方法選択の変化について	○針山由美、南洋佑、溝口真以、山本靖子、村上真由子、新城加奈子	第12回日本骨盤器脱手術学会学術集会	2018.2.18
5	腹腔鏡手術における術後鎮痛剤の選択について	○山本靖子、南洋祐、溝口真以、村上真由子、新城加奈子、針山由美	第138回東海産科婦人科学会	2018.3.10
6	当院における若年性粘性性腫瘍症例についての検討	○南洋祐、溝口真衣、山本靖子、村上真由子、新城加奈子、針山由美	第138回東海産科婦人科学会	2018.3.11
7	中期中絶後に胎盤遺残を認め子宮動脈奇形と診断された一例	○神谷知都世、南洋祐、溝口真以、山本靖子、村上真由子、新城加奈子、針山由美	第138回東海産科婦人科学会	2018.3.11
8	腹腔鏡下仙骨隆固定術(LSC)の短期成績およびその導入による骨盤臓器脱手術方法選択の変化について	○針山由美、南洋佑、溝口真以、村上真由子、新城加奈子	第138回東海産科婦人科学会	2018.3.11
9	当院における開腹移行した腹腔鏡手術についての検討	○溝口真以、新城加奈子、南洋佑、山本靖子、村上真由子、針山由美	第138回東海産科婦人科学会	2018.3.11

27) 放射線技術科

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	心臓カテーテル室に装備されている放射線防護用具の最適な使用法の検討	○浅野功一、村山和宏、小林晋也、鷹羽正悟、柴田貴行	第37回東海北陸地方会 日本心血管インターベンション治療学会	2017.5.13
2	持続性心房細動のアブレーション術前の心臓CT遅延相を撮影をすることの有用性	○鷹羽正悟、竹内まりな、小寺直人、柴田英輝、深田真司、小澤功	第33回日本診療放射線技師学術大会	2017.9.22
3	当院における医療被ばく低減施設認定の取得と院内への取り組みについて	○鈴木宣子、林沙弥香、柴田英輝、小澤功	第66回日本農村医学会学術総会	2017.10.6
4	冠動脈CT-Angiography検査における被ばく線量評価について～臓器線量と実務線量の比較～	○柴田英輝、近藤祐哉、深田真司、浅田恭生、小澤功	第45回日本放射線技術学会秋季学術大会	2017.10.20
5	心房細胞ABLに対して、Cryo、RF使用時の患者被ばく線量の報告	○村山和宏	CCT2017	2017.10.26～10.28
6	日立CT故障報告とメーカー対応について、LCCデータを活用したMRI更新について	○小澤功	全国文化連 第4回医療機器問題会議定例会	2017.11.10
7	血管撮影室における遮蔽板配置の違いによる術者位置での空間線量率bの把握と検討	○浅野功一、村山和宏、小林晋也、鷹羽正悟、柴田貴行	平成29年度西三技師会第2回研修会	2017.11.30



No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
8	当院の心房細胞アブレーション術前の心臓 CT	○鷹羽正悟	日立シナリアユーザーミーティング	2018.2.24
9	Study of Low-dose CT imaging for the LungCancer CT] Screenig	○柴田英輝	日立シナリアユーザーミーティング	2018.2.24
10	冠動脈 C T -Angiography 検査における被ばく線量評価について～臓器線量と実務線量の比較～	○柴田英輝、近藤祐哉、深田真司、浅田恭生、小澤功	欧州放射線医学会	2018.2.27
11	当院の心房細動カテーテルアブレーション術前の心臓 C T ～撮影マニュアルの改訂～	○竹内まりな、鷹羽正悟、小寺直人、柴田英輝、深田真司、小澤功	第 82 回日本循環器学会学術集会	2018.3.25

28) 臨床検査技術科

著書・論文

No.	題名	著者・発表者及び共同研究者	書名・雑誌名
1	臨床検査技師における鼻腔・咽頭からの検体採取への取り組み	○中根生弥、高嶋幹代、青山敦子	医学検査 VOL. 66 NO. 4 2017 P 364-368
2	序文；特集「徹底解明 免疫検査の現状と日常業務における利用価値」	○中根生弥	生物試料分析 第 4 0 巻第 3 号 2017
3	臓器別データの解釈 5.3 心・血管疾患	○中根生弥	J A M T 技術教本シリーズ 臨床化学検査技術教本 丸善出版 P 245-251
4	緊急臨床検査士資格認定試験（平成 28 年）を受験・合格して	○加藤雄大	日本臨床検査同学院 通信 第 42 巻 2017 年 3 月
5	OVERSEAS REPORT 第 5 回アジア医学検査学会（AAMLS）に参加して	○永田悠起	医試薬出版 Medical Technology VOL 46 No 2 P 178-179
6	平成 29 年度愛知県臨床検査精度管理調査 血液検査部門	○酒巻尚子	平成 28 年度愛知県臨床検査精度管理調査総括集

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	臨床的寛解達成 R A における関節エコー所見の検討	○長坂日登美、金山康秀	第 6 1 回日本リウマチ学会総会・学術集会	2017.5.8
2	2 型糖尿病における自律神経反射リアルモニタ解析装置の検討	○川上恵美、加藤大也、長坂日登美、中根生弥、澤井善邦	第 60 回日本糖尿病学会学術集会	2017.5.19
3	臨床的寛解達成リウマチ患者における関節エコー所見の検討	○長坂日登美、永田篤志、下竹美由紀、宮地文子、藤田敬介	第 42 回日本超音波検査学会学術集会	2017.6.18
4	Comparison of drug susceptibilty for Pseudomonas aeruginosa using TAZ/ PIPC or carbapenem antibiotcs	○永田悠起、加藤雄大、内藤淳、中根生弥	第 5 回 A A M L S アジア医学検査学会	2017.9.22
5	超音波により診断できた大動脈弁四尖弁の一例	○鈴木梓未、藤田啓介、宇野志保、下竹美由紀、永田篤志、中根生弥	平成 29 年度日臨技中部圏支部医学会検査学会	2017.9.30
6	急激な経過をたどった高サイトカイン型インフルエンザ脳症の一例	○林健太、高本智史、下竹美由紀、永田篤志、倉光敏行、長坂日登美、中根生弥	平成 29 年度日臨技中部圏支部医学会検査学会	2017.9.30

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
7	心臓が原発と考えられたびまん性大細胞型B細胞リンパ腫（DLBCL）の一例	○藤田啓介、宮地文子、宇野志保、下竹美由紀、永田篤志、長坂日登美、中根生弥	平成 29 年度日臨技中部圏支部医学会検査学会	2017.9.30
8	当院における 8 年間のMRSA の検出状況と抗MRSA薬のMIC値の推移	○加藤雄大、杉山裕衣、永田悠起、塩谷厚代、内藤淳、長坂日登美、中根生弥	平成 29 年度日臨技中部圏支部医学会検査学会	2017.9.30
9	緊急臨床検査士認定資格取得に向けての当院の取り組み	○加藤雄大、鈴木梓未、藤上卓馬、高井美帆、有木美紅、長坂日登美、中根生弥	平成 29 年度日臨技中部圏支部医学会検査学会	2017.9.30
10	当院におけるカテーテル培養検査の報告体制と検査状況	○永田悠起、加藤雄大、杉山裕衣、塩谷厚代、内藤淳、長坂日登美、中根生弥	平成 29 年度日臨技中部圏支部医学会検査学会	2017.9.30
11	XN-9000 を用いた気管支肺胞洗浄液（BALF）測定の基礎的検討	○藤上卓馬、酒巻尚子、末武祐介、鈴木康太、松久保修、三澤千鶴、高嶋幹代、中根生弥	平成 29 年度日臨技中部圏支部医学会検査学会	2017.9.30
12	一般検査の自動化というパラダイムシフトとどう向き合う!? 飛躍的に進展する自動化～髄液検査～	○鈴木康太	平成 29 年度日臨技中部圏支部医学会検査学会	2017.9.30
13	当院における衛生管理者の職場巡視体制	○永田悠起、宇野志保、織田ちずる、長坂日登美、高嶋幹代、中根生弥	第 66 回 日本農村医学会学術総会	2017.10.5
14	臨床検査技術科の増収に向けた取り組み	○田中浩一、長坂日登美、高嶋幹代、中根生弥	第 66 回 日本農村医学会学術総会	2017.10.5
15	EUS-FNA にて認めた胃局所リンパ節内Benign epithelial inclusion (良性上皮封入体) の1例	○宮島里枝、加納由美、末武祐介、鈴木康太、田中浩一、氏平伸子、成田道彦	第 56 回日本臨床細胞学会 秋期大会	2017.11.18

講演会等講師

No.	講演会名及び演題名	演者	主催	年月日
1	日本臨床細胞学会認定施設の精度管理	末武祐介	愛知県臨床検査技師会 病理細胞検査研究班	2017.5.13
2	皆はどうやっているの? 耐性菌検出と報告の実際	永田悠起	愛知県臨床検査技師会 微生物検査研究班	2017.7.1
3	東海連合会細胞診基礎講座 (子宮内膜)	田中浩一	愛知県臨床細胞学会 細胞検査部士部会	2017.7.2
4	臨床一般検査研究会 第 15 回スキルアップ講習会	三澤千鶴	臨床一般検査研究会	2017.8.26 ～ 27
5	『喀痰培養』何を評価し、どんな情報を報告すればいい?	永田悠起	アリーアフエア	2017.9.6
6	症例検討会『輸血しないといけないのに!! こんな時どうする?』『血液型が前回と違う!』	木村有里	愛知県臨床検査技師会 輸血検査研究班	2017.11.18
7	臨床的寛解後の疾患活動性～関節エコーから見えてくるもの～	長坂日登美	三河関節エコー研究会	2017.11.25
8	日臨技・愛臨技精度管理調査から学ぶ	永田悠起	みかわん会	2017.11.23
9	平成 29 年度愛臨技精度管理調査報告【血球計数について】	酒巻尚子	愛知県臨床検査技師会 血液検査研究班	2018.2.17
10	臨床検査の変遷と地域で育てる人材育成の実践	中根生弥	石川県自治体病院協議会 特別講演	2018.2.24



No.	講演会名及び演題名	演者	主催	年月日
11	平成 29 年度愛臨技精度管理調査報告【血液検査部門】	酒巻尚子	愛知県臨床検査技師会 精度管理事業部	2018.3.17

会長・司会・座長

No.	会長・司会・座長区分	氏名	学会・研究会名	年月日
1	座長	田中浩一	第 2 回 中部圏認定病理検査技師会企画 病理技術研修会	2017.7.8
2	座長	鈴木康太	第 56 回 中部圏支部医学検査学会	2017.9.30 ～ 10.1
3	座長	中根生弥	第 66 回 日本医学検査学会	2017.6.17
4	座長	中根生弥	第 49 回 日本臨床検査自動化学会	2017.9.21
5	座長	中根生弥	第 56 回 中部圏支部医学検査学会	2017.9.30

29) リハビリテーション技術科

著書・論文

No.	題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名
1	抗 NMDA 受容体脳炎後の失調症状に対し装具療法によって食事動作が自立となった一例	○加古覚、岩附史明	愛知県作業療法第 25 巻 1 号 68 頁～73 頁

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	高齢 Wallenberg 症候群患者に対し嚥下訓練と共に運動療法、胃瘻増設、薬物療法行い経口摂取可能となった 1 例	○萩野周作、渡口賢隆	第 23 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会	2017.9.16

30) 臨床工学技術科

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	当院における医療機器の保守管理の現状	○太田委住、中前健二、兵藤好行、沖島正幸、井上宏隆、小川正博、近藤浩史、藤井夕貴、酒出篤弥、西山和芳、谷亮太、遠藤泉樹、辻川圭亮	第 27 回日本臨床工学会	2017.5.19
2	Evacure EC-4A を用いた選択的血漿交換療法の検討	○中前健二、兵藤好行、沖島正幸、井上宏隆、小川正博、近藤浩史、藤井夕貴、酒出篤弥、西山和芳、谷亮太、太田委住、遠藤泉樹、辻川圭亮	第 27 回日本臨床工学会	2017.5.21
3	当院における遠隔モニタリングシステム運用の反省点	○沖島正幸、中前健二、兵藤好行、井上宏隆、小川正博、近藤浩史、藤井夕貴、酒出篤弥、西山和芳、谷亮太、太田委住、遠藤泉樹、辻川圭亮	第 27 回日本臨床工学会	2017.5.21
4	視神経脊髄炎に対して選択的血漿交換療法を施行した 1 症例	○西山和芳、中前健二、兵藤好行、井上宏隆、沖島正幸、小川正博、近藤浩史、藤井夕貴、酒出篤弥、谷亮太、太田委住、遠藤泉樹、辻川圭亮、倉田久嗣、伊藤岳司、倉沢史門、加藤由貴	第 62 回日本透析医学会学術集会	2017.6.17

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
5	防災活動にて認識した塩素ガスの危険性と対策	○酒出篤弥、中前健二、兵藤好行、井上宏隆、沖島正幸、小川正博、近藤浩史、藤井夕貴、酒出、篤弥、谷亮太、太田委住、遠藤泉樹、辻川圭亮、倉田久嗣、伊藤岳司、倉沢史門、加藤由貴	第62回日本透析医学会学術集会	2017.6.17
6	NPPVが不要であった食道拡張による気道狭窄の経験	○沖島正幸、中前健二、都築通孝	集中治療学会第1回東海北陸支部学術集会	2017.6.24
7	当院の高気圧酸素療法の紹介（設備、施行プログラム、当番制など）	○西山和芳、中前健二、兵藤好行、井上宏隆、沖島正幸、小川正博、近藤浩史、藤井夕貴、酒出、篤弥、谷亮太、太田委住、遠藤泉樹、辻川圭亮、倉田久嗣、伊藤岳司、倉沢史門、加藤由貴	日本高気圧環境・潜水医学会 東海北陸地方会	2017.7.1
8	体外循環における抗凝固管理について	○藤井夕貴、中前健二、兵藤好行、井上宏隆、沖島正幸、小川正博、近藤浩史、藤井夕貴、酒出、篤弥、谷亮太、太田委住、遠藤泉樹、辻川圭亮、倉田久嗣、伊藤岳司、倉沢史門、加藤由貴	1st women in Cardiac Perfusion in 名古屋	2017.7.14
9	「膜詰まり、次の一手は？」～その原因と対策	○中前健二、兵藤好行、沖島正幸、井上宏隆、小川正博、近藤浩史、藤井夕貴、酒出篤弥、西山和芳、谷亮太、太田委住、遠藤泉樹、辻川圭亮	第12回東海CHDF技術検討会	2017.8.26
10	突発性難聴症例におけるHBOの有効性と予後因子の検討	○中前健二、兵藤好行、井上宏隆、沖島正幸、小川正博、近藤浩史、藤井夕貴、酒出篤弥、西山和芳、谷亮太、太田委住、遠藤泉樹	第66回日本農村医学会学術総会	2017.10.6
11	当院における腹水濾過濃縮再静注法（CART）の方法統一化	○谷亮太、中前健二、兵藤好行、井上宏隆、沖島正幸、小川正博、近藤浩史、藤井夕貴、酒出篤弥、西山和芳、太田委住、遠藤泉樹	第66回日本農村医学会学術総会	2017.10.6
12	血液浄化センターにおける塩素ガス発生の危険性と対策	○酒出篤弥、中前健二、兵藤好行、井上宏隆、沖島正幸、小川正博、近藤浩史、藤井夕貴、西山和芳、太田委住、谷亮太、遠藤泉樹、辻川圭亮	第66回日本農村医学会学術総会	2017.10.6
13	人工心肺業務教育体制の見直し	○藤井夕貴、沖島正幸、小川正博、近藤浩史、酒出篤弥、谷亮太	第43回日本体外循環技術医学会大会	2017.10.9
14	臨床工学技士に持たすべき武器～超音波検査の有用性～	○中前健二、兵藤好行、井上宏隆、沖島正幸、小川正博、近藤浩史、藤井夕貴、酒出篤弥、西山和芳、谷亮太、太田委住、遠藤泉樹、辻川圭亮	第18回中部臨床工学会	2017.11.18
15	当院における心臓植込みデバイスを有する患者のMRIオーダーの問題点	○近藤浩史、中前健二、兵藤好行、井上宏隆、沖島正幸、小川正博、藤井夕貴、酒出篤弥、西山和芳、谷亮太、太田委住、遠藤泉樹、辻川圭亮	第18回中部臨床工学会	2017.11.18



講演会等講師

No.	講演会名及び演題名	演者	主催	年月日
1	第5回 JaSECT 東海地方会学術セミナー “体外循環における我がこだわり”	中前健二	JaSECT 東海地方会	2017.7.1
2	Actual CART and Knowledge about CART that not know unexpectedly “CART の実際と豆知識”	中前健二	旭化成メディカル	2018.3.5
3	Special case of blood purification therapy “血液浄化療法の特殊事例”	中前健二	鳥居薬品	2018.3.28

会長・司会・座長

No.	会長・司会・座長区分	氏名	学会・研究会名	年月日
1	座長（血液透析 10）	中前健二	第27回日本臨床工学会	2017.5.21
2	会長	中前健二	第12回東海 CHDF 技術検討会	2017.8.26
3	座長（平成29年度アンケート報告）	中前健二	第12回東海 CHDF 技術検討会	2017.8.26

31) 栄養科

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	糖尿病ラウンドの効果についての検討と栄養士の関わり	○小林憲司、加藤大也、澤井喜邦、前田佳照、増田富、渡邊令奈、脇阪涼子、加藤美里、鈴木泰子、北村美奈、草野仁美、猪子美保、白石彩乃、川上恵美、熊谷美希	第31回糖尿病患者教育担当者セミナー	2017.9.3

32) 薬剤部

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	高用量ミダゾラムで持続的鎮静が得られなかった患者に対し、フェノバルビタールの併用が有効であった一症例【ポスター発表】	○近藤有、村松雅人、田中沙耶、横山尚美、坪井伸治	第11回日本緩和医療薬学会年会	2017.6.2～4
2	高用量ミダゾラムで持続的鎮静が得られなかった患者に対し、フェノバルビタールの併用が有効であった一症例【口頭発表】	○近藤有、村松雅人、田中沙耶、横山尚美、坪井伸治	第28回愛知県三河緩和医療研究会	2017.9.16
3	当院の手術室での薬品管理・医療材料管理への薬剤師の関わり	○中尾圭介、植松夏子、成瀬国男、坪井伸治	第66回日本農村医学会学術総会	2017.10.5～6
4	リネゾリド投与患者における血小板減少症のリスク因子の検討	○酒井幹康、成瀬国男、渡口賢隆、坪井伸治	第27回医療薬学会年会	2017.11.3～5
5	救急外来における低血糖症例の患者背景に関する検討	○猪子美保、藤森和則、間瀬悟、近藤有、坪井伸治	第27回医療薬学会年会	2017.11.3～5
6	H.pylori 除菌におけるボノプラザンの有用性に関する検討	○横山尚美、近藤有、坪井伸治	第27回医療薬学会年会	2017.11.3～5
7	当院における持参薬新運用への取り組み	○岡田智子	平成29年度第3回愛知県厚生連薬剤師会相互啓発研修会	2017.11.18

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
8	患者の訴えから気づいたシスプラチンとフロセミドの併用による耳鳴りの一症例	○間瀬悟、榊原崇芳、佐々木英雄、坪井伸治、針山由美	日本病院薬剤師会東海ブロック・日本薬学会東海支部 合同学術大会 2017	2017.11.26
9	乳がん化学療法におけるペグフィルグラスチム投与時期に関する現状調査	○佐々木英雄、間瀬悟、榊原崇芳、坪井伸治	日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2018	2018.3.17～18
10	PBPM を活用した薬剤師による HBV 再活性対策への介入	○榊原崇芳、間瀬悟、佐々木英雄、坪井伸治	日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2018	2018.3.17～18

講演会等講師

No.	講演会名及び演題名	演者	主催	年月日
1	がんサロン煌（きらめき） がんの痛みの治療に使われる痛み止めについて	近藤有	豊田厚生病院 地域医療福祉連携部	2017.12.16

33) 看護部

著書・論文

No.	題名	著者・発表者及び共同研究者	書名・雑誌名
1	状況でわかる優先順位	○吉田栄里	エマージェンシーケア 2017 7月号
2	看護師も押さえておきたい局所麻酔の基礎知識〈前編〉	○藤本歩	手術看護エキスパート 2018 1.2号 第11巻5号106頁～110頁
3	看護師も押さえておきたい局所麻酔の基礎知識〈後編〉	○藤本歩	手術看護エキスパート 2018 3・4月号第11巻6号107頁～111頁
4	新人ナースがかならずぶつかるギモン Q & A 190 2章10 視野障害	○三田洋希	ブレイン ナーシング 2018 年春季増刊号 脳神経疾患病棟

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	がん終末期の母親を持つ子どもを含めた家族ケア～看護師のソーシャルサポートにより適応要項に至った事例～	○齋藤靖子、長谷川陽子、深渡瀬幸子、高橋美智子、築瀬ゆかり、村松雅人	第21回日本緩和医療学会学術大会	2017.6.17
2	冠動脈CT検査における頸部温罨法による心拍数の変化の検証	○奥本道子、篠原香代子、伊藤めぐみ、前田美奈	第66回日本農村医学会学術総会	2017.10.5
3	ABL後の安静臥床に伴う腰痛予防に関する一考察 ～体位保持クッション使用での腰部面積に着目して～	○中根麻貴、谷由扇、池田優美、小林春菜、鈴木陽子、林真千子	第66回日本農村医学会学術総会	2017.10.5
4	トリアージの現状とあるべき姿～超高齢化を見据えて～	○吉田栄里	第19回日本救急看護学会学術集会	2017.10.7
5	当院の他職種連携チームによる医療関連圧迫創傷への取り組み	○加藤昭子、服部直樹、林真千子、浅野真奈美、吉村公博	第12回医療の質・安全学会学術集会	2017.11.25
6	ICU新人看護師の自己教育力を高める内発的・外発的動機づけとその関連	○川合舞、佐藤理恵、米澤康子、古橋美直子	平成29年度看護研究学会	2017.12.12



34) 事務部

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	がん患者に対する苦痛のスクリーニングの運用見直し	○目谷怜士	第43回日本診療情報管理学会学術大会	2017.9.22

35) 地域医療連携福祉部

学会・研究会

No.	演題名	発表者及び共同研究者	学会・研究会名	年月日
1	院内におけるアルコール問題への支援整備についての考察	○鈴木里奈	愛知県医療ソーシャルワーク学会	2018.2.10

講演会等講師

No.	講演会名及び演題名	演者	主催	年月日
1	豊田厚生病院ボランティア合同研修会「認知症のある方への接し方」	井木徹、西川裕子、白井春奈	ボランティア委員会	2017.4.13
2	日本福祉大学保健福祉特講「MSW の実際と実習について」	鈴木里奈	日本福祉大学	2017.6.3
3	あいち医療通訳派遣システム養成講座「医療保険の基礎と医療機関の仕組み」	杉村龍也	愛知県	2017.7.30
4	日本福祉大学オープンキャンパス	井上奈美	日本福祉大学	2017.7.30
5	とよた市民福祉大学 高齢者分野「高齢者介護について～今、知っておきたいこと～」	井木徹	社会福祉法人豊田市社会福祉協議会 地域福祉活動推進委員会・とよた市民福祉大学運営委員会	2017.8.5
6	とよた市民福祉大学家庭介護コース「医療・介護改正の意味するところ」～地域で支えるを考える～	杉村龍也	社会福祉法人豊田市社会福祉協議会 地域福祉活動推進委員会・とよた市民福祉大学運営委員会	2017.8.10
7	がん相談支援センター相談員基礎研修会Ⅲ副講師	杉村龍也	国立がん研究センター	2017.08.19～20
8	多文化共生勉強会「医療機関の仕組みと外国人の医療保険の活用」	杉村龍也	NPO 法人多文化共生リソースセンター東海	2017.10.29
9	平成29年度高齢者福祉研究会「出会う、つながる、認知症カフェ～認知症地域支援推進員としての取り組み～」	井木徹	愛知県厚生連本部 高齢者福祉研究会実行委員会	2017.11.18
10	浄水地区民生委員児童委員協議会「介護保険について」	井木徹、西川裕子	豊田厚生地域包括支援センター	2018.3.13
11	とよた市民福祉大学 オープンキャンパス「地域包括支援センターとは」	井木徹	とよた市民福祉大学修了生のつどい	2018.3.24

2. 院内研修活動

1) 全体講演会・全体発表会

No.	題名	講師	主催部署 主催委員会	開催日
1	第2回褥瘡予防対策委員会全体講演会「深部静脈血栓症と弾性ストッキングによる医療関連機器圧迫創傷」	血管外科部長 水野敬輔 テルモ・ビーエスエヌ株式会社 西日本エリア リージョナルマネージャー 西澤豊明 氏 医事課 福和篤	褥瘡予防対策委員会・医療安全対策委員会	2017.6.29
2	第4回医療倫理全体講演会「医療現場に求められる臨床倫理の基礎と考え方」	愛知県がんセンター中央病院 がん専門看護師 吉川恵 氏	治験倫理審査委員会	2017.7.4
3	第20回豊田がんフォーラム	名古屋大学 分子細胞免疫学教授 西川博嘉 氏	化学療法委員会	2017.7.5
4	第26回医療安全対策委員会 全体講演会「クレーム対応について」	損保ジャパン日本興亜リスクマネジメント(株) 星野智史 氏	医療安全対策委員会	2017.8.29
5	第1回臨床研究セミナーNo.1 「改正倫理指針を順守した今後の臨床研究について」	株式会社メビックス 代表取締役社長 吉田裕彦 氏	治験倫理審査委員会	2017.8.30
6	第19回感染対策委員会全体講演会「感染対策に関する話題」	帝京大学医学部 臨床研究医学講座 特任講師 藤田烈 氏	感染対策委員会	2017.10.2
7	第27回医療安全対策委員会 全体講演会「コミュニケーションエラーを防ぐはじめの一步」	株式会社システムブレイン 鎌田敏 氏	医療安全対策委員会	2017.10.26
8	第9回臓器移植倫理委員会主催全体講演会「初臓器提供から現在までの院内体制整備」	伊勢赤十字病院 手術室看護師長 中村良子	臓器移植倫理委員会	2017.11.7
9	第15回患者サービス向上委員会全体講演会「医療従事者のための接遇コミュニケーション研修」	CS マネジメントコンサルタント 松岡利恵子 氏	患者サービス向上委員会	2017.11.14
10	第2回臨床研究セミナーNo.2「改正倫理指針を順守した今後の臨床研究について」	株式会社メビックス 代表取締役社長 吉田裕彦 氏	治験倫理審査委員会	2017.12.1
11	第12回保険診療委員会全体講演会「2018年度医療介護等同時改定の概要」	株式会社ソラスト 医療事業本部 営業推進部 水谷公治 氏	保険診療委員会	2017.12.22
12	第1回栄養サポート委員会全体講演会「小児1型糖尿病患者の食事に楽しみを」「厚生労働省における糖尿病への取り組み」	独立行政法人国立病院機構 三重病院 臨床研究部 貝沼圭吾 氏	栄養サポート委員会	2018.1.12
13	第16回院内学会発表会 かも学会	内分泌・代謝内科病棟部長 加藤大也 放射線技術科 鈴木宣子 医事課 柴田雅弘 センター看護係長 吉田栄里	教育委員会	2018.1.19
14	愛知県名古屋市共催講演会「がん治療を選ぶ～いま、陽子線治療が目指すもの～」	名古屋市陽子線治療センター長 荻野氏 / 名古屋市陽子線治療センター運営企画室長 井上 氏	講演 豊田厚生病院	2018.1.21
15	第21回がんフォーラム「がん患者が最後まで歩くための運動器管理」	東京大学医学部附属病院 リハビリテーション科・部 篠田裕介 氏	緩和ケア委員会	2018.1.31



No.	題名	講師	主催部署 主催委員会	開催日
16	第1回コンプライアンス委員会全体講演会「医療従事者が理解しておくべきSNSのリスク」	株式会社 富士通マーケティング 専任講師 藤田和重	コンプライアンス委員会	2018.2.27
17	第8回豊田地域緩和ケア交流会「エンドオブライフ・ケアとアドバンスプランニング」「話し合うときに知っている便利なこと」	緩和ケア内科代表部長 村松雅人 臨床心理士 眞野香	緩和ケア委員会	2018.2.28
18	第9回豊田厚生感染症フォーラム「肺炎の予防と治療」	独立行政法人国立病院機構 三重病院 丸山貴也 氏	感染対策委員会	2018.3.6
19	第13回保険診療委員会全体講演会「平成30年度診療報酬改定の概要」	医事課 柴田雅弘 医事課 山本員也 医事課 佐々木翔哉	保険診療委員会	2018.3.15

2) 研究会・勉強会

No.	題名	講師	主催部署 主催委員会	開催日
1	JCS-ITC AHA-BLS 講習会「アメリカ心臓協会 心肺蘇生講習会」	救命救急センター長兼救急科代表部長 小林修一 循環器内科CCU部長 大橋大器 センター看護係長 吉田栄里 看護部 加藤孝	救命救急センター	2017.4.9
2	第1回平成29年4月薬剤師勉強会「保険薬局が取り組む在宅医療-現状とこれから-」	株式会社ヤナセ薬局 在宅医療部マネージャー 柴田賢三氏	薬剤部	2017.4.13
3	第41回豊田厚生病院 ICLS 講習会	救命救急センター長兼救急科代表部長 小林修一	救命救急センター	2017.4.30
4	第1回乳腺勉強会「検診発見がんの検討～画像と病理の対比～」	副院長兼地域医療福祉連携部長兼外科代表部長 久留宮康浩 病理診断科代表部長兼臨床検査科管理部長 成田道彦 外科 丹羽多恵	外科主催、放射線技術科・臨床検査技術科・地域医療連携課共催	2017.5.24
5	第1回看護部全体研修会「退院支援計画書作成UPの取り組み」	看護部長 阪口浩美 他	看護部教育委員会	2017.5.25
6	第1回看護技術研修会「膀胱留置カテーテル看護技術研修会」	外来看護課長 館向幸子 外来看護係長 池田秀子 看護部 泉 あかね 看護部 安部 範子	泌尿器科・地域医療連携課	2017.5.25
7	全国医療経営 Web セミナー「地域医療の今後と地方急性期病院のあり方」	社会医療法人近森会 理事長 近森正幸	企画課	2017.6.7
8	第2回看護技術研修会「膀胱留置カテーテル看護技術研修会」	外来看護課長 館向幸子 外来看護係長 池田秀子 看護部 泉 あかね 看護部 安部 範子	泌尿器科・地域医療連携課	2017.6.8
9	第2回平成29年6月薬剤師勉強会「虚血性心疾患の治療について」	循環器内科外来部長 窪田龍二	薬剤部	2017.6.8
10	第3回看護技術研修会「膀胱留置カテーテル看護技術研修会」	外来看護課長 館向幸子 外来看護係長 池田秀子 看護部 泉 あかね 看護部 安部 範子	泌尿器科・地域医療連携課	2017.6.15
11	第4回看護技術研修会「膀胱留置カテーテル看護技術研修会」	外来看護課長 館向幸子 外来看護係長 池田秀子 看護部 泉 あかね 看護部 安部 範子	泌尿器科・地域医療連携課	2017.7.6
12	第42回豊田厚生病院 ICLS 講習会	救命救急センター長兼救急科代表部長 小林修一	救命救急センター 外来委員会	2017.7.8
13	第2回ボランティア合同研修会「食と健康」	栄養科技師長 岩田弘幸	ボランティア委員会	2017.7.11
14	第1回豊田厚生病院吸入指導交流会	呼吸器内科代表部長 谷川吉政	呼吸器内科・薬剤部	2017.7.15
15	第69回薬剤師勉強会「こどもの病気と薬剤」	副院長兼小児科代表部長 梶田光春	薬剤部	2017.8.10

No.	題名	講師	主催部署 主催委員会	開催日
16	第2回乳腺勉強会「検診発見乳がんの検討～画像と病理の対比～」	副院長兼地域医療福祉連携部長兼外科代表部長 久留宮康浩 病理診断科代表部長兼臨床検査科管理部長 成田道彦 外科 丹羽多恵	外科主催、放射線技術科・臨床検査技術科・健康管理センター共催、地域医療連携課事務局	2017.8.23
17	第5回看護技術研修会「血管アセスメントに基づく採血・静脈注射・留置針研修会」	センター看護係長 中王子美保	地域医療連携課	2017.8.31
18	緩和ケア委員会 新規医薬用麻薬製品説明会「タペンタ錠の有用性と安全性」	ヤンセンファーマ株式会社	緩和ケア委員会	2017.9.19
19	第6回看護技術研修会「血管アセスメントに基づく採血・静脈注射・留置針研修会」	センター看護係長 中王子美保	地域医療連携課	2017.9.20
20	第3回がん看護基礎研修会	薬剤部医療情報室病棟業務課長 間瀬悟 病棟看護課長 古橋美直子 看護管理課長 林真千子 センター看護係長 中王子美保 センター看護係長 吉田栄里 放射線看護係長 佐藤修秀 看護部 藤本歩 看護部 金澤早苗 看護部 古賀智美 看護部 安居円	がん診療連携推進委員会	2017.9.23～24
21	第1回摂食嚥下研修会「嚥下機能の評価方法」	歯科口腔外科代表部長 兼子隆次 総合内科医長 渡口 賢隆 リハビリテーション技術科 吹留理香 リハビリテーション技術科 荻野周作 病棟看護係長 岩屋奈央子 看護管理課長 林真千子 栄養科 脇阪涼子	摂食嚥下推進委員会・医療安全対策委員会・栄養サポート担当者会	2017.9.25
22	第1回平成29年度放射線講習会	放射線技術科 小寺直人	放射線技術科	2017.10.12
23	第70回平成29年10月薬剤師勉強会「災害医療について」	救命救急センター長兼救急科代表部長 小林修一	薬剤部	2017.10.12
24	第7回看護技術研修会「血管アセスメントに基づく採血・静脈注射・留置針研修会」	センター看護係長 中王子美保	地域医療連携課	2017.10.18
25	第8回看護技術研修会「血管アセスメントに基づく採血・静脈注射・留置針研修会」	センター看護係長 中王子美保	地域医療連携課	2017.11.01
26	第43回豊田厚生病院 ICLS 講習会	救命救急センター長兼救急科代表部長 小林修一	救命救急センター外来委員会	2017.11.03
27	第3回ボランティア合同研修会「冬の感染対策～手洗い・防護具の実際～」	感染制御室 駒井博子	ボランティア委員会	2017.11.14
28	第3回乳腺勉強会「画像と病理の対比」	副院長兼地域医療福祉連携部長兼外科代表部長 久留宮康浩 病理診断科代表部長兼臨床検査科管理部長 成田道彦 外科 丹羽多恵	外科主催、放射線技術科・臨床検査技術科・健康管理センター・地域医療連携課共催	2017.11.15

No.	題名	講師	主催部署 主催委員会	開催日
29	第1回防災対策委員会全体説明会「当院の防災管理体制について」	副院長 篠田政典	防災対策委員会	2017.11.30
30	第2回防災対策委員会全体説明会「立ち上げ班別業務説明」	副院長 篠田政典	防災対策委員会	2017.12.4
31	第9回看護技術研修会「感染対策勉強会 STOP！感染拡大」	感染制御室 駒井博子	地域医療連携課	2017.12.6
32	平成29年度看護研究発表会	日本赤十字豊田看護大学 成人看護学教授 東野督子 氏	看護部教育委員会	2017.12.9
33	第71回平成29年12月薬剤師勉強会「災害医療について」	内分泌・代謝内科病棟部長 加藤大也	薬剤部	2017.12.14
34	第76回BLS/AED講習会「一次救命処置が必要な患者の発見から処置までのデモンストレーション」	看護部 加藤孝 看護部 姉川夏未	救命救急センター 外来委員会	2017.12.14
35	第138回救急症例検討会「救急移送症例発表会」	副院長 篠田政典	救命救急センター 外来委員会	2017.12.20
36	第44回豊田厚生病院 ICLS 講習会「BLS/モニター・電気ショック/気道管理など」	救命救急センター長兼救急科代表部長 小林修一	救命救急センター 外来委員会	2018.1.8
37	第10回看護技術研修会「感染対策勉強会 STOP！感染拡大」	感染制御室 駒井博子	地域医療連携課	2018.1.11
38	第15回緩和ケア小勉強会「在宅療養で抗がん剤治療から終末期を迎えた患者さんの関わりについて」	アガパクリニック 院長 伊藤志門	緩和ケア委員会	2018.1.20
39	第23回医療事故ワークショップ	医療安全管理部長 服部直樹	医療安全管理部	2018.1.20
40	第1回千葉大学 井上教授 講演会「平成30年度 診療報酬改定を踏まえた戦略的病院経営」	千葉大学医学部附属病院 副病院長 病院長企画室長 特任教授 井上貴裕 氏	幹部会議	2018.1.23
41	第24回医療事故ワークショップ	医療安全管理部長 服部直樹	医療安全管理部	2018.2.3
42	第72回平成30年2月薬剤師勉強会「薬物療法における有害事象-腎臓内科医の観点から-」	腎臓内科医長 伊藤岳司	薬剤部	2018.2.8
43	第11回看護技術研修会「感染対策勉強会 STOP！感染拡大」	感染制御室 駒井博子	地域医療連携課	2018.02.21
44	第76回BLS AED講習会「一次救命処置が必要な患者の発見から処置までのデモンストレーション」	看護部 岩永香 看護部 宮田 麻椰	救命救急センター 外来委員会	2018.3.8
45	第12回看護技術研修会「感染対策勉強会 STOP！感染拡大」	感染制御室 駒井博子	地域医療連携課	2018.3.8
46	平成29年度豊田加茂医師会・豊田厚生病院合同CPC	内科 小野玉美 循環器内科 井村仁美	地域医療連携課	2018.3.14

3. 市民講座・市民公開講座（一般市民対象講座）

No.	題名	講師	主催部署 主催委員会	開催日
1	第78回がんサロン煌「放射線治療について」	放射線看護係長 佐藤修秀	がん相談支援センター (医療福祉相談課)	2017.4.15
2	第24回病院食ワンポイントアドバイス 「糖質カットで美味しい料理」	栄養科技師長 岩田弘幸 栄養科 岩本拓郎 栄養科 飯田直樹	栄養科	2017.4.18
3	第25回病院食ワンポイントアドバイス 「塩分控えて美味しい料理」	栄養科技師長 岩田弘幸 栄養科 岩本拓郎 栄養科 飯田直樹 栄養科 牛田浩司	栄養科	2017.5.16
4	第79回がんサロン煌「患者さん、ご家族の心のケアについて」	臨床心理士 加藤史哲	がん相談支援センター (医療福祉相談課)	2017.5.20
5	第59回糖尿病バイキング教室	内分泌・代謝内科代表部長 澤井喜邦 臨床検査技術科 鈴木梓未 栄養科 脇阪涼子	栄養科	2017.6.21
6	第59回糖尿病バイキング教室	内分泌・代謝内科代表部長 澤井喜邦 栄養科 脇阪涼子	栄養科	2017.6.21
7	第27回病院食ワンポイントアドバイス 「低カロリーで美味しい料理」	栄養科技師長 岩田弘幸 栄養科 岩本拓郎 栄養科 飯田直樹 栄養科 牛田浩司	栄養科	2017.6.22
8	第38回ひまわり会総会	リハビリテーション技術科 鈴木香菜 おかり～な フレンズ 平川睦都美 氏	在宅酸素療法患者会 ひまわり会	2017.7.1
9	第81回がんサロン煌「がん免疫療法について」	消化器内科代表部長 都築智之	がん相談支援センター (医療福祉相談課)	2017.7.15
10	第28回病院食ワンポイントアドバイス 「塩分控えておいしい料理」	栄養科技師長 岩田弘幸 栄養科 岩本拓郎 栄養科 飯田直樹 栄養科 牛田浩司	栄養科	2017.7.27
11	第82回がんサロン煌「アドバンス・ケア・プランニングについて」	緩和ケア内科代表部長 村松雅人	がん相談支援センター (医療福祉相談課)	2017.8.19
12	第29回病院食ワンポイントアドバイス 「糖質カットで美味しい料理」	栄養科技師長 岩田弘幸 栄養科 岩本拓郎 栄養科 飯田直樹 栄養科 牛田浩司	栄養科	2017.8.24
13	第82回がんサロン煌「リンパドレナージュについて」	看護部 近藤久美子	がん相談支援センター (医療福祉相談課)	2017.9.16

No.	題名	講師	主催部署 主催委員会	開催日
14	第 23 回腎臓病教室「慢性腎臓病の知識と検査項目について～あなたの腎臓大丈夫？～」	腎臓内科医長 伊藤岳司 臨床検査技術科 高井美帆 栄養管理課長 小林憲司	栄養科	2017.9.27
15	第 30 回病院食ワンポイントアドバイス「塩分控えておいしく料理」	栄養科技師長 岩田弘幸 栄養科 岩本拓郎 栄養科 飯田直樹 栄養科 牛田浩司	栄養科	2017.9.28
16	第 35 回肝臓病教室「腸内環境について」	顧問 西村大作 栄養科技師長 岩田弘幸	栄養科	2017.10.11
17	第 84 回がんサロン煌「患者・家族でもできる疼痛緩和について」	緩和ケア認定看護師 金澤早苗	がん相談支援センター (医療福祉相談課)	2017.10.21
18	第 6 回がんを考える市民公開講座「働きながらもがん治療が受けられる時代へ」	医療福祉相談係長 杉村龍也 センター看護係長 中王子美保 副院長 鏡味良豊	がん診療連携推進委員会	2017.10.21
19	第 31 回病院食ワンポイントアドバイス「糖質カットでおいしい料理」	栄養科技師長 岩田弘幸 栄養科 岩本拓郎 栄養科 飯田直樹 栄養科 牛田浩司	栄養科	2017.10.26
20	第 8 回肥満教室「体重コントロールを考えよう！」	内分泌・代謝内科病棟部長 加藤大也 栄養科技師長 岩田弘幸	栄養科	2017.10.26
21	第 7 回緩和ケア病棟遺族会「たんぼぼの会」		5B 病棟・緩和ケア委員会	2017.11.4
22	第 85 回がんサロン煌「最近のがんの話題 がんをとりまく社会」	医療福祉相談課 夏目洋介	がん相談支援センター (医療福祉相談課)	2017.11.18
23	第 32 回病院食ワンポイントアドバイス「塩分カットでおいしく料理 冬の味覚編」	栄養科技師長 岩田弘幸 栄養科 岩本拓郎 栄養科 飯田直樹 栄養科 牛田浩司	栄養科	2017.11.22
24	第 60 回糖尿病バイキング教室	内分泌・代謝内科病棟部長 澤井善邦 薬剤部 松田詩乃 栄養科 杉浦彩紀	栄養科	2017.12.13
25	第 33 回病院食ワンポイントアドバイス「糖質カットでおいしく料理 冬の味覚編」	栄養科技師長 岩田弘幸 栄養科 岩本拓郎 栄養科 飯田直樹 栄養科 牛田浩司	栄養科	2017.12.21
26	第 35 回肥満教室「肝臓に良い生活、良くない生活」	顧問 西村大作 栄養科技師長 岩田弘幸	栄養科	2018.1.10
27	第 87 回がんサロン煌「大腸がんについて」	外科病棟部長 桐山宗泰	がん相談支援センター (医療福祉相談課)	2018.1.20



No.	題名	講師	主催部署 主催委員会	開催日
28	第34回病院食ワンポイントアドバイス 「塩分カットでおいしく料理 冬の味覚編」	栄養科技師長 岩田弘幸 栄養科 岩本拓郎 栄養科 飯田直樹 栄養科 牛田浩司	栄養科	2018.1.25
29	第88回がんサロン煌「血液がんについて」	血液内科医長 高木雄介	がん相談支援センター (医療福祉相談課)	2018.2.17
30	第5回1型糖尿病教室「大規模災害が起こったら？」	内分泌・代謝内科病棟部長 加藤大也 栄養管理課長 小林憲司	栄養科	2018.2.17
31	第5回健診スクール「脂肪肝は怖い病気？」 「脳ドックを活用してアンチエイジングを目指そう」	顧問 西村大作 神経内科代表部長 服部直樹	健康管理室	2018.2.23
32	第35回オストミー友の会「皮膚の赤み、かゆみの対処法について」	看護管理室 福岡沙織	医療福祉相談課	2018.3.15
33	第89回がんサロン煌「医療用ヴィック、外見ケアについて」	株式会社スヴェンソン 毛髪技能士 田澤直子	がん相談支援センター (医療福祉相談課)	2018.3.17
34	第21回市民公開講座「脳梗塞のサインを見逃すな！～こんなときはすぐに病院へ～」	神経内科部長 伊藤瑞規 リハビリテーション技術科 濱井均 リハビリテーション技術科 岩附史明 リハビリテーション技術科 吹留理香	教育委員会	2018.3.17

4. 学生実習等受入状況

1) 実習

受入部署(職種)	学校数	実習人員	実習延人員
各診療科(大学医学部)	4	46	302
薬剤部(大学薬学部)	3	8	440
臨床検査技術科(臨床検査技師)	2	4	92
リハビリテーション技術科	理学療法士	10	183
	作業療法士	6	45
	言語聴覚士	1	28
	計	17	256
臨床工学技術科(臨床工学技士)	3	13	81
栄養科(管理栄養士等)	12	34	276
医療福祉相談課(社会福祉士)	1	1	12
看護部(短期大学・大学・専門学校)	7	269	7,707
訪問看護ステーション(看護師等)	3	21	77
医事課/情報システム課(診療情報管理士等)	3	4	52
救命救急センター(救急救命士・消防士等)	5	18	432
保育所(看護師)	1	41	105
合計	56	476	9,832

2) 職場体験・見学

	件数	実習人員	実習延人員
大学・専門学校 等	27	245	249
高等学校	6	95	95
中学校	20	36	71
合計	53	376	415

IV 委員会活動

1. 委員会一覧

H 30 年 3 月末現在

名 称	設置 年月日	目的	開催回数
栄養食事委員会（法）（保）	S63.4.1	豊田厚生病院の行う患者の食事療養と及び、賄食に関する必要な事項を検討協議する	4 回
治験倫理審査委員会（法）	H9.4.1	委員会は病院長の諮問に応じ、審査の対象とされる治験及び臨床研究等が倫理的及び科学的に妥当であるかを審査することを目的とする。医療の倫理性と患者の人権保護に関する基本的事項を審議及び検討することを目的とする	6 回
輸血療法委員会	H10.6.1	「輸血療法の適正化に関するガイドライン」に示された望ましい輸血の管理体制に基づいた適切な輸血療法を推進する（厚生省健康政策局通知健政発第 502 号、平成元年 9 月 19 日制定「輸血療法の適正化に関するガイドライン」）	6 回
臓器移植倫理委員会	H14.4.1	医の倫理に基づき検討し、適正に実施する（平成 9 年法律第 104 号臓器移植に関する法律（平成 9 年 10 月 16 日施行））	6 回
診療録管理委員会（保）	H12.4.20	豊田厚生病院の診療録（電子カルテ含む）および印刷物に関する事項について協議し、診療録の内容の向上と適切な管理を行う	12 回
研修管理委員会（法）	H11.5.1	豊田厚生病院および関連病院、関連施設における医師臨床研修を統括管理する	3 回
臨床研修委員会（法）	H27.4.1	研修医がプライマリ・ケアの基本的な診療能力（態度、技能、知識）を身につけ、『患者に適切な医療を提供』できるようになる為に、臨床研修医プログラム、各部署、各職種間との連携及び研修医の処遇などを充実させる	12 回
歯科医師研修管理委員会（法）	H24.4.1	歯科研修医が『歯科医師として患者を全人的な視点に配慮した上で、基本的・総合的な臨床能力を修得し、患者や家族の信頼に応じられる姿勢を身に付ける』ことを主旨として、歯科医師臨床研修医プログラム、各部署、各職種間との連携及び研修医の処遇などを充実させる	2 回
栄養サポート委員会	H15.5.1	入院患者の栄養の評価と栄養改善に関する提言を行い、栄養教育を支援する	12 回
褥瘡予防対策委員会	H15.5.1	入院患者の褥瘡の発生の予防をし、既造の褥瘡の治療を集約的に行う	6 回
摂食・嚥下推進委員会	H16.4.1	豊田厚生病院における摂食・嚥下障害を有する患者の機能評価および機能回復の推進に関する事項について協議する	12 回
クリニカルパス委員会	H11.8.6	医療資源の効率的な活用と医療の質の向上を図り、クリニカルパスの作成とその運用についての協議を行い、病院の発展に寄与する	12 回
化学療法委員会	H15.10.17	豊田厚生病院の化学療法の安全かつ適正な運用を図り、診療内容の向上に寄与する	12 回
緩和ケア委員会	H16.4.1	患者の QOL に配慮して様々な苦痛や症状の緩和を図ることを検討し、緩和医療の適応基準や緩和プログラムの具体的な支援について協議する	12 回
がん診療連携推進委員会	H19.4.1	患者や家族の相談にあたる他、がんに関する専門的、学術的または総合的な研究を推進するとともに、がんの予防、診断、治療等に係る技術の向上、その他、がん医療を提供する体制の整備を図る	6 回

診療関連

	名 称	設置 年月日	目的	開催回数
診療関連	電子カルテ運用委員会	H20.2.1	豊田厚生病院における医療情報システムを円滑に運用する	7回
	認知症サポート委員会	H28.10.1	認知症の容態に応じた適時・適切な医療を提供するため、職員へ認知症患者のサポートに関する提言を行い、認知症対応能力の向上を目的とする	8回
広報・教育	教 育 委 員 会	H15.4.1	職員の知識および患者サービス向上を目的とする	12回
	ボ ラ ン テ ィ ア 委 員 会	H6.4.1	職員とボランティアの協議により、地域の人たちのための病院づくりの活動をする	6回
安全管理関連	防 災 対 策 委 員 会 (法)	H1.4.1	地震・火災・その他の災害が発生した場合に人的、物的被害を最小限に防止するため防災管理対策を徹底することを目的とする。また、災害拠点病院として常に行動できるよう調整する。	12回
	医療ガス安全管理委員会(法)	H2.4.1	医療ガス(医療の用に供する酸素、各種麻酔ガス、吸引、医用圧縮空気、窒素等をいう)設備の安全管理を図り、患者の安全を確保する	1回
	廃棄物管理委員会(法)	H10.8.1	病院としての特殊性に鑑み、廃棄物処理法及び廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理マニュアルに従って、主として感染性廃棄物を中心に、加えて一般廃棄物および産業廃棄物について、厚生連廃棄物処理規程に基づき必要な事項を定め、適正な処理を確保し、もって生活環境の保全及び公衆衛生の向上、推進を図る	1回
	感 染 対 策 委 員 会 (保)	H3.4.1	豊田厚生病院における院内感染防止に関する事項について協議し、感染対策を立案、実施する	12回
	医療安全対策委員会(保)	H12.4.1	医療事故・再発防止・対策などを検討及び具体化して、患者に安全で質の高い医療を提供する	12回
	医療事故防止対策委員会	H14.4.1	重大な医療事故への具体的対応を行い、併せて再発防止策を検討し、患者に安心と安全な診療を提供する	1回
	虐 待 対 応 委 員 会	H12.11.1	この委員会は、子ども虐待、高齢者虐待、障害者虐待、配偶者暴力(DV)の予防及び早期発見と被虐待児、被虐待者の救済を目的とする	6回
	透析機器安全管理委員会(保)	H22.4.1	血液浄化療法を安全に運用するため、関連機器の管理ならびに使用する透析液水質管理をする	3回
	コンプライアンス委員会	H25.4.1	この委員会は、コンプライアンスに関する意識の向上とコンプライアンス態勢の確立を図ることを目的とする	4回
業務改善	患者サービス向上委員会	H13.2.6	医療はサービス業であるとの認識を持って患者により良いサービスを提供する	12回
	業 務 分 担 推 進 委 員 会	H24.4.1	病院勤務医、看護職員・負担の軽減及び処遇の改善を検討することを目的とする	3回
経営関連	薬 事 委 員 会	S55.4.22	医薬品その他薬品の管理、適正使用、医療内容の向上および病院経営の発展に寄与する	6回
	医 療 材 料 委 員 会	H16.4.1	医療材料・検査試薬の管理及び適正合理化を図り、医療内容の向上、病院経営の発展に寄与する	6回
	購 買 委 員 会	H8.12.12	事業年度における固定資産枠内取得品目の選定を適正かつ円滑に行う	2回
	保 険 診 療 委 員 会	H12.4.1	診療報酬の効率的な算定、返戻・査定減に関する事項、DPCの運用、適切なコーディングに関する事項および病床管理について協議を行い、病院診療の運営に寄与する	6回

	名 称	設置 年月日	目的	開催回数
各部門運営関連	放射線安全委員会（法）	H60.10.1	法律に基づき、放射線発生装置の取扱による放射線障害の発生を防止すると共に、公共の安全を確保する	1回
	中央放射線部運営委員会	H13.6.1	中央放射線部の適正な活用と質の向上を目的とし、その運営について協議し、病院の発展に寄与する	6回
	臨床検査運営委員会（保）	H12.4.1	臨床検査の適正な活用と臨床検査の質の向上を目的とする	6回
	救命救急センター外来委員会	H15.4.8	救命救急センター外来に係る諸問題を検討し、円滑な救急医療ができる体制を整える	12回
	救命救急センター病棟委員会	H15.4.1	豊田厚生病院におけるICU・HCUの利用状況を把握し、問題点などを検討及び協議する	6回
	中央手術室運営委員会	H14.4.1	手術室の運営に関わる諸問題を検討し、円滑な手術室の運営ができる体制を整える	6回
	外来運営委員会	H20.9.26	外来の運営に関わる諸事項を検討し、円滑な外来診療ができる体制を整える	6回
	術前検査センター運営委員会	H24.8.1	術前検査センターの円滑な運営に資する	12回
	供給委員会	H27.10.1	豊田厚生病院における薬品、医療材料及び物品の適正な供給と管理を目的とする	5回
職員関連	安全衛生委員会（法）	H1.4.1	豊田厚生病院における職員の安全と健康を確保し、業務の向上と円滑な遂行を図る	12回
	保育委員会（法）	H5.4.1	愛知県健康性農業協同組合連合会 保育所管理要領第4条第3項の規程に基づき、院内保育所、病児保育室、小児病棟、その他附帯する業務の円滑な運営を行う	6回
	総務委員会（法）	H10.4.1	愛知県厚生農業協同組合連合会の規程改訂及び病院業務運営の改善向上に関する意見を集約し病院長に具申する	2回
	厚生委員会	H10.8.1	職員の親睦ならびに資質の向上と、健全明朗な環境を作り上げ、豊田厚生病院の繁栄に寄与する	12回
	人事考課制度推進委員会	H12.4.1	事業所における人事考課制度の実施・推進を目的とし、人事考課制度の円滑な運用を図る	2回
	看護職確保対策委員会	H25.4.1	看護職の確保に係ることについて検討することを目的とする	12回
特別	人間ドック健診施設機能評価受審準備委員会	H23.6.1	健診施設機能評価受審を目的とする	10回

(法)：法律に基づく設置

(保)：診療報酬に基づく設置

豊田厚生病院 平成 29 年度年報

2019 年 1 月 発行

発行・編集 愛知県厚生農業協同組合連合会
豊田厚生病院

〒 470 - 0396

愛知県豊田市浄水町伊保原 500 - 1

Tel (0565) 43 - 5000

印刷部数 290 部

印 刷 株式会社 上郷印刷



JA愛知厚生連

豊田厚生病院

TOYOTA KOSEI HOSPITAL